

| | | | | | | | | | | | | | |
|----|------|----------|-------|------|---|---|---|--|---|--|---|--|---|
| 専門 | 必修選択 | 回路工学 | K0801 | 学修単位 | 2 | 2 | | | | | | | 浅野 洋介 |
| 専門 | 必修 | 材料力学通論 | K1801 | 学修単位 | 2 | 2 | | | | | | | 奥山 彫夢 |
| 専門 | 必修 | コンピュータ科学 | K1901 | 学修単位 | 2 | | 2 | | | | | | 丸山 真 佐夫 和崎 浩幸 |
| 専門 | 必修選択 | 材料学通論 | K2201 | 学修単位 | 2 | | 2 | | | | | | 青葉 知弥 |
| 専門 | 必修 | 問題解決技法 | K2301 | 学修単位 | 1 | 1 | | | | | | | 若葉 陽一 大枝 真一 伊藤 裕一 泉 源 関口 明生 上村 繁樹 栗本 育三郎 青葉 知弥 栗本 祐司 湯谷 賢太郎 |
| 専門 | 選択 | インターンシップ | K2501 | 学修単位 | 2 | 2 | | | | | | | 大野 貴信 |
| 一般 | 必修 | 現代文明 | G0401 | 学修単位 | 2 | | | | 2 | | | | 小谷 俊博 |
| 一般 | 必修 | 技術倫理 | G0501 | 学修単位 | 2 | | | | | | 2 | | 武長 玄次郎 |
| 専門 | 選択 | 応用材料工学 | C0501 | 学修単位 | 2 | | | | | | 2 | | 青木 優介 |
| 専門 | 選択 | 応用地盤工学 | C0601 | 学修単位 | 2 | | | | 2 | | | | 鬼塚 信弘 |
| 専門 | 選択 | 環境工学特論 | C1201 | 学修単位 | 2 | | | | | | 2 | | 大久保 努 |
| 専門 | 必修 | 特別研究Ⅱ | C1401 | 学修単位 | 8 | | | | 4 | | 4 | | 青木 優介 石 建樹 上村 繁樹 大久保 努 鬼塚 信弘 島崎 彦人 湯谷 賢太郎 原田 健二 虻川 和紀 佐久間 東陽 |
| 専門 | 必修 | 特別演習Ⅱ | C1701 | 学修単位 | 2 | | | | 1 | | 1 | | 青木 優介 原田 健二 |
| 専門 | 必修選択 | 環境化学特論 | K0601 | 学修単位 | 2 | | | | 2 | | | | 佐久間 美紀 |
| 専門 | 必修 | 技術英語Ⅱ | K0701 | 学修単位 | 2 | | | | 2 | | | | 石出 忠輝 |
| 専門 | 必修選択 | 磁性材料工学 | K0901 | 学修単位 | 2 | | | | 2 | | | | 飯田 聡子 |
| 専門 | 必修 | 地震防災工学通論 | K2001 | 学修単位 | 2 | | | | | | 2 | | 鬼塚 信弘 |
| 専門 | 必修選択 | 創造設計工学 | K2101 | 学修単位 | 2 | | | | 2 | | | | 関口 明生 |

| | | | | | |
|--|---|---|--|--|--|
| 木更津工業高等専門学校 | 開講年度 | 令和05年度 (2023年度) | 授業科目 | 英語総合 | |
| 科目基礎情報 | | | | | |
| 科目番号 | G0101 | 科目区分 | 一般 / 必修 | | |
| 授業形態 | 講義 | 単位の種別と単位数 | 学修単位: 2 | | |
| 開設学科 | 環境建設工学専攻 | 対象学年 | 専1 | | |
| 開設期 | 前期 | 週時間数 | 2 | | |
| 教科書/教材 | ・ 吉塚弘ほか『BEST PRACTICE FOR THE TOEIC® L&R TEST』 成美堂、2022年 (初版)、 本体2500円+税 | | | | |
| 担当教員 | 瀬川 直美 | | | | |
| 到達目標 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 実用英検準2級以上合格またはTOEIC400点以上の英語力があることを前提に、実用英検 2級以上合格またはTOEIC500点以上を獲得可能となる総合的な英語力を身につける。 ・ 語彙集を学習することで、基礎的な語彙の定着を図る。 ・ 聞いたり読んだりして理解するという受動的な学習に加え、音読や書写といった能動的な繰り返し学習を通して、使える英語を身につける。 ・ ペアやグループにおける英語でおこなうコミュニケーション活動に参加して、積極的に英語を使うようにする。 ・ 英語でプレゼンテーションをすることを通し、自分の意見や考えをわかりやすく人に伝える技術を身につける。 | | | | | |
| ループリック | | | | | |
| | 理想的な到達レベルの目安 | 標準的な到達レベルの目安 | 未到達レベルの目安 | | |
| 評価項目 1 語彙 | 本科で学習した語彙が定着しており、英文を読む、書く、聞く、発話をする際に活用できる。 | 本科で学習した語彙が定着しており、英文を読む、書く、聞く、発話をする際にほぼ活用できる。 | 本科で学習した語彙が定着しており、英文を読む、書く、聞く、発話をする際に活用できない。 | | |
| 評価項目 2 リスニング | いろいろな発音で読まれる英語を聞いて、その内容を正確に理解して聞き取ることができる。 | いろいろな発音で読まれる英語を聞いて、その内容をほぼ正確に理解して聞き取ることができる。 | いろいろな発音で読まれる英語を聞いて、その内容を正確に理解して聞き取ることができない。 | | |
| 評価項目 3 アウトプット | 単語の発音やアクセントなどを正確に理解し、アウトプットすることができる。日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて発話することができる。 | 単語の発音やアクセントなどをほぼ正確に理解し、アウトプットすることができる。日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いてほぼ発話することができる。 | 単語の発音やアクセントなどを正確に理解することができず、アウトプットすることができない。日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて発話することができない。 | | |
| 学科の到達目標項目との関係 | | | | | |
| 専攻科課程 C-3 JABEE C-3 | | | | | |
| 教育方法等 | | | | | |
| 概要 | 本授業では、メインテキストを使用して、英語の4技能 (リスニング・リーディング・ライティング・スピーキング) の向上を図る。授業では、音声を聞いて、実際に声を出して音読したり、音声を聞いて書き取る練習なども行っていく。また、ペアやグループ学習を積極的に取り入れることで、インプットからアウトプットへつなげていくことも目的とする。授業で使用するテキストには、TESTUDYというe-learning+オンラインテストのシステムも付属しており、自主学習を通して学習内容の復習をおこなうことで、理解度を深めていく。さらに、語彙力の向上と定着を図るための自主学習も提示し、定期的に理解度の確認 (小テストなど) を実施する。 | | | | |
| 授業の進め方・方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業は、教科書を中心に各ユニットでターゲットとなっている文法項目について理解した上で、その知識を用いて各問題に取り組んでいく。 ・ 授業では、リスニング練習でインプットしたものを発話などのアウトプットへつなげていく練習も行うので、(ペアやグループなどで実施する) 活動に、積極的に参加することが非常に重要である。 ・ 語彙力強化のため、語彙学習の資料などを配布したり提示する。それらの資料で学習した内容を確認するため、定期的に小テストを実施する予定である。日程などの詳細については、授業で説明する。 | | | | |
| 注意点 | 評価については、リスニングを含む定期試験を70%、授業中に定期的実施する小テストを10%、自主学習の課題を10%、ペアやグループ学習の活動発表を10%の割合として総合的に評価する。 | | | | |
| 授業の属性・履修上の区分 | | | | | |
| <input type="checkbox"/> アクティブラーニング | | <input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用 | | <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応 | |
| <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | |
| 授業計画 | | | | | |
| | 週 | 授業内容 | 週ごとの到達目標 | | |
| 前期 | 1stQ | 1週 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義についてのガイダンス ・ 基礎英語力診断テスト | <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義における学習方法や自主学習の方法について理解する。 ・ 自分の現在の基礎英語力を知る。 ・ 語彙力向上のための自主学習方法について確認する。 | |
| | | 2週 | <ul style="list-style-type: none"> ・ Unit 1 : Restaurants ・ 語彙学習とTESTUDY (e-learning学習による復習) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 本Unitのターゲットとなっている文法項目を理解する。 ・ 各パートの問題に解答し、リスニング・リーディング力を向上させる。 ・ 声に出して音読練習をすることで、発話力の向上も図る。 ・ 自主 (語彙・e-learning) 学習を通して、語彙力や学習した内容の定着を図る。 | |
| | | 3週 | <ul style="list-style-type: none"> ・ Unit 2 : Entertainment (不定代名詞) ・ 語彙学習とTESTUDY (e-learning学習による復習) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 本Unitのターゲットとなっている文法項目を理解する。 ・ 各パートの問題に解答し、リスニング・リーディング力を向上させる。 ・ 声に出して音読練習をすることで、発話力の向上も図る。 ・ 自主 (語彙・e-learning) 学習を通して、語彙力や学習した内容の定着を図る。 | |

| | | | |
|------|-----|--|--|
| | 4週 | <ul style="list-style-type: none"> Unit 3 : Business (現在・過去の時制) 語彙学習とTESTUDY (e-learning学習による復習) | <ul style="list-style-type: none"> 本Unitのターゲットとなっている文法項目を理解する。 各パートの問題に解答し、リスニング・リーディング力を向上させる。 声に出して音読練習をすることで、発話力の向上も図る。 自主(語彙・e-learning)学習を通して、語彙力や学習した内容の定着を図る。 |
| | 5週 | <ul style="list-style-type: none"> Unit 4 : The Office (現在完了) 語彙学習とTESTUDY (e-learning学習による復習) | <ul style="list-style-type: none"> 本Unitのターゲットとなっている文法項目を理解する。 各パートの問題に解答し、リスニング・リーディング力を向上させる。 声に出して音読練習をすることで、発話力の向上も図る。 自主(語彙・e-learning)学習を通して、語彙力や学習した内容の定着を図る。 |
| | 6週 | <ul style="list-style-type: none"> Unit 5 : Telephone (前置詞[時・時期]) 語彙学習とTESTUDY (e-learning学習による復習) | <ul style="list-style-type: none"> 本Unitのターゲットとなっている文法項目を理解する。 各パートの問題に解答し、リスニング・リーディング力を向上させる。 声に出して音読練習をすることで、発話力の向上も図る。 自主(語彙・e-learning)学習を通して、語彙力や学習した内容の定着を図る。 |
| | 7週 | <ul style="list-style-type: none"> Unit 6 : Letters & E-mails 語彙学習とTESTUDY (e-learning学習による復習) | <ul style="list-style-type: none"> 本Unitのターゲットとなっている文法項目を理解する。 各パートの問題に解答し、リスニング・リーディング力を向上させる。 声に出して音読練習をすることで、発話力の向上も図る。 自主(語彙・e-learning)学習を通して、語彙力や学習した内容の定着を図る。 |
| | 8週 | <ul style="list-style-type: none"> Reviewと確認テスト1 (前期中間試験) ペア・グループ学習活動についての概要説明 | <ul style="list-style-type: none"> 前半までの学習内容の理解度を確認し、後半の学習意欲につなげる。 後半で実施するペア・グループ学習について理解し、準備を始める。 |
| 2ndQ | 9週 | <ul style="list-style-type: none"> 確認テスト1の結果と解説 Unit 7 : Health (数量形容詞) ペア・グループ学習 | <ul style="list-style-type: none"> 本Unitのターゲットとなっている文法項目を理解する。 各パートの問題に解答し、リスニング・リーディング力を向上させる。 声に出して音読練習をすることで、発話力の向上も図る。 ペア・グループ学習を通して、使える英語を身につける。 |
| | 10週 | <ul style="list-style-type: none"> Unit 8 : The Bank & The Post Office (自動詞と他動詞) ペア・グループ学習 | <ul style="list-style-type: none"> 本Unitのターゲットとなっている文法項目を理解する。 各パートの問題に解答し、リスニング・リーディング力を向上させる。 声に出して音読練習をすることで、発話力の向上も図る。 ペア・グループ学習を通して、使える英語を身につける。 |
| | 11週 | <ul style="list-style-type: none"> Unit 9 : New Products (接尾辞と品詞-形容詞) ペア・グループ学習 | <ul style="list-style-type: none"> 本Unitのターゲットとなっている文法項目を理解する。 各パートの問題に解答し、リスニング・リーディング力を向上させる。 声に出して音読練習をすることで、発話力の向上も図る。 ペア・グループ学習を通して、使える英語を身につける。 |
| | 12週 | <ul style="list-style-type: none"> Unit 10 : Travel (接尾辞と品詞-副詞) グループ学習活動の発表 | <ul style="list-style-type: none"> 本Unitのターゲットとなっている文法項目を理解する。 各パートの問題に解答し、リスニング・リーディング力を向上させる。 声に出して音読練習をすることで、発話力の向上も図る。 ペア・グループ学習を通して、使える英語を身につける。 |
| | 13週 | <ul style="list-style-type: none"> Unit 11 : Daily Life (分詞構文) グループ学習の活動発表 | <ul style="list-style-type: none"> 本Unitのターゲットとなっている文法項目を理解する。 各パートの問題に解答し、リスニング・リーディング力を向上させる。 声に出して音読練習をすることで、発話力の向上も図る。 ペア・グループ学習を通して、使える英語を身につける。 |
| | 14週 | <ul style="list-style-type: none"> Unit 12 : Job Applications (比較) グループ学習活動の発表 Review | <ul style="list-style-type: none"> 本Unitのターゲットとなっている文法項目を理解する。 各パートの問題に解答し、リスニング・リーディング力を向上させる。 声に出して音読練習をすることで、発話力の向上も図る。 ペア・グループ学習を通して、使える英語を身につける。 |
| | 15週 | 確認テスト2 (前期末試験) | 後半で学習した内容の理解度を確認する。 |

| | | | | |
|--|--|-----|-----------------|--|
| | | 16週 | 試験結果の返却と解説、総まとめ | <ul style="list-style-type: none"> ・不足していた知識などを確認し、今後の英語学習につなげる。 ・ペア・グループ学習について振り返り、学習成果を確認する。 ・自主学習の振り返りをおこなう。 |
|--|--|-----|-----------------|--|

| 評価割合 | | | | | |
|--------|----|----------|-------|----|-----|
| | 試験 | リスニングテスト | 単語テスト | 課題 | 合計 |
| 総合評価割合 | 70 | 10 | 10 | 10 | 100 |
| 基礎的能力 | 70 | 10 | 10 | 10 | 100 |

| | | | | |
|--|--|--|--------------------------------------|--|
| 木更津工業高等専門学校 | 開講年度 | 令和05年度 (2023年度) | 授業科目 | 人間と文化 |
| 科目基礎情報 | | | | |
| 科目番号 | G0201 | 科目区分 | 一般 / 必修 | |
| 授業形態 | 講義 | 単位の種別と単位数 | 学修単位: 2 | |
| 開設学科 | 環境建設工学専攻 | 対象学年 | 専1 | |
| 開設期 | 後期 | 週時間数 | 2 | |
| 教科書/教材 | なし (必要に応じて、随時プリントを配布する。) | | | |
| 担当教員 | 田嶋 彩香 | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 1. 基本的な文学理論を習得し、文学作品を多角的に捉える力を身に付ける。 2. 資料を活用しながら、文学作品の奥深さを追究し、そこから見える人々の生活や文化を、自らの力で発見することができる。 3. 調査・発表を通じて人々の生活や文化を多角的に捉え直し、自らの考えを深めてわかりやすく伝えることができる。 | | | | |
| ルーブリック | | | | |
| | 理想的な到達レベルの目安 | 標準的な到達レベルの目安 | 未到達レベルの目安 | |
| 評価項目1 | 課題テーマに基づき、人々の生活や文化を多角的に捉え直し、独自の観点で調査することができる。 | 課題テーマに基づき、人々の生活や文化を捉え直し、調査することができる。 | 課題テーマに基づき、人々の生活や文化を捉え直し、調査することができない。 | |
| 評価項目2 | 調査や発表の内容を精緻にまとめ、他者に強く訴える文章を書くことができる。 | 調査や発表の内容を的確にまとめ、わかりやすく書くことができる。 | 調査や発表の内容を的確にまとめ、わかりやすく書くことができない。 | |
| 評価項目3 | 異分野の人と協力しながら、問題解決に向けた発表を行い、実践的な活動につなげることができる。 | 異分野の人と協力しながら、問題解決に向けた発表を行うことができる。 | 異分野の人と協力しながら、問題解決に向けた発表を行うことができない。 | |
| 学科の到達目標項目との関係 | | | | |
| 専攻科課程 A-1 専攻科課程 C-1 専攻科課程 D-3 JABEE A-1 JABEE C-1 JABEE D-3 | | | | |
| 教育方法等 | | | | |
| 概要 | 本授業では、あえて学生の皆さんにはあまり馴染みがない (かもしれない) 日本の近代文学作品を扱い、文学理論や文献調査の基礎的な方法を、作業や調査、グループディスカッションを通じて習得することを目指す。明治・大正・昭和初期の古い作品ばかり扱うが、読むための姿勢や分析するためのスキルを身に付けていくので、安心して学び楽しんでほしい。 | | | |
| 授業の進め方・方法 | ①基本は、スライドを使って授業を行う。 ②授業のなかで課題を提示し、調査を踏まえ小レポートを書いてもらう。 ③小レポートをもとにグループごとに議論と調査を深めていく。 ④議論と調査に基づいて発表を行い、レポートにまとめる。試験は実施せず、発表については相互評価を行う予定。 ⑤扱う小説は多岐にわたるため「授業計画」に示していないが、参考として青空文庫 (インターネット上の無料電子図書館) で読める作品を載せておく。授業内で全作品の全文を共に読むことはできないので、余裕のある人は事前にふれておくことをおすすめする。作品の並びは、授業で扱う順番を意識したがあまり気にしなくてもよい。 ■夢野久作『瓶詰地獄』/ 田山花袋『少女病』/ 蒲団 / 宮沢賢治『草トランク』/ 太宰治『女生徒』『女類』/ 林芙美子『放浪記』 | | | |
| 注意点 | ①専攻分野に固執することなく、社会的な観点から様々なものの見方や考え方に興味・関心を持つことが大切である。 ②調査・発表では、伝え方を工夫し、独自の視点から新しい発見と具体的な提案を目指してほしい。 ③授業90分に対して180分以上の時間をかけてグループで調査や討議を重ね、プレゼン等の準備を行うこと。 ④授業内容や方法は、新型コロナウイルス感染の拡大など社会情勢の変化によって変更する可能性もあるが、その都度お知らせをする。 | | | |
| 授業の属性・履修上の区分 | | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング | | <input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用 | | <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応 |
| <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | |
| 授業計画 | | | | |
| | | 週 | 授業内容 | 週ごとの到達目標 |
| 後期 | 3rdQ | 1週 | ガイダンス (テキストを読む) とは | 授業の進め方、レポートの取り組み方等を把握・理解する。 文学研究として (テキストを読む) とはということか理解する。 |
| | | 2週 | 小説① グループによる議論① | テキストを (読む) 過程で形成される解釈を体験する。 ディスカッションの方法を学ぶ。 |
| | | 3週 | 小説① グループによる議論② | テキストの (余白) とは、タイトルは何を意味するか考える。 ディスカッションの方法を学ぶ。 |
| | | 4週 | 小説② | 文学理論の基礎 (歴史のコンテキスト) を理解する。 |
| | | 5週 | 小説② | 文学理論の基礎 (歴史のコンテキスト) を理解する。 |
| | | 6週 | 小説③ | 文学理論の基礎 (語り手) (作者) (語り) を理解する。 |
| | | 7週 | 小説③ | 文学理論の基礎 (語り手) (作者) (語り) を理解する。 |
| | | 8週 | 小説④ | 文学理論の基礎 (活字) (挿絵) を理解する。 |
| | 4thQ | 9週 | 小説④ | 文学理論の基礎 (活字) (挿絵) を理解する。 |
| | | 10週 | 文献調査の方法 グループによる調査と議論 | 文献調査の方法を学ぶ。 与えられた課題に沿って、情報を整理し、ディスカッションの方法を学ぶ。 |
| | | 11週 | グループ発表① | グループによる発表と議論を行い、相互評価を通じて各テーマの基本情報を理解する。 |
| | | 12週 | グループ発表② | グループによる発表と議論を行い、相互評価を通じて各テーマの基本情報を理解する。 |

| | | | |
|--|-----|---------|---|
| | 13週 | グループ発表③ | グループによる発表と討論を行い、相互評価を通じて各テーマの基本情報を理解する。 |
| | 14週 | グループ発表④ | グループによる発表と討論を行い、相互評価を通じて各テーマの基本情報を理解する。 |
| | 15週 | 発表の総括 | 各グループの発表内容を振り返り、包括的な問題点を把握する。 |
| | 16週 | 総括 | 全授業を振り返りながら、近代文学関係の映像資料を見て、文学への親しみを深める。 |

評価割合

| | レポート | 発表 | 相互評価 | 態度 | ポートフォリオ | その他 | 合計 |
|---------|------|----|------|----|---------|-----|-----|
| 総合評価割合 | 60 | 20 | 20 | 0 | 0 | 0 | 100 |
| 基礎的能力 | 60 | 20 | 20 | 0 | 0 | 0 | 100 |
| 専門的能力 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 分野横断的能力 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

| | | | | | |
|---|--|---|--|--|----------|
| 木更津工業高等専門学校 | | 開講年度 | 令和05年度 (2023年度) | 授業科目 | ドイツ語演習 I |
| 科目基礎情報 | | | | | |
| 科目番号 | G2601 | | 科目区分 | 一般 / 選択 | |
| 授業形態 | 演習 | | 単位の種別と単位数 | 学修単位: 1 | |
| 開設学科 | 環境建設工学専攻 | | 対象学年 | 専1 | |
| 開設期 | 前期 | | 週時間数 | 1 | |
| 教科書/教材 | Schritte. plus 3, A2/1, Kursbuch + Arbeitsbuch (Hueber Verlag, 2020)、独和辞典 | | | | |
| 担当教員 | 柴田 育子 | | | | |
| 到達目標 | | | | | |
| ドイツ語の読解力の向上 (独検2級、およびCEFR A2・B1レベルの読解力の習得) ドイツ語の聞き取りの力の向上 (独検2級、およびCEFR A2・B1レベルの聞き取り力の習得) ドイツ語の筆記力の向上 (独検2級、およびCEFR A2・B1レベルの筆記力の習得) 会話力の向上 ドイツ語会話力の向上 (独検2級、およびCEFR A2・B1レベルの会話力の習得) | | | | | |
| ルーブリック | | | | | |
| | 理想的な到達レベルの目安 | 標準的な到達レベルの目安 | あと一歩(可) | もっと努力(不可) | |
| 評価項目1 | ドイツ語の中級レベルの文法事項を習得している。(独検2級レベル) | ドイツ語の中級レベルの文法事項をほぼ習得している。(独検2級レベル) | ドイツ語の中級レベルの文法事項を概ね習得している。(独検2級レベル) | ドイツ語の中級レベルの文法事項を習得していない。(独検2級レベル) | |
| 評価項目2 | ドイツ語発音の規則にしたがい、イントネーションに配慮してよどみなくドイツ語を読むことができる。 | ドイツ語発音の規則から多少逸脱することもあるが、イントネーションに配慮してドイツ語を読むことができる。 | ドイツ語発音の規則から多少逸脱することもあるが、内容理解を妨げないレベルでドイツ語を読むことができる。 | ドイツ語発音の規則からの逸脱が著しく、発しているドイツ語を聞き手が理解できない。 | |
| 評価項目3 | ドイツ語でGER:A2・B1 (中級) レベルの会話表現ができる。 | ドイツ語でGER:A2・B1 (中級) レベルの会話表現がほぼできる。 | ドイツ語でGER:A2・B1 (中級) レベルの会話表現が概ねできる。 | ドイツ語でGER:A2・B1 (中級) レベルの会話表現がほとんどできない。 | |
| 評価項目4 | ドイツ語でGER:A2・B1 (中級) レベルの単語を習得している。 | ドイツ語でGER:A2・B1 (中級) レベルの単語をほぼ習得している。 | ドイツ語でGER:A2・B1 (中級) レベルの単語を概ね習得している。 | ドイツ語でGER:A2・B1 (中級) レベルの単語をほとんど習得していない。 | |
| 学科の到達目標項目との関係 | | | | | |
| 専攻科課程 C-3 JABEE C-3 | | | | | |
| 教育方法等 | | | | | |
| 概要 | 欧州言語共通参照枠A2+に対応したテキストSchritte. plus 3を使い、ドイツ語の読解力、聴解力、筆記力、会話力の更なる向上を目指す。ドイツ語検定2級・欧州言語共通参照枠B1合格が可能となる総合的なドイツ語を身につける。本授業では、Kreatives Schreiben (クリエイティブライティング)、ドイツ語を「書く力」を向上させることに重点を置く。自らでテーマを決め、そのテーマについて600語程度の論理的な文章・ドイツ語記事を執筆できるようになる。本授業の最後には、受講者が自ら決めたテーマに沿ってドイツ語作文を提出する。 | | | | |
| 授業の進め方・方法 | 4名程度のグループを作り、演習形式で授業を進める。授業内で提示された課題を、1)個人、2)ペア、3)グループで解いていく。 ドイツ語の聴解力を高めるため、Deutsche Welleのtelenovla (1回5分程度) を毎回視聴する。 ドイツ語の会話力を高めるため、ドイツ語のプレゼンテーションを実施する。 ドイツ社会と文化をより良く理解し、実践的なドイツ語に慣れるため、Projektunterrichtを実施する。 学習到達度を確認するため授業毎に小テストを実施する。授業開始時に5分程度。 | | | | |
| 注意点 | ドイツ語ⅡA・B/ⅢA・Bからの継続受講を基本とする。ドイツ語ⅡA・B/ⅢA・Bで習得した中級レベルのドイツ語の文法事項、CEFR A2レベルの語彙力を習得していることが必要である。 独検3・2級、およびGER:A2・B1の学習内容のレベルに沿ったドイツ語を学習する。 | | | | |
| 授業の属性・履修上の区分 | | | | | |
| <input type="checkbox"/> アクティブラーニング <input type="checkbox"/> ICT 利用 <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | |
| 授業計画 | | | | | |
| | 週 | 授業内容 | 週ごとの到達目標 | | |
| 前期 | 1週 | 授業ガイダンス | 自己紹介や他者紹介。これまで学んできた、ドイツ語やドイツ語圏の文化や生活のどのようなことに特に興味を抱いているのかを、第三者にドイツ語で説明する。 | | |
| | 2週 | Lektion 1 Kennenlernen Folge 1: MARIA | Familie, Land, Wohnort und Lebensformenに関する語彙を増やす (目標50語)。Familie, Land, Wohnort und Lebensformenについて、ドイツ語で説明する。(ドイツ語会話力の向上) | | |
| | 3週 | Lektion 1 Kennenlernen Folge 1: MARIA | 接続詞weil, deshalb, dennを用いて、文章を数多く作ることができる。sein, habenを使った現在完了形について復習する。(ドイツ語表現力の向上) | | |
| | 4週 | Lektion 1 Kennenlernen Folge 1: MARIA | 接続詞weil, dennを用いて、文章を数多く作ることができる。sein, habenを使った現在完了形について復習する。(ドイツ語表現力/文法力の向上) | | |
| | 5週 | Lektion 1 Kennenlernen Folge 1: MARIA | 理由を述べる表現について学ぶ。自分の意見を根拠づける表現がドイツ語でできるようになる。Genetivの表現について学ぶ。 | | |
| | 6週 | Lektion 2 Zu Hause Folge 2: Wieder was gelernt! | Wohnung, Miethausに関する語彙を増やす (目標50語)。Verben mit Wechselpräpositionについて学び、語彙を増やす (目標30表現)。(ドイツ語表現力/文法力の向上) | | |
| | 7週 | Lektion 2 Zu Hause Folge 2: Wieder was gelernt! | Miethausでの隣人との会話を、シミュレーションしてみよう。ドイツの住居事情について詳しく学ぶ。(Landeskunde/Partnerarbeit;会話力の向上) | | |

| | | | | |
|------|--|-----|--|--|
| | | 8週 | Lektion 2 Zu Hause Folge 2: Wieder was gelernt! | Direktionanadverben: hierhin, dahin, dorthin, rein, raus, runter, ...を使った表現を習得する。(ドイツ語表現力の向上) |
| 2ndQ | | 9週 | Lektion 2 Zu Hause Folge 2: Wieder was gelernt! | MiethausでのさまざまなMitteilungenを読む。(ドイツ語読解力の向上) |
| | | 10週 | Lektion 3 Essen und Trinken Folge 3: Tee oder Kaffee? | Essen (食事) と Trinken (飲み物) に関する語彙を増やす (目標50語)。 |
| | | 11週 | Lektion 3 Essen und Trinken Folge 3: Tee oder Kaffee? | 疑問詞を使った表現のヴァリエーションを増やす。3・4格支配の前置詞について復習する。 |
| | | 12週 | Lektion 3 Essen und Trinken Folge 3: Tee oder Kaffee? | レストランでの会話を、シミュレーションしてみる。Partnerarbeit; (ドイツ語会話力と発音の向上) |
| | | 13週 | Lektion 3 Essen und Trinken Folge 3: Tee oder Kaffee? | Ich essen nie Fleisch. のテキストを読み、ドイツのベジタリアンカルチャーについて理解する。またそれについての自分の見解をドイツ語で述べる。(ドイツ語読解力・表現力の向上) |
| | | 14週 | Projektunterricht | Kennenlernen, Zu Hause, Essen und Trinkenについて学習してきた内容に関連するプロジェクト授業を行う。 |
| | | 15週 | Projektunterricht | Kennenlernen, Zu Hause, Essen und Trinkenについて学習してきた内容に関連するプロジェクト授業を行う。 |
| | | 16週 | 期末試験 | これまでに学習した内容の到達度を確認する。 |

評価割合

| | 試験 | 発表 | 相互評価 | 態度 | ポートフォリオ | その他 | 合計 |
|---------|----|----|------|----|---------|-----|-----|
| 総合評価割合 | 70 | 0 | 0 | 0 | 0 | 30 | 100 |
| 基礎的能力 | 70 | 0 | 0 | 0 | 0 | 30 | 100 |
| 専門的能力 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 分野横断的能力 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

| | | | | | |
|--|--|--|---|---|---------|
| 木更津工業高等専門学校 | | 開講年度 | 令和05年度 (2023年度) | 授業科目 | ドイツ語演習Ⅱ |
| 科目基礎情報 | | | | | |
| 科目番号 | G2701 | | 科目区分 | 一般 / 選択 | |
| 授業形態 | 演習 | | 単位の種別と単位数 | 学修単位: 1 | |
| 開設学科 | 環境建設工学専攻 | | 対象学年 | 専1 | |
| 開設期 | 後期 | | 週時間数 | 1 | |
| 教科書/教材 | Schritte. plus 3, A2/1: Kursbuch + Arbeitsbuch 2 (Hueber, 2019). 独和辞典 | | | | |
| 担当教員 | 柴田 育子 | | | | |
| 到達目標 | | | | | |
| ドイツ語の読解力の向上 (独検2級、およびCEFR B1レベルの読解力の習得) ドイツ語の聞き取り力の向上 (独検2級、およびCEFR B1レベルの聞き取り力の習得) ドイツ語の筆記力の向上 (独検2級、およびCEFR B1レベルの筆記力の習得) 会話力の向上 ドイツ語会話力の向上 (独検2級、およびCEFR B1レベルの会話力の習得) | | | | | |
| ルーブリック | | | | | |
| | 目標以上達成(優) | 目標達成(良) | あと一歩(可) | もっと努力 (不可) | |
| 評価項目1 | ドイツ語の中級レベルの基本文法事項を習得している。(独検2級レベル) | ドイツ語の中級レベルの文法事項をほぼ習得している。(独検2級レベル) | ドイツ語の中級レベルの文法事項を概ね習得している。(独検2級レベル) | ドイツ語の中級レベルの文法事項を習得していない。(独検2級レベル) | |
| 評価項目2 | ドイツ語発音の規則性やアクセント、イントネーションのパターンを習得している。 | ドイツ語発音の規則性やアクセント、イントネーションのパターンをほぼ習得している。 | ドイツ語発音の規則性やアクセント、イントネーションのパターンを概ね習得している。 | ドイツ語発音の規則性やアクセント、イントネーションのパターンをほとんど習得していない。 | |
| 評価項目3 | ドイツ語でGER:B1レベルの会話表現ができる。 | ドイツ語でGER:B1レベルの会話表現がほぼできる。 | ドイツ語でGER:B1レベルの会話表現が概ねできる。 | ドイツ語でGER:A2レベルの会話表現がほとんどできない。 | |
| 評価項目4 | ドイツ語でGER:B1レベルの単語を習得している。 | ドイツ語でGER:B1レベルの単語をほぼ習得している。 | ドイツ語でGER:B1レベルの単語を概ね習得している。 | ドイツ語でGER:A2レベルの単語をほとんど習得していない。 | |
| 学科の到達目標項目との関係 | | | | | |
| 専攻科課程 C-3 JABEE C-3 | | | | | |
| 教育方法等 | | | | | |
| 概要 | 欧州言語共通参照枠A2に対応したテキストSchritte plus 3を使い、ドイツ語の読解力、聴解力、筆記力、会話力の向上を目指す。ドイツ語検定2級・欧州言語共通参照枠B1合格が可能となる総合的なドイツ語を身につける。 | | | | |
| 授業の進め方・方法 | 4名のグループを作り、演習形式で授業を進める。授業内で提示された課題を、1)個人、2)ペア、3)グループで解いていく。 ドイツ語の聴解力を高めるため、Deutsche Welleのtelenovla (1回5分程度)を毎回視聴する。 ドイツ語の会話力を高めるため、年4回の口頭試験およびドイツ語プレゼンテーションを実施する。 ドイツ社会と文化をより良く理解するため、年間4回程度、Projektunterrichtを実施する。 ドイツ社会と文化をより良く理解し、実践的なドイツ語に慣れるため、Projektunterrichtを実施する。 学習到達度を確認するため授業毎に小テストを実施する。授業開始時に5分程度。 | | | | |
| 注意点 | ドイツ語Ⅱの評価点が高いか否かは履修条件とはならないが、ドイツ語Ⅱで学習した文法事項、語彙力を修得していることは必要である。 独検2級、およびGER:A2・B1の学習内容のレベルに沿ったドイツ語を学習する。 | | | | |
| 授業の属性・履修上の区分 | | | | | |
| <input type="checkbox"/> アクティブラーニング <input type="checkbox"/> ICT 利用 <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | |
| 授業計画 | | | | | |
| | 週 | 授業内容 | 週ごとの到達目標 | | |
| 後期 | 3rdQ | 1週 | Lektion 4 Arbeitswelt Folge 4: Lohnsteuerkarte | 仕事・職業に関する語彙を増やす(目標50語)。ドイツ語の再帰動詞・再帰代名詞について学ぶ。再帰表現を使って文章を作成することができる。 | |
| | | 2週 | Lektion 4 Arbeitswelt Folge 4: Lohnsteuerkarte | 接続詞wennを使った表現を学ぶ。wennを使った文章をできるだけたくさん実際に作ってみる(目標10文)。 | |
| | | 3週 | Lektion 4 Arbeitswelt Folge 4: Lohnsteuerkarte | 定冠詞類・所有冠詞類の活用について理解し、実際に文章を作って表現することができる。(ドイツ語表現力の向上) | |
| | | 4週 | Lektion 4 Arbeitswelt Folge 4: Lohnsteuerkarte | Telefongespräche am Arbeitsplatz に関するリスニング問題を解く。その後、その場面での会話をシミュレーションしてみる。Partnerarbeit: (ドイツ語会話力の向上) | |
| | | 5週 | Lektion 5 Sport und Fitness Folge 5: Gymnastik | Sport, Sportarten, Gesundheitに関する語彙を増やす(目標50語)。ドイツのSport und Fitness事情について理解する(Landeskunde)。 | |
| | | 6週 | Lektion 5 Sport und Fitness Folge 5: Gymnastik | 助動詞の過去形の活用の復習、dass, weilを使った副文の復習をし、できるだけたくさん文章を作ってみる。ドイツ語の語順の特性について考える。 | |
| | | 7週 | Lektion 5 Sport und Fitness Folge 5: Gymnastik | 動詞+前置詞のFeste Verbindungenのストックを増やす(目標50語)。接続詞について復習し、副文を含む文章を、実際に文章を作ってみる。(ドイツ語表現力の向上) | |
| | | 8週 | Lektion 5 Sport und Fitness Folge 5: Gymnastik | ドイツでのSportvereinについての情報を入手し、登録する。Sportvereinに電話して登録する場面をシミュレーションしてみる。Partnerarbeit: (ドイツ語会話力の向上) | |

| | | | |
|------|-----|---|---|
| 4thQ | 9週 | Lektion 6 Schule und Ausbildung Folge 6: Zwischenzeugnis | Schule, Ausbildung, Karriereに関する語彙を増やす(目標50語)。ドイツの教育システムに関する文章を読み、その内容を理解する。(ドイツ語読解力の向上、Landeskunde) gefallen+3格を使った表現をマスターする。3格を使 |
| | 10週 | Lektion 6 Ausbildung und Karriere Folge 6: Zwischenzeugnis | gefallen+3格を使った表現をマスターする。3格を使った文章表現についてのストックを増やす(目標20語)。3格を取る動詞について復習する。 |
| | 11週 | Lektion 6 Ausbildung und Karriere Folge 6: Zwischenzeugnis | 比較級・最上級を使った表現について学ぶ。最上級を使って、実際に文章を作ってみる。(ドイツ語表現力の向上) |
| | 12週 | Lektion 6 Ausbildung und Karriere Folge 6: Zwischenzeugnis | 接続法Ⅱ式について学習する。接続法Ⅱ式を使った文章を実際に作ってみる(目標10文)。 |
| | 13週 | Lektion 7 Feste und Geschenke Folge 7: Tante Erika | Feste(祝い事)やGeschenke(プレゼント)に関する語彙を増やす(目標50語)。ドイツの祝日や休暇について学び、日本との違いについてドイツ語の文章で表現できる。(ドイツ語筆記力の向上、Landeskunde) |
| | 14週 | Lektion 7 Feste und Geschenke Folge 7: Tante Erika | ドイツのHochzeit(結婚式)についての文章を読み、日本との習慣の違いについて考え、ドイツ語の文章で表現する。(ドイツ語読解力・筆記力の向上) |
| | 15週 | Lektion 7 Feste und Geschenke Folge 7: Tante Erika | ドイツ語の検定試験に合格し、友達にそのお祝いパーティをしてもらう場面について、会話をシミュレーションしてみる。Partnerarbeit:(ドイツ語会話力の向上) |
| | 16週 | 期末試験 | これまでに学習した内容の到達度を確認する。 |

評価割合

| | 試験 | 発表 | 相互評価 | 態度 | ポートフォリオ | その他 | 合計 |
|---------|----|----|------|----|---------|-----|-----|
| 総合評価割合 | 70 | 0 | 0 | 0 | 30 | 0 | 100 |
| 基礎的能力 | 70 | 0 | 0 | 0 | 30 | 0 | 100 |
| 専門的能力 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 分野横断的能力 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

| | | | | | | | |
|--|---|---------------------------------|------------------------------------|--|-----------------|---|-----|
| 木更津工業高等専門学校 | | 開講年度 | 令和05年度 (2023年度) | 授業科目 | 応用構造工学 | | |
| 科目基礎情報 | | | | | | | |
| 科目番号 | C0401 | | 科目区分 | 専門 / 選択 | | | |
| 授業形態 | 講義 | | 単位の種別と単位数 | 学修単位: 2 | | | |
| 開設学科 | 環境建設工学専攻 | | 対象学年 | 専1 | | | |
| 開設期 | 前期 | | 週時間数 | 2 | | | |
| 教科書/教材 | プリント配布 | | | | | | |
| 担当教員 | 石井 建樹 | | | | | | |
| 到達目標 | | | | | | | |
| 応力, ひずみ, 構成則について理解でき, 有限要素法の基本的な考え方を理解できる. | | | | | | | |
| ルーブリック | | | | | | | |
| | 理想的な到達レベルの目安 | | 標準的な到達レベルの目安 | | 未到達レベルの目安 | | |
| 応力, ひずみ | 応力, ひずみをテンソルとして理解できる. | | 応力, ひずみを理解できる. | | 応力, ひずみを理解できない. | | |
| 構成則 | 構成則の役割を正しく理解できる | | 構成則の概念を理解できる. | | 構成則の概念を理解できない. | | |
| 有限要素法 | 要素, 物理法則などの有限要素法における概念を正しく理解できる | | 要素, 物理法則などの役割を理解し, 有限要素法のイメージができる. | | 有限要素法をイメージできない. | | |
| 学科の到達目標項目との関係 | | | | | | | |
| 専攻科課程 B-2 JABEE B-2 | | | | | | | |
| 教育方法等 | | | | | | | |
| 概要 | 固体力学を例として, 物理法則や有限要素などの考え方を学び, 有限要素法の全体像とその算出結果について学ぶ. | | | | | | |
| 授業の進め方・方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業90分に対して, 倍以上の予習及び復習を行うこと. ・これまで学習した力学に関する知識を整理しながらまとめ直すことが望ましい. ・補助教科書として, 以下の書籍を挙げておくので, 適宜, 理解の助けとすること. <ul style="list-style-type: none"> (2)車谷・寺田著『例題で学ぶ有限要素解析』森北出版, 2021年 (1)酒井ら著『実践有限要素法シミュレーション』森北出版, 2008年 (2)A First Course in Finite Elements, J. Fish and T. Belytschko(訳本:有限要素法,山田 貴博監訳,永井学士,松井和己訳)他 | | | | | | |
| 注意点 | これまで学習した力学の知識を用いるので, 必要に応じて復習することが肝要である. | | | | | | |
| 授業の属性・履修上の区分 | | | | | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング | | <input type="checkbox"/> ICT 利用 | | <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応 | | <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | |
| 授業計画 | | | | | | | |
| | | 週 | 授業内容 | 週ごとの到達目標 | | | |
| 前期 | 1stQ | 1週 | ガイダンス | 産業界における有限要素法の活用事例などを学ぶ. | | | |
| | | 2週 | 応力, ひずみ, 構成則 | 線形弾性体を例に, 応力, ひずみ, 構成則について学ぶ. (MCC) | | | |
| | | 3週 | 応力, ひずみ, 構成則 | 線形弾性体を例に, 応力, ひずみ, 構成則について学ぶ. (MCC) | | | |
| | | 4週 | 応力, ひずみ, 構成則 | 線形弾性体を例に, 応力, ひずみ, 構成則について学ぶ. (MCC) | | | |
| | | 5週 | 応力, ひずみ, 構成則 | 線形弾性体を例に, 応力, ひずみ, 構成則について学ぶ. (MCC) | | | |
| | | 6週 | 平面応力, 平面ひずみ | 2次元問題における構成則の考え方を学ぶ. (MCC) | | | |
| | | 7週 | 平面応力, 平面ひずみ | 2次元問題における構成則の考え方を学ぶ. (MCC) | | | |
| | | 8週 | 中間試験 | 中間試験までの内容 | | | |
| | 2ndQ | 9週 | 有限要素近似 | 要素の役割について学ぶ | | | |
| | | 10週 | 有限要素近似 | 要素の役割について学ぶ | | | |
| | | 11週 | 剛性方程式 | 要素剛性, 全体剛性について学ぶ | | | |
| | | 12週 | 剛性方程式 | 要素剛性, 全体剛性について学ぶ | | | |
| | | 13週 | 境界値問題 | 境界条件の必要性について学び, その解法について学習する. | | | |
| | | 14週 | 物体の変形と物体に生じる応力 | 物体の変形と物体に生じる応力の計算方法について学ぶ | | | |
| | | 15週 | 最終課題 | これまでの学習内容 | | | |
| | | 16週 | | | | | |
| 評価割合 | | | | | | | |
| | 課題 | 発表 | 相互評価 | 態度 | ポートフォリオ | その他 | 合計 |
| 総合評価割合 | 80 | 0 | 0 | 0 | 20 | 0 | 100 |
| 基礎的能力 | 30 | 0 | 0 | 0 | 10 | 0 | 40 |
| 専門的能力 | 50 | 0 | 0 | 0 | 10 | 0 | 60 |
| 分野横断的能力 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

| | | | | | | | | |
|--|---|---------------------------------|----------------------|---------------------------------|-------------------------|---|-----|-----|
| 木更津工業高等専門学校 | | 開講年度 | 令和05年度 (2023年度) | | 授業科目 | 構造数値解析学 | | |
| 科目基礎情報 | | | | | | | | |
| 科目番号 | C0701 | | 科目区分 | 専門 / 選択 | | | | |
| 授業形態 | 講義 | | 単位の種別と単位数 | 学修単位: 2 | | | | |
| 開設学科 | 環境建設工学専攻 | | 対象学年 | 専1 | | | | |
| 開設期 | 後期 | | 週時間数 | 2 | | | | |
| 教科書/教材 | なし | | | | | | | |
| 担当教員 | 原田 健二 | | | | | | | |
| 到達目標 | | | | | | | | |
| 数値計算手法の基礎を理解し、弾性体の力学的挙動解析のための技術の基礎を習得すること。 | | | | | | | | |
| ルーブリック | | | | | | | | |
| | 理想的な到達レベルの目安 | | 標準的な到達レベルの目安 | | 未到達レベルの目安 | | | |
| 部材の剛性マトリックス | 部材の剛性マトリックスの基礎を理解し、一般式を誘導できる | | 部材の剛性マトリックスの基礎を理解できる | | 部材の剛性マトリックスを理解できない | | | |
| 有限要素法の基礎 | 有限要素法の基礎式を理解し、解のメッシュ依存性を理解できる | | 有限要素法の基礎式を理解できる | | 有限要素法の基礎式を理解できない | | | |
| 学科の到達目標項目との関係 | | | | | | | | |
| 専攻科課程 B-2 JABEE B-2 | | | | | | | | |
| 教育方法等 | | | | | | | | |
| 概要 | これまでに学習した構造力学の内容を踏まえて、数値解析手法について学習する。また有限要素法を適用した構造計算について学ぶ。 | | | | | | | |
| 授業の進め方・方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業時間に対して倍の時間の予習・復習を行うこと。 ・授業中に演習問題を課すので、解答できるようになるまで何度でも復習すること。 | | | | | | | |
| 注意点 | 授業では、ExcelのVBAを用いて有限要素解析を行うが、課題の計算に使用する言語は自由とする。 | | | | | | | |
| 授業の属性・履修上の区分 | | | | | | | | |
| <input type="checkbox"/> アクティブラーニング | | <input type="checkbox"/> ICT 利用 | | <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 | | <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | |
| 授業計画 | | | | | | | | |
| | | 週 | 授業内容 | | 週ごとの到達目標 | | | |
| 後期 | 3rdQ | 1週 | 要素の剛性マトリックス | | 要素の剛性マトリックスの一般式を誘導できる | | | |
| | | 2週 | 要素の剛性マトリックス | | 要素の剛性マトリックスの一般式を誘導できる | | | |
| | | 3週 | 全体の剛性マトリックス | | 構造全体の剛性マトリックスの一般式を誘導できる | | | |
| | | 4週 | 全体の剛性マトリックス | | 構造全体の剛性マトリックスの一般式を誘導できる | | | |
| | | 5週 | 有限要素法の基礎 (MCC) | | 有限要素法の基礎式を理解できる | | | |
| | | 6週 | 有限要素法の基礎 (MCC) | | 有限要素法の基礎式を理解できる | | | |
| | | 7週 | 有限要素法の基礎 (MCC) | | 有限要素法の基礎式を理解できる | | | |
| | | 8週 | 後期中間試験 | | | | | |
| | 4thQ | 9週 | 有限要素法による解法 (MCC) | | 有限要素法による構造計算ができる | | | |
| | | 10週 | 有限要素法による解法 (MCC) | | 有限要素法による構造計算ができる | | | |
| | | 11週 | 有限要素法による解法 (MCC) | | 有限要素法による構造計算ができる | | | |
| | | 12週 | 有限要素法による数値実験 (MCC) | | 有限要素法を用いた数値実験ができる | | | |
| | | 13週 | 有限要素法による数値実験 (MCC) | | 有限要素法を用いた数値実験ができる | | | |
| | | 14週 | 有限要素法による数値実験 (MCC) | | 有限要素法を用いた数値実験ができる | | | |
| | | 15週 | 後期定期試験 | | | | | |
| | | 16週 | | | | | | |
| 評価割合 | | | | | | | | |
| | 試験 | 発表 | 相互評価 | 態度 | ポートフォリオ | レポート | その他 | 合計 |
| 総合評価割合 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 100 | 0 | 100 |
| 基礎的能力 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 40 | 0 | 40 |
| 専門的能力 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 60 | 0 | 60 |
| 分野横断的能力 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

| | | | | | |
|---|---|---------------------------------|----------------------|--|-----------|
| 木更津工業高等専門学校 | | 開講年度 | 令和05年度 (2023年度) | 授業科目 | 環境情報・保全工学 |
| 科目基礎情報 | | | | | |
| 科目番号 | C0801 | | 科目区分 | 専門 / 選択 | |
| 授業形態 | 講義 | | 単位の種別と単位数 | 学修単位: 2 | |
| 開設学科 | 環境建設工学専攻 | | 対象学年 | 専1 | |
| 開設期 | 後期 | | 週時間数 | 2 | |
| 教科書/教材 | オリジナルの資料を使用 | | | | |
| 担当教員 | 湯谷 賢太郎 | | | | |
| 到達目標 | | | | | |
| ◇水環境分野において、どのようにプログラムが用いられているのか、基礎的な事項に触れ、どのような計算が行われているのか理解できる。 ◇計算結果の理解ができる。 | | | | | |
| ルーブリック | | | | | |
| | 理想的な到達レベルの目安 | 標準的な到達レベルの目安 | 未到達レベルの目安 | | |
| プログラムに対する理解 | プログラムの欠けた部分を適切に加筆できる | プログラムを読んで理解できる | プログラムを読んで理解できない | | |
| 出力結果の理解 | プログラム出力結果を適切に分析、作図できる | プログラム出力結果の意味が分かる | プログラム出力結果の意味が分からない | | |
| 学科の到達目標項目との関係 | | | | | |
| 専攻科課程 B-2 JABEE B-2 | | | | | |
| 教育方法等 | | | | | |
| 概要 | 本講義は水・環境分野での基礎的なプログラムの利用について、実際にプログラムを作成し、実行し、結果を分析することによって学ぶ。 | | | | |
| 授業の進め方・方法 | 講義は各テーマについての解説を行い、その後に実際にプログラムを作成する。2~3回を1セットとして進める。欠席があると講義に加われなくなるので注意が必要である。 評価方法： 課題50%、最終レポート50%で評価する。 参考図書： ・土木学会『水理公式集例題プログラム集』土木学会、2002年 ・楠田哲也・麻佐庸『生態系とシミュレーション』朝倉書店、2002年、468/Ku91s | | | | |
| 注意点 | ※※※本講義では、各自でPCを用意することが必要です。※※※ 本講義は選択科目です。自分の将来や興味を考慮して登録してください。講義ではR言語を用いてプログラムの作成を行います。基本的な使用方法については各自で事前に確認しておいてください。また、本講義は演習が中心となる講義です。出席し、講義内で行われる演習の課題を提出することが大切です。課題提出が行われないと単位の取得が困難になります。また、全て欠席したテーマに関しては課題の提出を認めません。 課題に対して自学自習の時間が必要になります。 | | | | |
| 授業の属性・履修上の区分 | | | | | |
| <input type="checkbox"/> アクティブラーニング | | <input type="checkbox"/> ICT 利用 | | <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 | |
| <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | |
| 授業計画 | | | | | |
| | 週 | 授業内容 | 週ごとの到達目標 | | |
| 後期 | 3rdQ | 1週 | ガイダンス | 水環境・生態学の分野でどのようにシミュレーション、モデル化が行われているのが学ぶ | |
| | | 2週 | 拡散方程式の解の作図① | プログラミングの復習と作図ができる | |
| | | 3週 | 拡散方程式の解の作図② | プログラミングの復習と作図ができる | |
| | | 4週 | 簡易生態系モデル (ルンゲクッタ法) ① | 簡易生態系モデルを例にルンゲクッタ法を学ぶ | |
| | | 5週 | 簡易生態系モデル (ルンゲクッタ法) ② | 簡易生態系モデルを例にルンゲクッタ法を学ぶ | |
| | | 6週 | 簡易生態系モデル (ルンゲクッタ法) ③ | 簡易生態系モデルを例にルンゲクッタ法を学ぶ | |
| | | 7週 | 流出解析 (ニュートン法) ① | 流出解析を例にニュートン法を学ぶ | |
| | | 8週 | 流出解析 (ニュートン法) ② | 流出解析を例にニュートン法を学ぶ | |
| | 4thQ | 9週 | 流出解析 (ニュートン法) ③ | 流出解析を例にニュートン法を学ぶ | |
| | | 10週 | 拡散方程式の数値解 (差分法) ① | 拡散方程式を例に差分法を学ぶ | |
| | | 11週 | 拡散方程式の数値解 (差分法) ② | 拡散方程式を例に差分法を学ぶ | |
| | | 12週 | 生物を含む水質予測モデル | 生態系モデルについて学ぶ | |
| | | 13週 | レポートの作成 | プログラムを用いて与えられた課題を解く | |
| | | 14週 | レポートの作成 | プログラムを用いて与えられた課題を解く | |
| | | 15週 | レポートの作成 | プログラムを用いて与えられた課題を解く | |
| | | 16週 | | | |
| 評価割合 | | | | | |
| | 課題 | レポート | 合計 | | |
| 総合評価割合 | 50 | 50 | 100 | | |
| プログラムに対する理解 | 0 | 50 | 50 | | |
| 出力結果の理解 | 50 | 0 | 50 | | |

| | | | | | |
|---|--|---------------------------------|-----------------|---|--------|
| 木更津工業高等専門学校 | | 開講年度 | 令和05年度 (2023年度) | 授業科目 | 環境生物工学 |
| 科目基礎情報 | | | | | |
| 科目番号 | C1101 | | 科目区分 | 専門 / 選択 | |
| 授業形態 | 講義 | | 単位の種別と単位数 | 学修単位: 2 | |
| 開設学科 | 環境建設工学専攻 | | 対象学年 | 専1 | |
| 開設期 | 前期 | | 週時間数 | 2 | |
| 教科書/教材 | プリントを配付 | | | | |
| 担当教員 | 上村 繁樹 | | | | |
| 到達目標 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ バイオレメディエーションの基本的な理論とその応用事例について説明できる ・ 環境浄化に関わる生物学の基礎知識について説明できる ・ 酵素反応速度の発展的な計算や基礎的な生体反応の簡単な熱力学計算ができる ・ 分子生物学の基礎とその環境微生物検出の応用について説明できる | | | | | |
| ルーブリック | | | | | |
| | 理想的な到達レベルの目安 | 標準的な到達レベルの目安 | 未到達レベルの目安 | | |
| 評価項目1 | 応用問題が解ける | 十分な理解を得ている | 理解していない | | |
| 評価項目2 | 応用問題が解ける | 十分な理解を得ている | 理解していない | | |
| 評価項目3 | 応用問題が解ける | 十分な理解を得ている | 理解していない | | |
| 評価項目4 | 応用問題が解ける | 十分な理解を得ている | 理解していない | | |
| 学科の到達目標項目との関係 | | | | | |
| 専攻科課程 B-2 JABEE B-2 | | | | | |
| 教育方法等 | | | | | |
| 概要 | 建設工学でも昨今は環境保全のためにバイオレメディエーションの知識や応用力が必要とされる。本講義では、バイオレメディエーションの理解と応用のための、生物工学的な基礎知識と応用問題を学習する。本科目は企業で環境保全プラント関係の研究・開発、設計等の業務を担当していた教員が、その経験を活かし、バイオレメディエーションやその生物化学的理解の知見を講義形式で授業を行うものである。 | | | | |
| 授業の進め方・方法 | 講義形式が主だが、演習・レポート課題も多く行う。 | | | | |
| 注意点 | 本科目では、環境浄化、環境修復を論じるうえで、欠かすことのできない基礎知識の修得を目的とするため、化学、生物学などをよく復習し、解らなければ随時質問に来ること。 | | | | |
| 授業の属性・履修上の区分 | | | | | |
| <input type="checkbox"/> アクティブラーニング | | <input type="checkbox"/> ICT 利用 | | <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | |
| 授業計画 | | | | | |
| | | 週 | 授業内容 | 週ごとの到達目標 | |
| 前期 | 1stQ | 1週 | バイオレメディエーション 1 | バイオレメディエーションの理論とその応用事例を理解する(MCC) | |
| | | 2週 | バイオレメディエーション 2 | バイオレメディエーションの理論とその応用事例を理解する(MCC) | |
| | | 3週 | バイオレメディエーション 3 | バイオレメディエーションの理論とその応用事例を理解する(MCC) | |
| | | 4週 | バイオレメディエーション 4 | バイオレメディエーションの理論とその応用事例を理解する(MCC) | |
| | | 5週 | 生物学の基礎 1 | 細胞構造や遺伝子、遺伝情報の伝達、酵素反応などの基礎知識を理解する(MCC) | |
| | | 6週 | 生物学の基礎 2 | 細胞構造や遺伝子、遺伝情報の伝達、酵素反応などの基礎知識を理解する(MCC) | |
| | | 7週 | 生物学の基礎 3 | 細胞構造や遺伝子、遺伝情報の伝達、酵素反応などの基礎知識を理解する(MCC) | |
| | | 8週 | 生物学の基礎 4 | 細胞構造や遺伝子、遺伝情報の伝達、酵素反応などの基礎知識を理解する(MCC) | |
| | 2ndQ | 9週 | 生物学の基礎 5 | 細胞構造や遺伝子、遺伝情報の伝達、酵素反応などの基礎知識を理解する(MCC) | |
| | | 10週 | 酵素反応速度論 1 | 基質消費速度に関する式とその発展形の理論を理解する(MCC) | |
| | | 11週 | 酵素反応速度論 2 | 基質消費速度に関する式とその発展形の理論を理解する(MCC) | |
| | | 12週 | 酵素反応速度論 3 | 基質消費速度に関する式とその発展形の理論を理解する(MCC) | |
| | | 13週 | 分子生物学の基礎 1 | 分子生物学の基礎およびその応用としての特定遺伝子検出技術の理論を理解する(MCC) | |
| | | 14週 | 分子生物学の基礎 2 | 分子生物学の基礎およびその応用としての特定遺伝子検出技術の理論を理解する(MCC) | |
| | | 15週 | 熱力学 1 | 平衡熱力学と生体反応の関係を理解する(MCC) | |
| | | 16週 | 熱力学 2 | 平衡熱力学と生体反応の関係を理解する(MCC) | |
| 評価割合 | | | | | |
| | | レポート | | 合計 | |
| 総合評価割合 | | 100 | | 100 | |
| 基礎的能力 | | 60 | | 60 | |
| 専門的能力 | | 20 | | 20 | |

| | | |
|---------|----|----|
| 分野横断的能力 | 20 | 20 |
|---------|----|----|

| | | | | |
|--|--|---|--|--|
| 木更津工業高等専門学校 | 開講年度 | 令和05年度 (2023年度) | 授業科目 | 特別研究 I |
| 科目基礎情報 | | | | |
| 科目番号 | C1301 | 科目区分 | 専門 / 必修 | |
| 授業形態 | 実験・実習 (クラス形式) | 単位の種別と単位数 | 学修単位: 6 | |
| 開設学科 | 環境建設工学専攻 | 対象学年 | 専1 | |
| 開設期 | 通年 | 週時間数 | 3 | |
| 教科書/教材 | 各研究テーマに関する参考書や学術論文 | | | |
| 担当教員 | 青木 優介,石井 建樹,上村 繁樹,大久保 努,鬼塚 信弘,島崎 彦人,湯谷 賢太郎,原田 健二,虻川 和紀,佐久間 東陽 | | | |
| 到達目標 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 研究成果について、発表・討論する能力を身につける。 与えられたテーマについての専門知識を身につける。 これまで学んだ専門科目の知識を活用し、自発的に問題を解決する能力を身につける。 | | | | |
| ルーブリック | | | | |
| | 理想的な到達レベルの目安 | 標準的な到達レベルの目安 | 未到達レベルの目安 | |
| 評価項目1 | 研究成果について、発表・討論する応用能力を身につける。 | 研究成果について、発表・討論する能力を身につける。 | 研究成果について、発表・討論する能力を身につけられない。 | |
| 評価項目2 | 与えられたテーマについての専門知識の応用を身につける。 | 与えられたテーマについての専門知識を身につける。 | 与えられたテーマについての専門知識を身につけられない。 | |
| 評価項目3 | これまで学んだ専門科目の知識を活用し、自発的に問題を解決する応用能力を身につける。 | これまで学んだ専門科目の知識を活用し、自発的に問題を解決する能力を身につける。 | これまで学んだ専門科目の知識を活用し、自発的に問題を解決する能力を身につけられない。 | |
| 学科の到達目標項目との関係 | | | | |
| 専攻科課程 C-2 専攻科課程 D-2 JABEE C-2 JABEE D-2 | | | | |
| 教育方法等 | | | | |
| 概要 | <p>特別研究中間発表会：12月ごろに実施する。 特別研究年間報告書：1月ごろに提出する。 予定される研究テーマを以下に示す。</p> <p>テーマ名：自然生態環境・人の健康保護・水環境保全に関する研究 指導教員：上村繁樹，島崎彦人，湯谷賢太郎，大久保努，虻川和紀，佐久間東陽</p> <p>テーマ名：構造物の性能および健全度評価に関する研究 指導教員：鬼塚信弘，青木優介，石井建樹，原田健二</p> | | | |
| 授業の進め方・方法 | 研究は主査教員、副査教員の指導のもと、年間を通して自ら自主的に進める。研究の成果を特別研究中間発表会にて発表し、デザイン能力やコミュニケーション能力を高めるとともに、特別研究年間報告書を作成して論理的記述力を高める。 | | | |
| 注意点 | 研究は自ら思考して自主的に進めるものであり、講義や実験とは全く異質のものであることを認識することが大切である。研究成果を学会等で発表することは、研究の客観的評価が得られるため、積極的な外部への発表を心がける。 | | | |
| 授業の属性・履修上の区分 | | | | |
| <input type="checkbox"/> アクティブラーニング <input type="checkbox"/> ICT 利用 <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | |
| 授業計画 | | | | |
| | | 週 | 授業内容 | 週ごとの到達目標 |
| 前期 | 1stQ | 1週 | 研究テーマの選定と研究計画 | 研究テーマの選定と研究計画を立てることができる。 |
| | | 2週 | 研究 (進捗報告と担当教員との議論を含む) | 自ら思考して自主的に研究を進めることができる。 |
| | | 3週 | 研究 (進捗報告と担当教員との議論を含む) | 自ら思考して自主的に研究を進めることができる。 |
| | | 4週 | 研究 (進捗報告と担当教員との議論を含む) | 自ら思考して自主的に研究を進めることができる。 |
| | | 5週 | 研究 (進捗報告と担当教員との議論を含む) | 自ら思考して自主的に研究を進めることができる。 |
| | | 6週 | 研究 (進捗報告と担当教員との議論を含む) | 自ら思考して自主的に研究を進めることができる。 |
| | | 7週 | 研究 (進捗報告と担当教員との議論を含む) | 自ら思考して自主的に研究を進めることができる。 |
| | | 8週 | 研究 (進捗報告と担当教員との議論を含む) | 自ら思考して自主的に研究を進めることができる。 |
| | 2ndQ | 9週 | 研究 (進捗報告と担当教員との議論を含む) | 自ら思考して自主的に研究を進めることができる。 |
| | | 10週 | 研究 (進捗報告と担当教員との議論を含む) | 自ら思考して自主的に研究を進めることができる。 |
| | | 11週 | 研究 (進捗報告と担当教員との議論を含む) | 自ら思考して自主的に研究を進めることができる。 |
| | | 12週 | 研究 (進捗報告と担当教員との議論を含む) | 自ら思考して自主的に研究を進めることができる。 |
| | | 13週 | 研究 (進捗報告と担当教員との議論を含む) | 自ら思考して自主的に研究を進めることができる。 |
| | | 14週 | 研究 (進捗報告と担当教員との議論を含む) | 自ら思考して自主的に研究を進めることができる。 |
| | | 15週 | 研究 (進捗報告と担当教員との議論を含む) | 自ら思考して自主的に研究を進めることができる。 |
| | | 16週 | 研究 (進捗報告と担当教員との議論を含む) | 自ら思考して自主的に研究を進めることができる。 |
| 後期 | 3rdQ | 1週 | 研究 (進捗報告と担当教員との議論を含む) | 自ら思考して自主的に研究を進めることができる。 |
| | | 2週 | 研究 (進捗報告と担当教員との議論を含む) | 自ら思考して自主的に研究を進めることができる。 |
| | | 3週 | 研究 (進捗報告と担当教員との議論を含む) | 自ら思考して自主的に研究を進めることができる。 |
| | | 4週 | 研究 (進捗報告と担当教員との議論を含む) | 自ら思考して自主的に研究を進めることができる。 |
| | | 5週 | 研究 (進捗報告と担当教員との議論を含む) | 自ら思考して自主的に研究を進めることができる。 |
| | | 6週 | 抄録作成 | 専門知識を身につけ、その知識を活用しながら論理的な抄録を作成することができる。(MCC) |
| | | 7週 | 発表資料作成 | 研究成果について、発表・討論するための発表資料を作成することができる。(MCC) |

| | | | |
|------|-----|----------------------|--|
| 4thQ | 8週 | 発表練習 | 研究成果について、発表・討論するための練習を行うことができる。(MCC) |
| | 9週 | 特別研究中間発表会 | 研究成果について、発表・討論することができる。(MCC) |
| | 10週 | 研究(進捗報告と担当教員との議論を含む) | 自ら思考して自主的に研究を進めることができる。 |
| | 11週 | 研究(進捗報告と担当教員との議論を含む) | 自ら思考して自主的に研究を進めることができる。 |
| | 12週 | 研究(進捗報告と担当教員との議論を含む) | 自ら思考して自主的に研究を進めることができる。 |
| | 13週 | 研究(進捗報告と担当教員との議論を含む) | 自ら思考して自主的に研究を進めることができる。 |
| | 14週 | 研究(進捗報告と担当教員との議論を含む) | 自ら思考して自主的に研究を進めることができる。 |
| | 15週 | 研究(進捗報告と担当教員との議論を含む) | 自ら思考して自主的に研究を進めることができる。 |
| | 16週 | 研究の統括 | 年間を通して、専門科目の知識を活用し、自発的に問題を解決する能力を身につけたかどうかを確認することができる。 |

評価割合

| | 発表会 | 報告書 | 合計 |
|---------|-----|-----|-----|
| 総合評価割合 | 60 | 40 | 100 |
| 基礎的能力 | 0 | 0 | 0 |
| 専門的能力 | 60 | 40 | 100 |
| 分野横断的能力 | 0 | 0 | 0 |

| | | | | | | | |
|---|--|---------------------------------|-----------------------------------|---|----------------------|-----|-----|
| 木更津工業高等専門学校 | | 開講年度 | 令和05年度 (2023年度) | 授業科目 | 特別実験 | | |
| 科目基礎情報 | | | | | | | |
| 科目番号 | C1501 | | 科目区分 | 専門 / 必修 | | | |
| 授業形態 | 実験・実習 | | 単位の種別と単位数 | 学修単位: 2 | | | |
| 開設学科 | 環境建設工学専攻 | | 対象学年 | 専1 | | | |
| 開設期 | 後期 | | 週時間数 | 2 | | | |
| 教科書/教材 | 指定しない | | | | | | |
| 担当教員 | 石井 建樹 | | | | | | |
| 到達目標 | | | | | | | |
| 実験課題を通して、計画立案、実践技術を身に付けるとともに、データ解析・検討・考察により、報告書の作成能力を高めること。 | | | | | | | |
| ルーブリック | | | | | | | |
| | 理想的な到達レベルの目安 | | 標準的な到達レベルの目安 | | 未到達レベルの目安 | | |
| 実践的な技術の調査 | 課題達成に必要な情報を自ら収集することができる。 | | 課題達成に必要な情報をこれまでに学んだ知識から見出すことができる。 | | 必要な情報を収集できない。 | | |
| 問題解決 | 調査した情報に基づいて、問題解決へ向けた対応ができる。 | | 調査した情報を模倣して、問題解決へ向けた対応ができる。 | | 問題解決できない。 | | |
| 結果分析 | 実験結果に対して、独自の着眼点と理論的根拠に基づいた分析ができる。 | | 実験結果に対して、定型どおりのデータ整理ができる。 | | 実験結果に対して、データ整理ができない。 | | |
| 学科の到達目標項目との関係 | | | | | | | |
| 専攻科課程 B-4 専攻科課程 D-1 JABEE B-4 JABEE D-1 | | | | | | | |
| 教育方法等 | | | | | | | |
| 概要 | 環境建設工学に関する問題解決型の実験課題を通して、計画立案、実践技術を身に付けるとともに、データ解析・検討・考察により、報告書の作成能力を養うこと。特に、データの信頼性について深く考えることが望ましい。 | | | | | | |
| 授業の進め方・方法 | 実験実習科目で「あるか」、「これまで」に学習した「すべ」の科目を復習するとともに、次の作業に向けた準備やスケジュール管理など、「を」を行いつつ、「自ら進んで」予習・復習を行うこと。また、社会的課題を調査する中でデータの信頼性とバイアスに関して理解を深める。 | | | | | | |
| 注意点 | 実験テーマと関係する専門科目や数学、物理学の専門基礎科目も含めて実験に対してしっかりと準備して、計画、設計、施工を順序立てて行って評価試験に備えること。 | | | | | | |
| 授業の属性・履修上の区分 | | | | | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング | | <input type="checkbox"/> ICT 利用 | | <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応 | | | |
| <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | | | |
| 授業計画 | | | | | | | |
| 後期 | 3rdQ | 週 | 授業内容 | 週ごとの到達目標 | | | |
| | | 1週 | 課題説明 | | | | |
| | | 2週 | データの信頼性に関するディベート | データの信頼性に関する共通理解のために課題に関する調査を行ってディベートを行う (MCC) | | | |
| | | 3週 | 製作の計画 | 設計・製作に向けた実施計画を立てる (MCC) | | | |
| | | 4週 | 製作の計画 | 設計・製作に向けた実施計画を立てる (MCC) | | | |
| | | 5週 | 性能実験の企画・準備 | 性能実験を企画して準備を進める (MCC) | | | |
| | | 6週 | 性能実験の企画・準備 | 性能実験を企画して準備を進める (MCC) | | | |
| | | 7週 | 性能実験の検証 | 性能実験を検証して改良する (MCC) | | | |
| | 8週 | 性能実験の検証 | 性能実験を検証して改良する (MCC) | | | | |
| | 4thQ | 9週 | 実機製作 | 製作計画に従い、製作する (MCC) | | | |
| | | 10週 | 実機製作 | 製作計画に従い、製作する (MCC) | | | |
| | | 11週 | 実機製作 | 製作計画に従い、製作する (MCC) | | | |
| | | 12週 | 性能検証 | 性能実験により性能を検証する (MCC) | | | |
| | | 13週 | 性能検証 | 性能実験により性能を検証する (MCC) | | | |
| | | 14週 | レポート作成 | レポートを作成する。(MCC) | | | |
| | | 15週 | レポート作成・発表 | レポートを作成する。発表する。(MCC) | | | |
| 16週 | | | | | | | |
| 評価割合 | | | | | | | |
| | 試験 | 発表 | 相互評価 | 態度 | ポートフォリオ | その他 | 合計 |
| 総合評価割合 | 20 | 10 | 0 | 0 | 50 | 20 | 100 |
| 基礎的能力 | 10 | 10 | 0 | 0 | 20 | 10 | 50 |
| 専門的能力 | 10 | 0 | 0 | 0 | 30 | 10 | 50 |
| 分野横断的能力 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

| | | | | | |
|---|--|---------------------------------|-----------------------------------|--|---------------------------------------|
| 木更津工業高等専門学校 | | 開講年度 | 令和05年度 (2023年度) | 授業科目 | 特別演習 I |
| 科目基礎情報 | | | | | |
| 科目番号 | C1601 | | 科目区分 | 専門 / 必修 | |
| 授業形態 | 演習 | | 単位の種別と単位数 | 学修単位: 2 | |
| 開設学科 | 環境建設工学専攻 | | 対象学年 | 専1 | |
| 開設期 | 通年 | | 週時間数 | 1 | |
| 教科書/教材 | 指定しない | | | | |
| 担当教員 | 上村 繁樹, 虻川 和紀 | | | | |
| 到達目標 | | | | | |
| 本科で学んだ専門的知識だけにとらわれず、人文・社会学や一般自然科学についての知識も総合し、与えられた課題に取り組み、成果を上げることができる。 | | | | | |
| ルーブリック | | | | | |
| | 理想的な到達レベルの目安 | | 標準的な到達レベルの目安 | | 未到達レベルの目安 |
| 知識の総合化 | 複数の知識を総合し、応用的な課題に対して成果を上げることができる。 | | 複数の知識を総合し、基本的な課題に対して成果を上げることができる。 | | 複数の知識を総合できず、基本的な課題に対しても成果を上げることができない。 |
| 学科の到達目標項目との関係 | | | | | |
| 専攻科課程 B-2 JABEE B-2 | | | | | |
| 教育方法等 | | | | | |
| 概要 | 本講義は、専門科目、人文・社会学や一般自然科学を含めた広く本科で学んだ内容を総合して課題に取り組むものである。 | | | | |
| 授業の進め方・方法 | 本講義は複数の担当者により実施される。進め方や授業内容・方法は担当者により異なる。 | | | | |
| 注意点 | テーマ①：公務員試験対策演習 5年生の土木総合学習Ⅲと同時開講。専攻科生は本科生へ指導する立場として参加し、問題の解説や質問への回答等を行う。 テーマ②：まちおこしに関するテーマを予定 | | | | |
| 授業の属性・履修上の区分 | | | | | |
| <input type="checkbox"/> アクティブラーニング | | <input type="checkbox"/> ICT 利用 | | <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 | |
| <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | |
| 授業計画 | | | | | |
| | | 週 | 授業内容 | 週ごとの到達目標 | |
| 前期 | 1stQ | 1週 | テーマ①に関する取り組み | ガイダンス | |
| | | 2週 | テーマ①に関する取り組み | 構造力学演習 (MCC) | |
| | | 3週 | テーマ①に関する取り組み | 構造力学演習 (MCC) | |
| | | 4週 | テーマ①に関する取り組み | 構造力学演習 (MCC) | |
| | | 5週 | テーマ①に関する取り組み | 土質力学演習 (MCC) | |
| | | 6週 | テーマ①に関する取り組み | 土質力学演習 (MCC) | |
| | | 7週 | テーマ①に関する取り組み | 土質力学演習 (MCC) | |
| | | 8週 | テーマ①に関する取り組み | 構造力学・土質力学の課題まとめ | |
| | 2ndQ | 9週 | テーマ①に関する取り組み | 水理学演習 (MCC) | |
| | | 10週 | テーマ①に関する取り組み | 水理学演習 (MCC) | |
| | | 11週 | テーマ①に関する取り組み | 測量学演習 (MCC) | |
| | | 12週 | テーマ①に関する取り組み | 測量学演習 (MCC) | |
| | | 13週 | テーマ①に関する取り組み | コンクリート工学演習 (MCC) | |
| | | 14週 | テーマ①に関する取り組み | その他専門分野演習 (MCC) | |
| | | 15週 | テーマ①に関する取り組み | その他専門分野演習 (MCC) | |
| | | 16週 | テーマ①に関する取り組み | 水理学・測量学・コンクリート工学・衛生工学の課題まとめ | |
| 後期 | 3rdQ | 1週 | テーマ②に関する取り組み | ガイダンス | |
| | | 2週 | テーマ②に関する取り組み | 課題1 木更津市の「まちおこし」 木更津の観光資源を発掘して観光MAPや観光振興案を作成する (MCC) | |
| | | 3週 | テーマ②に関する取り組み | 課題1 木更津市の「まちおこし」 木更津の観光資源を発掘して観光MAPや観光振興案を作成する (MCC) | |
| | | 4週 | テーマ②に関する取り組み | 課題1 木更津市の「まちおこし」 木更津の観光資源を発掘して観光MAPや観光振興案を作成する (MCC) | |
| | | 5週 | テーマ②に関する取り組み | 課題1 木更津市の「まちおこし」 木更津の観光資源を発掘して観光MAPや観光振興案を作成する (MCC) | |
| | | 6週 | テーマ②に関する取り組み | 課題2 選んだ観光資源について詳細を調べる (歴史的由来や位置、写真など) (MCC) | |
| | | 7週 | テーマ②に関する取り組み | 課題2 選んだ観光資源について詳細を調べる (歴史的由来や位置、写真など) (MCC) | |
| | | 8週 | テーマ②に関する取り組み | 課題2 選んだ観光資源について詳細を調べる (歴史的由来や位置、写真など) (MCC) | |
| | 4thQ | 9週 | テーマ②に関する取り組み | 課題3 観光MAPの作成 (MCC) | |

| | | | |
|--|-----|--------------|---|
| | 10週 | テーマ②に関する取り組み | 課題3 観光MAPの作成 (MCC) |
| | 11週 | テーマ②に関する取り組み | 課題3 観光MAPの作成 (MCC) |
| | 12週 | テーマ②に関する取り組み | 課題4 観光MAPを活用した木更津の振興・活性化についての提案書の作成 (MCC) |
| | 13週 | テーマ②に関する取り組み | 課題4 観光MAPを活用した木更津の振興・活性化についての提案書の作成 (MCC) |
| | 14週 | テーマ②に関する取り組み | 課題4 観光MAPを活用した木更津の振興・活性化についての提案書の作成 (MCC) |
| | 15週 | テーマ②に関する取り組み | 課題4 観光MAPを活用した木更津の振興・活性化についての提案書の作成 (MCC) |
| | 16週 | テーマ②に関する取り組み | 課題4 観光MAPを活用した木更津の振興・活性化についての提案・発表会 (MCC) |

評価割合

| | 課題, レポート, 発表等 | 合計 |
|--------|---------------|-----|
| 総合評価割合 | 100 | 100 |
| 知識の総合化 | 100 | 100 |

| | | | | | |
|---|--|--|--|--|--------|
| 木更津工業高等専門学校 | | 開講年度 | 令和05年度 (2023年度) | 授業科目 | 技術英語 I |
| 科目基礎情報 | | | | | |
| 科目番号 | K0101 | | 科目区分 | 専門 / 必修 | |
| 授業形態 | 講義 | | 単位の種別と単位数 | 学修単位: 2 | |
| 開設学科 | 環境建設工学専攻 | | 対象学年 | 専1 | |
| 開設期 | 後期 | | 週時間数 | 2 | |
| 教科書/教材 | 『Fundamental Science in English II (Workbook付属)』成美堂, 2019年 / 『COCET 2600 理工系学生のための必修英単語2600』成美堂, 2012年 | | | | |
| 担当教員 | 福土 智哉 | | | | |
| 到達目標 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 科学技術に関する英文で典型的に用いられる基本表現を理解し, 活用できるようになる。 ・ 科学技術に関する英文で使用頻度が高い数字, 数量, 単位等に関する表現を理解し, 活用できるようになる。 ・ 科学技術に関する比較的難解な英文内容を理解するための読解能力を身に付ける。 ・ 科学技術に関する英文の要約ができるようになる。 | | | | | |
| ルーブリック | | | | | |
| | 理想的な到達レベルの目安(優) | 標準的な到達レベルの目安(良) | 未到達レベルの目安(不可) | | |
| 評価項目1 | Technical term の語彙力が技術英検1級程度 | Technical term の語彙力が技術英検2級程度 | Technical term の語彙力が技術英検2級程度以下 | | |
| 評価項目2 | 科学技術的知識に基づく技術英語文献の和訳ができる | 科学技術的知識に基づく技術英語文献の内容を概ね理解できる | 科学技術的知識に基づく技術英語文献の内容を理解できない | | |
| 評価項目3 | 技術英検1級程度の問題が解ける | 技術英検2級程度の問題が解ける | 技術英検2級程度の問題が解けない | | |
| 学科の到達目標項目との関係 | | | | | |
| 専攻科課程 C-3 JABEE C-3 | | | | | |
| 教育方法等 | | | | | |
| 概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 正確な読解力をさらに強化するため, 準学士過程で学習した内容を復習および習得済みであることを前提とする。 ・ 技術英検1級に合格できる能力を身に付けることを主たる目標とする。 | | | | |
| 授業の進め方・方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 正確な読解力を養うため, 各Lessonにつき演習形式で授業を進める (ある程度の予習を必要とする)。 ・ 技術英検1級を対象とした資格試験取得 (TOEIC Listening & Reading Testも含む) に向けた演習を適宜行う。 ・ 英文要約の技術向上のための演習も適宜行う予定である (時間的に上記の内容よりも回数が限られる)。 | | | | |
| 注意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 中間試験および定期試験を実施し, 試験成績 (2回の試験の平均点) を80%, 課題の成績を20%として評価する。 | | | | |
| 授業の属性・履修上の区分 | | | | | |
| <input type="checkbox"/> アクティブラーニング | | <input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用 | | <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応 | |
| <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | |
| 授業計画 | | | | | |
| | | 週 | 授業内容 | 週ごとの到達目標 | |
| 後期 | 3rdQ | 1週 | ガイダンス LESSON 3 Force Part 1, 2 技術英検1級問題演習 | Speed, Velocity and Acceleration, Mass and Forcesに関する語彙・英文を理解する。 技術英検1級の解法への方法論を理解し, 独力で演習を行う。 | |
| | | 2週 | LESSON 3 Force Part 3 TOEIC Listening演習 | Gravityに関する語彙・英文を理解する。 TOEIC Listeningの解法への方法論を理解し, 独力で演習を行う。 | |
| | | 3週 | LESSON 6 Earthquake Part 1, 2 技術英検1級問題演習 | Measurement of Earthquakes, P-waves and S-wavesに関する語彙・英文を理解する。 技術英検1級の解法への方法論を理解し, 独力で演習を行う。 | |
| | | 4週 | LESSON 6 Earthquake Part 3, 4 TOEIC Listening演習 | Earthquake Information, The Ring of Fireに関する語彙・英文を理解する。 TOEIC Listeningの解法への方法論を理解し, 独力で演習を行う。 | |
| | | 5週 | LESSON 9 Chemical Reactions Part 1, 2 技術英検1級問題演習 | Combination and Decomposition, Oxidation and Reductionに関する語彙・英文を理解する。 技術英検1級の解法への方法論を理解し, 独力で演習を行う。 | |
| | | 6週 | LESSON 9 Chemical Reactions Part 3 TOEIC Listening演習 | Oxidizing Agents and Reducing Agentsに関する語彙・英文を理解する。 TOEIC Listeningの解法への方法論を理解し, 独力で演習を行う。 | |
| | | 7週 | 英文要約演習 | 英文要約の技術を向上させる。 | |
| | | 8週 | 中間試験 | | |
| | 4thQ | 9週 | 中間テスト返却 LESSON 5 Waves Part 1, 2 TOEIC Reading演習 | Types and Waves, Properties of Wavesに関する語彙・英文を理解する。 TOEIC Readingの解法への方法論を理解し, 独力で演習を行う。 | |
| | | 10週 | LESSON 5 Waves Part 3, 4 技術英検1級問題演習 | Doppler Effect, Light Wavesに関する語彙・英文を理解する。 技術英検1級の解法への方法論を理解し, 独力で演習を行う。 | |
| | | 11週 | LESSON 8 Cells and Reproduction Part 1, 2 TOEIC Reading演習 | Cells, Living and Growth of Cellsに関する語彙・英文を理解する。 TOEIC Readingの解法への方法論を理解し, 独力で演習を行う。 | |

| | | | |
|--|-----|---|---|
| | 12週 | LESSON 8 Cells and Reproduction Part 3, 4 技術英検1級問題演習 | Asexual Reproduction, Sexual Reproductionに関する語彙・英文を理解する。 技術英検1級の解法への方法論を理解し, 独力で演習を行う。 |
| | 13週 | LESSON 10 Weather Part 1, 2 TOEIC Reading演習 | Water Vapor, Foehn Phenomenonに関する語彙・英文を理解する。 TOEIC Readingの解法への方法論を理解し, 独力で演習を行う。 |
| | 14週 | LESSON 10 Weather Part 3 技術英検1級問題演習 | Windに関する語彙・英文を理解する。 技術英検1級の解法への方法論を理解し, 独力で演習を行う。 |
| | 15週 | 英文要約演習 | 英文要約の技術を向上させる。 |
| | 16週 | 定期試験 | |

評価割合

| | 試験 | 課題 | 相互評価 | 態度 | ポートフォリオ | その他 | 合計 |
|---------|----|----|------|----|---------|-----|-----|
| 総合評価割合 | 80 | 20 | 0 | 0 | 0 | 0 | 100 |
| 基礎的能力 | 80 | 20 | 0 | 0 | 0 | 0 | 100 |
| 専門的能力 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 分野横断的能力 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

| | | | | | | | |
|---|--|---------------------------------|-----------------------------------|---------------------------------|---------|--|-----|
| 木更津工業高等専門学校 | | 開講年度 | 令和05年度 (2023年度) | 授業科目 | 環境工学通論 | | |
| 科目基礎情報 | | | | | | | |
| 科目番号 | K0201 | | 科目区分 | 専門 / 必修選択 | | | |
| 授業形態 | 講義 | | 単位の種別と単位数 | 学修単位: 2 | | | |
| 開設学科 | 環境建設工学専攻 | | 対象学年 | 専1 | | | |
| 開設期 | 後期 | | 週時間数 | 2 | | | |
| 教科書/教材 | 使用せず | | | | | | |
| 担当教員 | 上村 繁樹 | | | | | | |
| 到達目標 | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 地球環境問題の現状の概略を説明できる 地球環境問題の解決に向けての技術者としての役割を考察できる | | | | | | | |
| ルーブリック | | | | | | | |
| | | 理想的な到達レベルの目安 | 標準的な到達レベルの目安 | 未到達レベルの目安 | | | |
| 評価項目1 | | 地球環境問題の現状の概略を説明できる | 地球環境問題の現状の概略をある程度説明できる | 理解していない | | | |
| 評価項目2 | | 地球環境問題の解決に向けての技術者としての役割を考察できる | 地球環境問題の解決に向けての技術者としての役割をある程度考察できる | 理解していない | | | |
| 学科の到達目標項目との関係 | | | | | | | |
| 専攻科課程 A-2 JABEE A-2 | | | | | | | |
| 教育方法等 | | | | | | | |
| 概要 | 地球環境問題についての理解を深め、各専門分野における技術者として、その問題解決に取り組めるようになる。本科目は、企業で環境市場調査の業務を担当していた教員が、その経験を活かし、環境問題について講義形式で授業を行うものである。 | | | | | | |
| 授業の進め方・方法 | パワーポイントによる講義方式 | | | | | | |
| 注意点 | この講義では経済学や社会学の知識を要するので、それらの科目をよく復習することが肝要である。また新聞やニュースを通じて現在の環境問題に関する情報を収集しておくこと。 | | | | | | |
| 授業の属性・履修上の区分 | | | | | | | |
| <input type="checkbox"/> アクティブラーニング | | <input type="checkbox"/> ICT 利用 | | <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 | | <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | |
| 授業計画 | | | | | | | |
| | | 週 | 授業内容 | 週ごとの到達目標 | | | |
| 後期 | 3rdQ | 1週 | 地球環境問題の概要 1 | 地球温暖化の概要を理解する(MCC) | | | |
| | | 2週 | 地球環境問題の概要 2 | 地球温暖化の概要を理解する(MCC) | | | |
| | | 3週 | 地球環境問題の概要 3 | 地球温暖化の概要を理解する(MCC) | | | |
| | | 4週 | 地球環境問題の概要 4 | 地球温暖化の概要を理解する(MCC) | | | |
| | | 5週 | 地球環境問題の概要 5 | オゾン層の破壊を理解する(MCC) | | | |
| | | 6週 | 地球環境問題の概要 6 | オゾン層の破壊を理解する(MCC) | | | |
| | | 7週 | 地球環境問題の概要 7 | 酸性雨について理解する(MCC) | | | |
| | | 8週 | 地球環境問題の概要 8 | 酸性雨について理解する(MCC) | | | |
| | 4thQ | 9週 | 地球環境問題の概要 9 | 熱帯雨林の減少について理解する(MCC) | | | |
| | | 10週 | 地球環境問題の概要 10 | 熱帯雨林の減少について理解する(MCC) | | | |
| | | 11週 | 地球環境問題の概要 11 | 砂漠化について理解する(MCC) | | | |
| | | 12週 | 地球環境問題の概要 12 | 野生生物種の減少について理解する(MCC) | | | |
| | | 13週 | 地球環境問題の概要 13 | 野生生物種の減少について理解する(MCC) | | | |
| | | 14週 | 地球環境問題の概要 14 | 海洋汚染について理解する(MCC) | | | |
| | | 15週 | 地球環境問題の概要 15 | 人口問題について理解する(MCC) | | | |
| | | 16週 | 地球環境問題の概要 16 | 開発途上国の公害問題について理解する(MCC) | | | |
| 評価割合 | | | | | | | |
| | 試験 | 発表 | 相互評価 | 態度 | ポートフォリオ | その他 | 合計 |
| 総合評価割合 | 0 | 0 | 0 | 0 | 100 | 0 | 100 |
| 基礎的能力 | 0 | 0 | 0 | 0 | 40 | 0 | 40 |
| 専門的能力 | 0 | 0 | 0 | 0 | 20 | 0 | 20 |
| 分野横断的能力 | 0 | 0 | 0 | 0 | 40 | 0 | 40 |

| | | | | | |
|--|--|--|--|---|--------|
| 木更津工業高等専門学校 | | 開講年度 | 令和05年度 (2023年度) | 授業科目 | 応用数学特論 |
| 科目基礎情報 | | | | | |
| 科目番号 | K0301 | | 科目区分 | 専門 / 必修選択 | |
| 授業形態 | 講義 | | 単位の種別と単位数 | 学修単位: 2 | |
| 開設学科 | 環境建設工学専攻 | | 対象学年 | 専1 | |
| 開設期 | 後期 | | 週時間数 | 2 | |
| 教科書/教材 | 担当教員が作成した教科書 (PDF) を無償配布する。ただし、個人的使用を除いて複製再配布を一切禁じる。 | | | | |
| 担当教員 | 関口 昌由 | | | | |
| 到達目標 | | | | | |
| 線形空間、基底と次元、線形写像、表現行列、固有空間、ジョルダン標準形に関する諸概念を理解し、標準的な問題を解くことができる。 | | | | | |
| ルーブリック | | | | | |
| | | 理想的な到達レベルの目安 | 標準的な到達レベルの目安 | 未到達レベルの目安 | |
| 評価項目1 線形空間、基底と次元 | | 様々な線形空間に対し、適当な基底を定められ、次元と任意のベクトルの成分表示を求められる。基底を正規直交化できる。 | 所与の線形空間の基底に対する任意のベクトルの成分表示を求められる。 | 所与の線形空間の基底に対する任意のベクトルの成分表示を求められない。 | |
| 評価項目2 線形写像と表現行列 | | 所与の線形空間の間の線形写像を表現する行列を求めることができる。基底の交換に対応して表現行列を変換できる。 | 所与の線形空間の間の線形写像を表現する行列を求めることができる。 | 所与の線形空間の間の線形写像を表現する行列を求めることができない。 | |
| 評価項目3 固有空間とジョルダン標準形 | | 固有値と一般固有空間を求めることができる。4次までのジョルダン標準形を求めることができる。 | 固有値を求めることができる。3次までのジョルダン標準形を求めることができる。 | 2次のジョルダン標準形を求めることができない。 | |
| 学科の到達目標項目との関係 | | | | | |
| 専攻科課程 B-1 JABEE B-1 | | | | | |
| 教育方法等 | | | | | |
| 概要 | 本科2、3年生のときに学んだ線形代数の内容をさらに抽象化したベクトル空間を学ぶ。具体的にはベクトル空間を土台として、基底、線形写像、階数などの諸概念や(一般)固有空間を通して、対角化やジョルダン標準形の意味とその計算方法を学ぶ。 使用言語として日本語と英語を想定している。 | | | | |
| 授業の進め方・方法 | (1) 前回までの理解・定着度の確認テスト: 授業中の15分程度 (Review Quiz)、出席状況を把握するために利用する。単に教室に存在しているだけでは出席と見なされない。 (2) 当日分の解説と質疑応答: 授業中の75分程度 (Explanation, Q&A) (3) 当日分の理解を定着させるための宿題: 授業後の90分程度 (Homework Assignment)、成績評価に反映させる。 | | | | |
| 注意点 | 内容の理解と定着のため、教科書の熟読と問題演習に主体的に取り組む必要がある。また、自ら関連図書を図書館等で検索し熟読するべきである。 内容が抽象的であるが、それを理由に学習を忌避してはならない。「抽象的=応用可能性が高い」ととらえ、意欲的に取り組んでほしい。 英語の使用にあたっては、受講者の受容度を確認しながら進めるので心配しなくてよいが、甘えることなく挑戦してほしい。 | | | | |
| 授業の属性・履修上の区分 | | | | | |
| <input type="checkbox"/> アクティブラーニング | | <input type="checkbox"/> ICT 利用 | | <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 | |
| <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | |
| 授業計画 | | | | | |
| | | 週 | 授業内容 | 週ごとの到達目標 | |
| 後期 | 3rdQ | 1週 | ガイダンス、 本科の線形代数の復習 (1) | 空間直線・平面のベクトル方程式を求められる。連立一次方程式を解ける。線形写像による直線や平面の像を求められる。 | |
| | | 2週 | 代数的基礎 (群、体、ベクトル空間) と例示 | 与えられた集合が群、体、ベクトル空間かどうか判定できる | |
| | | 3週 | 線形独立、基底、次元 | 与えられたベクトル空間の基底と次元を求めることができる。 | |
| | | 4週 | 部分空間、ベクトル空間の和、直和分解、補空間 | ベクトル空間の和を求めることができる。ベクトル空間を直和分解できる。部分空間の補空間を求めることができる。 | |
| | | 5週 | 線形写像と線形変換 | 線形写像や線形変換における射影、拡大縮小、回転を例示できる。 | |
| | | 6週 | 基底変換、線形写像の表現行列 | 与えられた線形写像の表現行列を求めることができる。 | |
| | | 7週 | 線形写像の像、核、および次元定理 | 線形写像の像空間、核空間を求めることができる。 | |
| | | 8週 | 中間試験 | 第7週までの範囲 | |
| | 4thQ | 9週 | 本科の線形代数の復習 (2) | 固有値、固有ベクトルを求められる。行列を対角化できる。対称行列を直交行列で対角化できる。 | |
| | | 10週 | エルミート行列とユニタリ行列 | エルミート行列をユニタリ行列で対角化できる。 | |
| | | 11週 | 対角化可能性 | 重複実固有値の場合の対角化可能性を判別できる。非実固有値の場合の固有空間を求められる。 | |
| | | 12週 | 内積と直交補空間 | 内積の公理的定義に基づきベクトルのノルムを求められる。直交補空間を求められる。 | |
| | | 13週 | 一般固有空間 | 一般固有空間を求められる。 | |
| | | 14週 | ジョルダン標準形 | 2次、3次、4次の場合で、ジョルダン標準形を求められる。 | |
| | | 15週 | 定期試験 | 第9週から第14週までの範囲 | |

| | | | | | | | |
|---------|-----|-----------------------|---------------------------|----|----|-----|-----|
| | 16週 | 答案返却、試験問題解説、および対角化の応用 | (対角化の応用として) 行列指数関数を理解できる。 | | | | |
| 評価割合 | | | | | | | |
| | 試験 | 発表 | 相互評価 | 態度 | 宿題 | その他 | 合計 |
| 総合評価割合 | 86 | 0 | 0 | 0 | 14 | 0 | 100 |
| 基礎的能力 | 86 | 0 | 0 | 0 | 14 | 0 | 100 |
| 専門的能力 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 分野横断的能力 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

| | | | | |
|---|--|----------------------------------|-----------------------------------|---|
| 木更津工業高等専門学校 | 開講年度 | 令和05年度 (2023年度) | 授業科目 | 応用物理特論 |
| 科目基礎情報 | | | | |
| 科目番号 | K0401 | 科目区分 | 専門 / 必修選択 | |
| 授業形態 | 講義 | 単位の種別と単位数 | 学修単位: 2 | |
| 開設学科 | 環境建設工学専攻 | 対象学年 | 専1 | |
| 開設期 | 前期 | 週時間数 | 2 | |
| 教科書/教材 | 参考図書: 放射線概論 飯田博美編 (閲覧希望者は担当教員まで申し出ること) | | | |
| 担当教員 | 高谷 博史 | | | |
| 到達目標 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 特殊相対性理論、前期量子論、原子、原子核の構造を理解し説明できる。 放射性壊変、核反応について説明できる。 荷電粒子、光子、中性子と物質との相互作用について理解し説明できる。 様々な放射線検出器の原理を理解し、説明できる。 計数値の統計について理解し、誤差も含めて測定値の評価ができる。 放射線の人体に対する影響の外観を理解できる。 放射線防護の基本について理解できる。 | | | | |
| ルーブリック | | | | |
| | 理想的な到達レベルの目安 | 標準的な到達レベルの目安 | 未到達レベルの目安 | |
| 評価項目1 | 放射線物理学の基本的な部分を説明し、問題を解くことが出来る。 | 放射線物理学の基本的な部分を説明出来る。 | 放射線物理学の基本的な部分を説明出来ない。 | |
| 評価項目2 | 放射線計測や測定器の基本的な部分を説明し、問題を解くことが出来る。 | 放射線計測や測定器の基本的な部分を説明出来る。 | 放射線計測や測定器の基本的な部分を説明出来ない。 | |
| 評価項目3 | 放射線の人体に対する影響や放射線防護の基本的な部分を説明し、問題を解くことが出来る。 | 放射線の人体に対する影響や放射線防護の基本的な部分を説明出来る。 | 放射線の人体に対する影響や放射線防護の基本的な部分を説明出来ない。 | |
| 学科の到達目標項目との関係 | | | | |
| 専攻科課程 B-1 JABEE B-1 | | | | |
| 教育方法等 | | | | |
| 概要 | 放射線物理学を中心に、放射線についての基本的なことについて学ぶ。本講義の内容は、第2種放射線取扱主任者免許状を取得するための放射線取扱主任者試験の筆記試験に出題される、物理学や化学、生物学、実務に関する分野の基本部分に対応している。この分野における基本的な問題が解けるようになることを目標とする。 | | | |
| 授業の進め方・方法 | 授業は、資料プリントを用いた講義形式が中心となるが、放射線測定テーマでは実際に測定器を用いた実験も行う。また、この科目は学修単位科目のため、事前・事後学習として基本的な演習問題をおこなう。 | | | |
| 注意点 | 放射線は目に見えないが、常に現象をイメージすること。放射線取扱主任者第2種試験の物理学や化学、生物学、実務に関する分野の基本部分に対応しているため、将来を見据え正しい放射線の知識を身に着けるように取り組み、わからないことは随時質問に来ること。 授業90分に対して補助教科書や配布プリントを活用して90分以上の予習・復習を行うこと。 | | | |
| 授業の属性・履修上の区分 | | | | |
| <input type="checkbox"/> アクティブラーニング <input type="checkbox"/> ICT 利用 <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | |
| 授業計画 | | | | |
| | 週 | 授業内容 | 週ごとの到達目標 | |
| 前期 | 1stQ | 1週 | 特殊相対性理論、前期量子論 | 粒子・光子の運動量・エネルギー 物質波 単位について理解し、基本的な問題が解ける。 |
| | | 2週 | 原子、原子核の構造1 | 原子模型 励起と電離 結合エネルギーについて理解し、基本的な問題が解ける。 |
| | | 3週 | 原子、原子核の構造2 | 原子模型 励起と電離 結合エネルギーについて理解し、基本的な問題が解ける。 |
| | | 4週 | 放射性壊変、核反応1 | α線 β線 γ線 エネルギー準位について理解し、基本的な問題が解ける。 |
| | | 5週 | 放射性壊変、核反応2 | 反応断面積 放射性核種について理解し、基本的な問題が解ける。 |
| | | 6週 | 放射性壊変、核反応3 | 放射化について理解し、基本的な問題が解ける。 |
| | | 7週 | 放射線と物質の相互作用1 | 電子 重荷電粒子と物質の相互作用について理解し、基本的な問題が解ける。 |
| | | 8週 | 放射線と物質の相互作用2 | 光子と物質の相互作用について理解し、基本的な問題が解ける。 |
| | 2ndQ | 9週 | 放射線と物質の相互作用3 | 光子・中性子と物質の相互作用について理解し、基本的な問題が解ける。 |
| | | 10週 | 放射線検出器1 | 気体の検出器について理解し、基本的な問題が解ける。 |
| | | 11週 | 放射線検出器2 | 固体の検出器について理解し、基本的な問題が解ける。 |
| | | 12週 | 放射線計測、計数値の統計 | 放射線計測の仕組みを理解し、基本的な計数値の統計処理ができる。 |
| | | 13週 | 放射線生物学1 | 放射線の人体に対する影響の外観について理解し、基本的な問題が解ける。 |
| | | 14週 | 放射線生物学2 | 放射線の人体に対する影響の外観について理解し、基本的な問題が解ける。 |
| | | 15週 | 放射線防護 | 放射線防護の基本について理解し、基本的な問題が解ける。 |

| | | | | | | | |
|---------|----|-----|------|----|---------|-----|-----|
| | | 16週 | | | | | |
| 評価割合 | | | | | | | |
| | 試験 | 発表 | 相互評価 | 態度 | ポートフォリオ | その他 | 合計 |
| 総合評価割合 | 80 | 0 | 0 | 0 | 0 | 20 | 100 |
| 基礎的能力 | 80 | 0 | 0 | 0 | 0 | 20 | 100 |
| 専門的能力 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 分野横断的能力 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

| | | | | | | | |
|---|--|---------------------------------|--|---------------------------------------|------------------------------|---|-----|
| 木更津工業高等専門学校 | | 開講年度 | 令和05年度 (2023年度) | | 授業科目 | 応用化学特論 | |
| 科目基礎情報 | | | | | | | |
| 科目番号 | K0501 | | 科目区分 | 専門 / 必修選択 | | | |
| 授業形態 | 講義 | | 単位の種別と単位数 | 学修単位: 2 | | | |
| 開設学科 | 環境建設工学専攻 | | 対象学年 | 専1 | | | |
| 開設期 | 前期 | | 週時間数 | 2 | | | |
| 教科書/教材 | 必要に応じて資料を配付 | | | | | | |
| 担当教員 | 藤井 翔 | | | | | | |
| 到達目標 | | | | | | | |
| 身の回りの物質は全て原子や分子でできており、それらの物質の特性を生かすことで、人間生活が豊かになっている。このような物質の特性がなぜ生まれるのか、また特性をどのように評価するのかについて関心を高め、「化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養うこと」を目標とする。 | | | | | | | |
| ルーブリック | | | | | | | |
| | 理想的な到達レベルの目安 | | 標準的な到達レベルの目安 | | 未到達レベルの目安 | | |
| 評価項目1 | 身の回りの物質や代表的な化学反応について、科学的概念や化学の法則などを用いて説明できる。 | | 身の回りの物質や代表的な化学反応について、概念や用語の誘導をされると説明できる。 | | 身の回りの物質や代表的な化学反応について、説明できない。 | | |
| 評価項目2 | 身の回りの現象について、原子や分子の構造や運動などと関連させて説明できる。 | | 身の回りの現象について、概念や用語を誘導されると説明できる。 | | 身の回りの現象について、説明できない。 | | |
| 評価項目3 | 各種分析法の原理について、詳細に説明できる。 | | 各種分析法の原理について、概要が説明できる。 | | 各種分析法の原理について、説明できない。 | | |
| 学科の到達目標項目との関係 | | | | | | | |
| 専攻科課程 B-1 JABEE B-1 | | | | | | | |
| 教育方法等 | | | | | | | |
| 概要 | パワーポイントを用いて講義を行う。 | | | | | | |
| 授業の進め方・方法 | 原子・分子の構造を学んだ上で、有機・無機化合物の性質を学習し、それらの物質を分析する測定の実験などを説明する。 | | | | | | |
| 注意点 | 授業時間内で取り扱う内容に対して、より深い理解が望まれる。授業90分に対して90分以上の予習・復習を行うこと。この科目は学修単位科目のため、事前・事後学習としてレポート等を課すことがあります。 | | | | | | |
| 授業の属性・履修上の区分 | | | | | | | |
| <input type="checkbox"/> アクティブラーニング | | <input type="checkbox"/> ICT 利用 | | <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 | | <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | |
| 授業計画 | | | | | | | |
| | | 週 | 授業内容 | 週ごとの到達目標 | | | |
| 前期 | 1stQ | 1週 | ガイダンス | | | | |
| | | 2週 | 原子の構造 | 原子を構成する粒子について説明できる。 電子軌道について理解できる。 | | | |
| | | 3週 | 分子の構造 | 化学結合について説明できる。 化学反応について理解できる。 | | | |
| | | 4週 | 電磁波 (1) | 紫外可視分光測定について理解できる。 発光の原理について理解できる。 | | | |
| | | 5週 | 電磁波 (2) | 赤外分光法について理解できる。 ラマン分光法について理解できる。 | | | |
| | | 6週 | 電磁波 (3) | 核磁気共鳴について理解できる。 | | | |
| | | 7週 | まとめ (1) | | | | |
| | | 8週 | 界面化学 | 固体・液体・気体が接する界面について理解できる。 | | | |
| | 2ndQ | 9週 | 電気化学 | 電気化学測定について理解できる。 | | | |
| | | 10週 | 微小な構造 (1) | 光学顕微鏡について理解できる。 電子顕微鏡について理解できる。 | | | |
| | | 11週 | 微小な構造 (2) | X線回折について理解できる。 | | | |
| | | 12週 | 機器分析 | 各種分析装置の原理を理解できる。 | | | |
| | | 13週 | 化学に関する予備知識 | 研究における安全について理解できる。 | | | |
| | | 14週 | まとめ (2) | | | | |
| | | 15週 | 定期試験 | | | | |
| | | 16週 | 試験返却 | | | | |
| 評価割合 | | | | | | | |
| | 試験 | 小テスト | 相互評価 | 態度 | ポートフォリオ | その他 | 合計 |
| 総合評価割合 | 60 | 0 | 0 | 0 | 0 | 40 | 100 |
| 基礎的能力 | 60 | 0 | 0 | 0 | 0 | 40 | 100 |
| 専門的能力 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 分野横断的能力 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

| | | | | | |
|---|--|---|--|---|--------|
| 木更津工業高等専門学校 | | 開講年度 | 令和05年度 (2023年度) | 授業科目 | 材料力学通論 |
| 科目基礎情報 | | | | | |
| 科目番号 | K1801 | | 科目区分 | 専門 / 必修 | |
| 授業形態 | 講義 | | 単位の種別と単位数 | 学修単位: 2 | |
| 開設学科 | 環境建設工学専攻 | | 対象学年 | 専1 | |
| 開設期 | 前期 | | 週時間数 | 2 | |
| 教科書/教材 | 適宜プリントを配布 | | | | |
| 担当教員 | 奥山 彫夢 | | | | |
| 到達目標 | | | | | |
| <p>1) 応力とひずみの概念を説明できる。</p> <p>2) 応力成分が垂直応力とせん断応力に分けられることが説明でき、主応力を求めることができる。</p> <p>3) 公称ひずみと公称応力、公称ひずみと真ひずみ (対数ひずみ) の違いを応力-ひずみ曲線から説明できる。</p> <p>4) たわみの微分方程式を導出し、積分法を使ってはりのたわみが計算できる。</p> <p>5) 外力によってなされる仕事と部材に蓄えられるひずみエネルギーの関係を説明できる。</p> <p>6) カスチリアノの定理により変位、たわみ角を求めることができる。</p> | | | | | |
| ルーブリック | | | | | |
| | 理想的な到達レベルの目安 | 標準的な到達レベルの目安 | 未到達レベルの目安 | | |
| 評価項目1 | 応力とひずみの概念を説明できる。 | 応力とひずみの定義を説明できる。 | 応力とひずみの定義を説明できない。 | | |
| 評価項目2 | 応力成分が垂直応力とせん断応力に分けられることが説明でき、主応力を求めることができる。 | 応力成分が垂直応力とせん断応力に分けられることが説明できる。 | 応力成分が垂直応力とせん断応力に分けられることが説明できない。 | | |
| 評価項目3 | 公称ひずみと公称応力、公称ひずみと真ひずみ (対数ひずみ) の違いを応力-ひずみ曲線から説明できる。 | 公称ひずみと公称応力、公称ひずみと真ひずみ (対数ひずみ) の違いを説明できる。 | 公称ひずみと公称応力、公称ひずみと真ひずみ (対数ひずみ) の違いを説明できない。 | | |
| 評価項目4 | たわみの微分方程式を導出し、積分法を使ってはりのたわみが計算できる。 | 積分法を使ってはりのたわみが計算できる。 | 積分法を使ってはりのたわみが計算できない。 | | |
| 評価項目5 | 引張・圧縮、曲げによってなされる仕事と部材に蓄えられるひずみエネルギーを計算できる。 | 引張・圧縮、曲げによってなされる仕事と部材に蓄えられるひずみエネルギーの関係を説明できる。 | 引張・圧縮、曲げによってなされる仕事と部材に蓄えられるひずみエネルギーの関係を説明できない。 | | |
| 評価項目6 | カスチリアノの定理を理解し、不静定はりの問題などに応用できる。 | カスチリアノの定理を理解し、基本的な問題を解くことができる。 | カスチリアノの定理による基礎的な問題を解くことができるない。 | | |
| 学科の到達目標項目との関係 | | | | | |
| 専攻科課程 B-3 JABEE B-3 | | | | | |
| 教育方法等 | | | | | |
| 概要 | 本科で学んだ応力の数学的扱いを理解し、2次元の主応力を求め、その物理的意味をできること、およびエネルギー法の一つであるカスチリアノの定理を理解し、不静定はりの問題などに応用できることを目指す。 | | | | |
| 授業の進め方・方法 | 適宜配布するプリントに従って講義を進める。 | | | | |
| 注意点 | 授業時間以上の自学自習を行うことを忘れないように。不明な点などあれば随時質問に訪れること。 | | | | |
| 授業の属性・履修上の区分 | | | | | |
| <input type="checkbox"/> アクティブラーニング | | <input type="checkbox"/> ICT 利用 | | <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 | |
| <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | |
| 授業計画 | | | | | |
| | 週 | 授業内容 | 週ごとの到達目標 | | |
| 前期 | 1stQ | 1週 | 質点から連続体へ | 2 質点の相互作用から物質の微視的構造を無視できるレベルの連続体の概念が説明できる。(MCC) | |
| | | 2週 | 静力学 | 材料力学に必要な静力学の基本的事項を復習。(MCC) | |
| | | 3週 | 応力とひずみ | 外力と内力の関係、内力と応力、伸びとひずみの関係を理解する。材料力学で扱う微小変形での応力とひずみが比例すること (フックの法則) を理解し、その比例定数である弾性係数 (縦弾性係数、横弾性係数) を説明できる。(MCC) | |
| | | 4週 | 丸棒の変形 | 丸棒に荷重を負荷した場合の応力計算ができる。応力作用面の符号を理解し、軸力を受ける棒 (断面が一様でない場合を含む) の応力、ひずみ、伸び、自重が無視できない棒の任意の断面の応力と変位を求めることができる。垂直ひずみと横ひずみの大きさの比であるポアソン比について理解する。(MCC) | |
| | | 5週 | 丸棒の不静定問題 | 軸力を受ける両端固定棒、剛体板で結合された3本棒などの不静定問題について、各棒に生じる応力を計算できる。(MCC) | |
| | | 6週 | 応力の座標変換と主応力 | 3次元の応力とひずみの定義を理解する。3次元の応力成分は9成分あり、モーメントのつり合いからせん断応力の共役関係を導出できる。応力は座標変換出来る事を二次元応力成分で理解し、主応力、最大せん断応力の計算ができる。(MCC) | |
| | | 7週 | 中間試験 | | |
| | | 8週 | 中間試験の返却と解説 | | |

| | | | |
|------|-----|---------------------------------------|--|
| 2ndQ | 9週 | 曲げを受けるはり内部に生ずる曲げ応力、曲げモーメント、せん断力、せん断応力 | 曲げを受けるはり内部に生ずる曲げ応力、曲げモーメント、せん断力、せん断応力に関する式を導出し利用できる。(MCC) |
| | 10週 | 単純支持はりの変形 | 単純支持はりに集中荷重、分布荷重、モーメント荷重がそれぞれ作用するときの変形図をイメージし、その変形図からせん断力線図と曲げモーメント線図をイメージできるようになる。(MCC) |
| | 11週 | せん断力線図と曲げモーメント線図 | 力のつり合いとモーメントのつり合いから、仮想断面に作用するせん断力と曲げモーメントを求め、せん断力線図と曲げモーメント線図を描くことができる。(MCC) |
| | 12週 | たわみ曲線の微分方程式 | たわみ曲線の微分方程式を導出し、積分法を使って各種条件のはりのたわみを計算できる。(MCC) |
| | 13週 | 不静定はり | 不静定はりの問題を積分法で解くことができる。(MCC) |
| | 14週 | ひずみエネルギー | 物体に外力が作用し変形した場合に、外力のなした仕事量に相当するひずみエネルギーが物体に蓄えられることを説明できる。ひずみエネルギーを外力のなす仕事からと内力のなす仕事から求めることができる。(MCC) |
| | 15週 | カスティリアノの定理 | カスティリアノの定理を理解し、片持ちはりのたわみをカスティリアノの定理を使って求めることができる。(MCC) |
| | 16週 | ポートフォリオの発表 | |

評価割合

| | 試験 | 発表 | 相互評価 | 態度 | ポートフォリオ | その他 | 合計 |
|---------|----|----|------|----|---------|-----|-----|
| 総合評価割合 | 50 | 0 | 0 | 0 | 50 | 0 | 100 |
| 基礎的能力 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 専門的能力 | 50 | 0 | 0 | 0 | 50 | 0 | 100 |
| 分野横断的能力 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

| | | | | |
|--|---|--|---|---|
| 木更津工業高等専門学校 | 開講年度 | 令和05年度 (2023年度) | 授業科目 | コンピュータ科学 |
| 科目基礎情報 | | | | |
| 科目番号 | K1901 | 科目区分 | 専門 / 必修 | |
| 授業形態 | 講義 (オムニバス形式) | 単位の種別と単位数 | 学修単位: 2 | |
| 開設学科 | 環境建設工学専攻 | 対象学年 | 専1 | |
| 開設期 | 後期 | 週時間数 | 2 | |
| 教科書/教材 | 稲垣耕著作『理工系のコンピュータ基礎学』コロナ社、2006年、2520円(税込) | | | |
| 担当教員 | 丸山 真佐夫,和崎 浩幸 | | | |
| 到達目標 | | | | |
| コンピュータのソフトウェアとハードウェア、情報通信の原理、構成等を幅広く理解する。 | | | | |
| ルーブリック | | | | |
| | 理想的な到達レベルの目安 | 標準的な到達レベルの目安 | 未到達レベルの目安 | |
| コンピュータハードウェアの構成 | コンピュータのハードウェアの構成について詳細に説明ができる。 | コンピュータのハードウェアの概要を理解し、基本的な構成について説明ができる。 | コンピュータの基本的な構成について説明ができない。 | |
| コンピュータソフトウェアの構成 | コンピュータのソフトウェアの構成について詳細に説明ができる。 | コンピュータのソフトウェアの概要について理解し、その基本的な構成について説明ができる。 | コンピュータのソフトウェアの基本的な構成について説明ができない。 | |
| オペレーティングシステムの機能と構成 | コンピュータシステムの処理形態やオペレーティングシステムの機能について詳細に説明できる。 | コンピュータシステムの処理形態やオペレーティングシステムの機能について理解し、その基本的な仕組みなどについて説明できる。 | コンピュータシステムの処理形態やオペレーティングシステムの基本的な仕組みなどについて説明できない。 | |
| 情報通信の基本的な仕組み | 情報通信の概要を理解し、その基本的な仕組みについて詳細に説明できる。 | 情報通信の概要を理解し、その基本的な仕組みについて説明できる。 | 情報通信の概要を理解できない、またはその基本的な仕組みについて説明できない。 | |
| 学科の到達目標項目との関係 | | | | |
| 専攻科課程 B-3 JABEE B-3 | | | | |
| 教育方法等 | | | | |
| 概要 | この科目は企業で計算機のシステム設計開発を担当していた教員が、その経験を活かし、コンピュータの基礎技術について、講義形式で授業を行うものである。講義を通じて、コンピュータのソフトウェアとハードウェア、情報通信について歴史、原理、構成等を学習する。 | | | |
| 授業の進め方・方法 | 一つのトピックについて1～2回程度の講義を実施する。講義の中では、随時小演習を行う。【オムニバス】 | | | |
| 注意点 | コンピュータの情報処理について広く解説を行うので、部分的な問題にとらわれすぎずにシステム全体としての構成や振る舞いについて、繋がりをもって理解するように心がけること。 | | | |
| 授業の属性・履修上の区分 | | | | |
| <input type="checkbox"/> アクティブラーニング <input type="checkbox"/> ICT 利用 <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | |
| 授業計画 | | | | |
| | 週 | 授業内容 | 週ごとの到達目標 | |
| 後期 | 3rdQ | 1週 | コンピュータ処理の開発の歴史(1) (丸山 真佐夫1) | コンピュータ開発に至る歴史、コンピュータの世代、性能向上の過程について説明できる。 |
| | | 2週 | CPU・計算機システムの構成、命令セットと機械語(1) (丸山 真佐夫2) | プログラム内蔵方式コンピュータの基本構成と動作原理を説明できる。 |
| | | 3週 | CPU・計算機システムの構成、命令セットと機械語(2) (丸山 真佐夫3) | 命令セットアーキテクチャの意味、RISCとCISCの違いについて説明できる。 |
| | | 4週 | 情報量と2進数による数表現 (和崎 浩幸1) | 情報量の定義を説明でき、固定小数点・浮動小数点の表現が理解できる。 |
| | | 5週 | ブール代数と基本論理演算、論理回路 (和崎 浩幸2) | ブール代数による論理積・論理和・論理否定の混じった簡単な計算ができる。論理回路を実現するための回路動作の基本が理解できる。 |
| | | 6週 | 組み合わせ回路の設計、順序回路と状態モデル (和崎 浩幸3) | 真理値表から論理式を求めることができる。また、順序回路について状態遷移図で状態を表すことが理解できる。 |
| | | 7週 | ハードウェアシステムの構成と概要 (和崎 浩幸4) | コンピュータシステムを構成するハードウェアの概要について、説明できる。チューリングマシンの概要について説明できる。 |
| | | 8週 | 中間試験を実施する。 | |
| | 4thQ | 9週 | オペレーティングシステムの概要、情報処理の形態 (和崎 浩幸5) | オペレーティングシステムの基本的な役割について、説明できる。代表的な処理形態について、説明できる。 |
| | | 10週 | 通信プロトコル、コンピュータネットワークの構成 (和崎 浩幸6) | ネットワークの形状や規模について理解し、インターネットの概要を説明できる。ネットワークプロトコルの階層構造が理解できる。 |
| | | 11週 | アルゴリズムと計算量 (丸山 真佐夫4) | 代表的なソートアルゴリズムの手順と計算量を説明できる。O記法の意味を説明できる。 |
| | | 12週 | 高級言語とプログラムの構成 (丸山 真佐夫5) | プログラミング言語の歴史、プログラミングモデルと各モデルの代表的な言語を説明できる。 |
| | | 13週 | コンパイラの仕組み(1) (丸山 真佐夫6) | 典型的なコンパイラの構成を説明できる。 |
| | | 14週 | コンパイラの仕組み(2) (丸山 真佐夫7) | 演算子順位文法による式の解析手順を理解し実行できる。 |
| | | 15週 | 期末試験を実施する。 | |

| | | | |
|--------|-----|--------------|-----|
| | 16週 | 必要に応じて補講を行う。 | |
| 評価割合 | | | |
| | | 試験 | 合計 |
| 総合評価割合 | | 100 | 100 |
| 基礎的能力 | | 90 | 90 |
| 応用的能力 | | 10 | 10 |

| | | | | | | | | |
|---|--|---------------------------------|--|---------------------------------|---|--|-----|--|
| 木更津工業高等専門学校 | | 開講年度 | 令和05年度 (2023年度) | 授業科目 | 材料学通論 | | | |
| 科目基礎情報 | | | | | | | | |
| 科目番号 | K2201 | | 科目区分 | 専門 / 必修選択 | | | | |
| 授業形態 | 講義 | | 単位の種別と単位数 | 学修単位: 2 | | | | |
| 開設学科 | 環境建設工学専攻 | | 対象学年 | 専1 | | | | |
| 開設期 | 後期 | | 週時間数 | 2 | | | | |
| 教科書/教材 | 黒田大介編著「機械・金属材料学」実教出版 3,190(税10%込) | | | | | | | |
| 担当教員 | 青葉 知弥 | | | | | | | |
| 到達目標 | | | | | | | | |
| <p>固体の結晶構造、格子欠陥、強化機構など材料学の基礎事項を簡単に説明できる。 簡単な模式的平衡状態図を読むことができる。転位の定義およびはたらきを簡単に説明できる。</p> | | | | | | | | |
| ルーブリック | | | | | | | | |
| | 理想的な到達レベルの目安 | | 標準的な到達レベルの目安 | | 未到達レベルの目安 | | | |
| 固体の構造、格子欠陥、拡散、転位の定義・はたらき、強化機構 | 相互の関係まで説明できる。 | | それぞれを簡単に説明できる。 | | 定義を説明できない。 | | | |
| 平衡状態図の読み方、Fe-C系平衡状態図 | 材料の製造工程や部品の使用環境において、材料の相を状態図から予測することができる。 | | 指示された組成および温度における平衡相およびそれが混合相の場合にはそれぞれの相の溶質濃度および体積分率を答えることができる。 | | 全率固溶体型状態図、共晶（共析）型状態図、包晶（包析）型状態図を正しく読むことができない。 | | | |
| 学科の到達目標項目との関係 | | | | | | | | |
| 専攻科課程 B-3 JABEE B-3 | | | | | | | | |
| 教育方法等 | | | | | | | | |
| 概要 | 機械を設計するには、部品に適した材料を選択できなければならない。また、機械をメンテナンスするには、部品に使われている材料が使用環境から受ける影響や経時変化を知っていなければならない。これらに必要な材料学の基礎的な知識を学ぶ。予備知識として高校の化学、物理および関数の知識が必要である。材料学については何も知らないという前提で進める。 | | | | | | | |
| 授業の進め方・方法 | <p>【方法】講義、演習を組み合わせる。講義中も積極的に指名して質問を投げかける。 【内容】 固体の構造、格子欠陥、強化機構など材料学の基礎事項を概観する。 材料の地図とも言える平衡状態図の読み方を学び、平衡状態図をもとに鉄鋼材料の熱処理を理解する。</p> | | | | | | | |
| 注意点 | 授業90分に対して教科書・参考図書・配布物を活用して180分以上の予習・復習を行うこと | | | | | | | |
| 授業の属性・履修上の区分 | | | | | | | | |
| <input type="checkbox"/> アクティブラーニング | | <input type="checkbox"/> ICT 利用 | | <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 | | <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | |
| 授業計画 | | | | | | | | |
| 後期 | 3rdQ | 週 | 授業内容 | | | 週ごとの到達目標 | | |
| | | 1週 | ガイダンス | | | | | |
| | | 2週 | 金属材料の性質 | | | 金属材料の性質を簡単に説明できる。 | | |
| | | 3週 | 結晶構造 | | | 結晶構造を簡単に説明できる。 | | |
| | | 4週 | 格子欠陥 | | | 格子欠陥を簡単に説明できる。 | | |
| | | 5週 | 金属の塑性変形 | | | 金属の塑性変形の機構と、すべり系について説明できる。 | | |
| | | 6週 | 金属の強化機構 | | | 金属の強化機構について簡単に説明できる。 | | |
| | | 7週 | 相変態と平衡状態図 | | | 相変態の概念を簡単に説明できる。全率固溶体型・共析型・包析型状態図を読める。 | | |
| | 4thQ | 9週 | 中間試験の返却と解説 | | | | | |
| | | 10週 | Fe-C系状態図と熱処理 | | | Fe-C系状態図におけるフェライト、オーステナイト、セメンタイト、パーライトを簡単に説明できる。 | | |
| | | 11週 | 鉄鋼材料の製法 | | | 鉄鋼材料の製法について簡単に説明できる。 | | |
| | | 12週 | 炭素鋼の熱処理 1 | | | 炭素鋼を熱処理によって起こる現象について簡単に説明できる。 | | |
| | | 13週 | 炭素鋼の熱処理 2 | | | TTT線図とCCT線図について簡単に説明できる。 | | |
| | | 14週 | 金属の凝固過程 | | | 金属の凝固過程について簡単に説明できる。 | | |
| | | 15週 | 定期試験 | | | | | |
| | | 16週 | 定期試験の返却と解説 | | | | | |
| 評価割合 | | | | | | | | |
| | 試験 | 発表 | 相互評価 | 態度 | ポートフォリオ | その他 | 合計 | |
| 総合評価割合 | 80 | 0 | 0 | 0 | 0 | 20 | 100 | |
| 基礎的能力 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 専門的能力 | 80 | 0 | 0 | 0 | 0 | 20 | 100 | |
| 分野横断的能力 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |

| | | | | |
|--|---|---|---|--|
| 木更津工業高等専門学校 | 開講年度 | 令和05年度 (2023年度) | 授業科目 | 問題解決技法 |
| 科目基礎情報 | | | | |
| 科目番号 | K2301 | 科目区分 | 専門 / 必修 | |
| 授業形態 | 演習 (クラス形式) | 単位の種別と単位数 | 学修単位: 1 | |
| 開設学科 | 環境建設工学専攻 | 対象学年 | 専1 | |
| 開設期 | 前期 | 週時間数 | 1 | |
| 教科書/教材 | 教員作成資料 | | | |
| 担当教員 | 若葉 陽一, 大枝 真一, 伊藤 裕一, 泉 源, 関口 明生, 上村 繁樹, 栗本 育三郎, 青葉 知弥, 栗本 祐司, 湯谷 賢太郎 | | | |
| 到達目標 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・グループエンカウンター、KJ法を理解し実施できる。 ・ポスター等を使った効果的なプレゼンテーションができる。 ・テーマ選定から問題解決技法の一連の流れを修得する。チームの一員としての責任を自覚し、相互に協力しながら、問題解決にあたり、解決策を提案できる。 | | | | |
| ルーブリック | | | | |
| | 理想的な到達レベルの目安 | 標準的な到達レベルの目安 | 未到達レベルの目安 | |
| 評価項目1 | グループエンカウンター、KJ法を理解し実施できる。 | グループエンカウンター、KJ法を理解しある程度実施できる。 | グループエンカウンター、KJ法を理解し実施できない。 | |
| 評価項目2 | 効果的なプレゼンテーションができる。 | 効果的なプレゼンテーションがある程度できる。 | 効果的なプレゼンテーションができない。 | |
| 評価項目3 | テーマ選定から問題解決技法の一連の流れを修得する。チームのリーダーとしての責任を自覚し、相互に協力しながら、問題解決にあたり、解決策を提案できる。 | テーマ選定から問題解決技法の一連の流れを修得する。チームの一員としての責任を自覚し、相互に協力しながら、問題解決にあたり、解決策をある程度提案できる。 | テーマ選定から問題解決技法の一連の流れを修得できない。チームの一員としての責任を自覚せず、相互に協力せず、問題解決にあたり、解決策を提案できない。 | |
| 学科の到達目標項目との関係 | | | | |
| 専攻科課程 D-1 専攻科課程 D-3 JABEE D-1 JABEE D-3 | | | | |
| 教育方法等 | | | | |
| 概要 | 具体的な地域の問題課題を専攻の枠を超えて、チームを作り企業の方々とのディスカッションにより、問題の本質を探り、具体的な解決策を提案する。この科目は企業でシステムの設計開発を担当していた教員が、その経験を活かし、システム開発の設計と実装と評価について、演習形式で授業を行うものである。 | | | |
| 授業の進め方・方法 | ガイダンス、グループエンカウンター演習を実施し、自分と他者の特徴を掴み、KJ法などの問題解決分析手法、アイデア創出の手法を学んだ上で、問題解決のための具体的な演習を行う。最後に報告書をまとめ、発表する。 | | | |
| 注意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・構成的グループエンカウンター法、KJ法等のシステム思考法を学び、チームとしての問題解決演習を実施するため、特に異分野間を意識した、チーム構成能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、ドキュメント作成能力が必要となる。 ・演習では、様々な場面で出てくる諸問題を準学士課程で培った技術や知識を駆使して、積極的に解決するように心がけその時々での対処法を記録・整理することが重要である。 ・プロジェクト実習では、具体的な課題 (条件) に対して、テーマ設定、計画の立案、その条件を克服する解決策の発見、実施、その考察と発表のための整理が重要である。 | | | |
| 授業の属性・履修上の区分 | | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング | | <input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用 | | <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | |
| 授業計画 | | | | |
| | 週 | 授業内容 | 週ごとの到達目標 | |
| 前期 | 1stQ | 1週 | ガイダンス、「パーソナルカード作成」と「グループエンカウンター」 | |
| | | 2週 | 「KJ法入門」と「ブレインストーミング」 | 「KJ法入門」と「ブレインストーミング」が理解できる。 |
| | | 3週 | アントレプレナーシップ (起業家精神) に基づいた課題発見と解決 | アントレプレナーシップ (起業家精神) に基づいた課題発見と解決 |
| | | 4週 | 問題解決課題提示「企業テーマ」 | 問題解決課題提示「企業テーマ」が理解できる。 |
| | | 5週 | アイデアの仮想工房「企業テーマの解決案」 | アイデアの仮想工房「企業テーマの解決案」が提案できる。 |
| | | 6週 | アイデアの発表会: 「企業テーマの解決案の発表」 | 基本的な解決策が提案できる。 |
| | | 7週 | プロジェクト実習(1) 各班ごと | プロジェクトの計画ができる。 |
| | | 8週 | 「プロジェクトアドベンチャー」: 身体活動を通じたコミュニケーション、信頼と協力、条件克服による問題解決 | チームワークを強化できる。 |
| | 2ndQ | 9週 | プロジェクト実習(2) 各班ごと | 計画に従い実施できる。 |
| | | 10週 | プロジェクト実習(3) 各班ごと | 計画に従い実施できる。 |
| | | 11週 | プロジェクト実習(4) 各班ごと | 計画に従い実施できる。 |
| | | 12週 | プロジェクト実習(5) 各班ごと | 計画に従い実施できる。 |
| | | 13週 | プロジェクト実習(6) 各班ごと まとめと発表準備 | まとめができる。パワーポイント等がまとめられる。 |
| | | 14週 | プロジェクト実習発表会(1) | 効果的な発表、適切な質疑応答ができる。 |
| | | 15週 | プロジェクト実習発表会(2), アンケートほか | 効果的な発表、適切な質疑応答ができる。 |
| | | 16週 | 講評 | 今後に向けての反省ができる。 |
| 評価割合 | | | | |
| | 報告書 | 発表 | 合計 | |

| | | | |
|--------|----|----|-----|
| 総合評価割合 | 30 | 70 | 100 |
| 専門的知識 | 15 | 35 | 50 |
| 課題解決能力 | 15 | 35 | 50 |

| | | | | | | | |
|-------------------------------------|--|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|-----------------------------|---|-----|
| 木更津工業高等専門学校 | | 開講年度 | 令和05年度 (2023年度) | | 授業科目 | インターンシップ | |
| 科目基礎情報 | | | | | | | |
| 科目番号 | K2501 | | 科目区分 | 専門 / 選択 | | | |
| 授業形態 | 実験・実習 | | 単位の種別と単位数 | 学修単位: 2 | | | |
| 開設学科 | 環境建設工学専攻 | | 対象学年 | 専1 | | | |
| 開設期 | 前期 | | 週時間数 | 2 | | | |
| 教科書/教材 | | | | | | | |
| 担当教員 | 大野 貴信 | | | | | | |
| 到達目標 | | | | | | | |
| 就業経験を通して、仕事の進め方、人とのコミュニケーションを身に付ける。 | | | | | | | |
| ルーブリック | | | | | | | |
| | 理想的な到達レベルの目安 | | 標準的な到達レベルの目安 | | 未到達レベルの目安 | | |
| 評価項目1 | 就業体験をとおして、自らの能力を高めることができる。 | | 就業体験をとおして、自らの能力を高めることができる程度できる。 | | 就業体験をとおして、自らの能力を高めることができない | | |
| 評価項目2 | 仕事の進め方を理解することができる。 | | 仕事の進め方を理解することができる程度できる。 | | 仕事の進め方を理解することができない。 | | |
| 評価項目3 | 人とのコミュニケーション力を身につけることができる。 | | 人とのコミュニケーション力を身につけることができる程度できる。 | | 人とのコミュニケーション力を身につけることができない。 | | |
| 学科の到達目標項目との関係 | | | | | | | |
| 専攻科課程 D-1 JABEE D-1 | | | | | | | |
| 教育方法等 | | | | | | | |
| 概要 | 企業、大学等のインターンシップに応募し、体験する。 | | | | | | |
| 授業の進め方・方法 | 数週間の現場体験をとおして、具体的な課題に取り組むことにより、実地の課題を解決しながら、報告書等まとめる。最後に、プレゼンテーションを実施する。 | | | | | | |
| 注意点 | 企業や大学の組織の中に入るので、情報漏洩など細心の注意を払うこと。 | | | | | | |
| 授業の属性・履修上の区分 | | | | | | | |
| <input type="checkbox"/> アクティブラーニング | | <input type="checkbox"/> ICT 利用 | | <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 | | <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | |
| 授業計画 | | | | | | | |
| | | 週 | 授業内容 | | 週ごとの到達目標 | | |
| 前期 | 1stQ | 1週 | 企業・大学等での実習 | | 実習を理解し、実習を行い、報告書を作成できる。 | | |
| | | 2週 | 企業・大学等での実習 | | 実習を理解し、実習を行い、報告書を作成できる。 | | |
| | | 3週 | 企業・大学等での実習 | | 実習を理解し、実習を行い、報告書を作成できる。 | | |
| | | 4週 | 企業・大学等での実習 | | 実習を理解し、実習を行い、報告書を作成できる。 | | |
| | | 5週 | 企業・大学等での実習 | | 実習を理解し、実習を行い、報告書を作成できる。 | | |
| | | 6週 | 企業・大学等での実習 | | 実習を理解し、実習を行い、報告書を作成できる。 | | |
| | | 7週 | 企業・大学等での実習 | | 実習を理解し、実習を行い、報告書を作成できる。 | | |
| | | 8週 | 企業・大学等での実習 | | 実習を理解し、実習を行い、報告書を作成できる。 | | |
| | 2ndQ | 9週 | 企業・大学等での実習 | | 実習を理解し、実習を行い、報告書を作成できる。 | | |
| | | 10週 | 企業・大学等での実習 | | 実習を理解し、実習を行い、報告書を作成できる。 | | |
| | | 11週 | 企業・大学等での実習 | | 実習を理解し、実習を行い、報告書を作成できる。 | | |
| | | 12週 | 企業・大学等での実習 | | 実習を理解し、実習を行い、報告書を作成できる。 | | |
| | | 13週 | 企業・大学等での実習 | | 実習を理解し、実習を行い、報告書を作成できる。 | | |
| | | 14週 | 企業・大学等での実習 | | 実習を理解し、実習を行い、報告書を作成できる。 | | |
| | | 15週 | 企業・大学等での実習 | | 実習を理解し、実習を行い、報告書を作成できる。 | | |
| | | 16週 | インターンシップ発表会 | | インターンシップの内容をプレゼンテーションできる | | |
| 評価割合 | | | | | | | |
| | 試験 | 発表 | 相互評価 | 態度 | 報告書 | その他 | 合計 |
| 総合評価割合 | 0 | 70 | 0 | 0 | 30 | 0 | 100 |
| 基礎的能力 | 0 | 10 | 0 | 0 | 10 | 0 | 20 |
| 専門的能力 | 0 | 10 | 0 | 0 | 10 | 0 | 20 |
| 分野横断的能力 | 0 | 50 | 0 | 0 | 10 | 0 | 60 |

| | | | | | |
|--|--|-----------------------------------|------------------------------------|---|------|
| 木更津工業高等専門学校 | | 開講年度 | 令和05年度 (2023年度) | 授業科目 | 現代文明 |
| 科目基礎情報 | | | | | |
| 科目番号 | G0401 | | 科目区分 | 一般 / 必修 | |
| 授業形態 | 講義 | | 単位の種別と単位数 | 学修単位: 2 | |
| 開設学科 | 環境建設工学専攻 | | 対象学年 | 専2 | |
| 開設期 | 前期 | | 週時間数 | 2 | |
| 教科書/教材 | 教科書なし | | | | |
| 担当教員 | 小谷 俊博 | | | | |
| 到達目標 | | | | | |
| 授業に基づいて、週ごとに扱う概念の輪郭をつかみ、その概念を用いて、あるいはその概念について主体的に議論できるようになることが、本授業の到達目標である。なお、現代文明を理解する上で、批判的な思考と共通言語化しつつある英語の理解も不可欠である。そこで、批判的な思考のための訓練、英文での現代の問題理解も目標とし、基本的なスキルを身につけることも目指す。 | | | | | |
| ルーブリック | | | | | |
| | 理想的な到達レベルの目安 | 標準的な到達レベルの目安 | 未到達レベルの目安 | | |
| 評価項目 1 | 現代文明を特徴付ける諸概念の概要を説明できる。 | 現代文明を特徴付ける諸概念の概要を理解できる。 | 現代文明を特徴付ける諸概念の概要を理解できない。 | | |
| 評価項目 2 | 発展的な議論を行うためのスキルを身につけている。 | 発展的な議論を行うためのスキルの概要を理解できる。 | 発展的な議論を行うためのスキルが理解できない。 | | |
| 評価項目 3 | 現代の問題を理解する上で有用な、比較的難解な英文を読み解くことができる。 | 現代の問題を理解する上で有用な、平易な英文を読み解くことができる。 | 現代の問題を理解する上で有用な、平易な英文を読み解くことができない。 | | |
| 学科の到達目標項目との関係 | | | | | |
| 専攻科課程 A-2 JABEE A-2 | | | | | |
| 教育方法等 | | | | | |
| 概要 | 現代文明は、高度な科学技術の発展に主導されて、新たな制度や思想が構築されてきたもので、過去の歴史と比較した際の相対的な物質的豊かさを特徴の一つとする。新たな技術や豊かさは、新しい概念や社会問題を生み出してきた。この授業では、現代文明がもたらした諸問題について、週ごとに一つの概念に注目して、基本的知識の習得および主体的・批判的な検討を行う。 | | | | |
| 授業の進め方・方法 | まず、取り扱う概念の基本的な性格を確認し、代表的な見解を理解する。その上で、関連する現実的な問題について、問いを投げかけるか、あるいはある主張をもった文章を提示する。受講者は、授業で学んだ見解をもとに、主体的に問いに取り組むか、あるいは文章を批判的に検討する。 | | | | |
| 注意点 | 授業90分に対して、紹介する教材を用いて180分以上の予習と復習を実施すること。また、課題等で簡単な英文を取り扱うことがある。 | | | | |
| 授業の属性・履修上の区分 | | | | | |
| <input type="checkbox"/> アクティブラーニング | | <input type="checkbox"/> ICT 利用 | | <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 | |
| <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | |
| 授業計画 | | | | | |
| | | 週 | 授業内容 | 週ごとの到達目標 | |
| 前期 | 1stQ | 1週 | オリエンテーション | 授業全体の方針を理解する。 | |
| | | 2週 | 自由 | リベラリズムの理解を中心とした自由に関する基本的な考え方を理解する。 | |
| | | 3週 | 平等 | 何の平等について考えることができるのかを中心に、平等に関する基本的な考え方を理解する。 | |
| | | 4週 | 正義 | ロールズの基本的な構想について、ごく基本的な考え方を理解する。 | |
| | | 5週 | デモクラシー | 統治形態の一つとしてのデモクラシーに関する基本的な考え方を理解する。 | |
| | | 6週 | 運 | 運がもたらすものは何か、どこまでがコントロールできるものかについて、哲学的な観点からの考え方を理解する。 | |
| | | 7週 | 差別 | 偏見や差別がどのような対象に向けられてきたのか、現代社会に特徴的な問題に焦点を当てて考えることができる。 | |
| | | 8週 | 生命① | 医療の高度な発展により生じた現代的問題について、医療倫理の観点から理解する。 | |
| | 2ndQ | 9週 | 生命② | 現代において死刑制度は必要なのか、また自殺や安楽死の権利は認められるのかについて、基本的な知識を習得する。 | |
| | | 10週 | 性 | ジェンダーに関する問題だけでなく、性的マイノリティに関する基本的な知識を習得する。 | |
| | | 11週 | 環境 | 環境破壊や持続可能性などの環境倫理に関する基本的な知識を習得する。 | |
| | | 12週 | 医療 | 公衆衛生や健康格差などの医療に関する問題の基本的な考え方や知識を習得する。 | |
| | | 13週 | 科学技術 | 科学技術と社会の関係性という観点から、科学技術が抱える問題を理解する。 | |
| | | 14週 | 時事問題 | 現代文明の抱える最新の問題を取り上げて議論する。 | |
| | | 15週 | 総まとめと展望 | これまで学んだことを振り返りつつ、扱えなかったトピックについて概観する。 | |
| | | 16週 | | | |
| 評価割合 | | | | | |

| | レポート | 発表 | 相互評価 | 態度 | ポートフォリオ | その他 | 合計 |
|---------|------|----|------|----|---------|-----|-----|
| 総合評価割合 | 60 | 0 | 0 | 0 | 20 | 20 | 100 |
| 基礎的能力 | 60 | 0 | 0 | 0 | 20 | 20 | 100 |
| 専門的能力 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 分野横断的能力 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

| | | | | | | | |
|---|--|---------------------------------|---------------------------|--|----------------------------|---|-----|
| 木更津工業高等専門学校 | | 開講年度 | 令和05年度 (2023年度) | | 授業科目 | 応用材料工学 | |
| 科目基礎情報 | | | | | | | |
| 科目番号 | C0501 | | 科目区分 | 専門 / 選択 | | | |
| 授業形態 | 講義 | | 単位の種別と単位数 | 学修単位: 2 | | | |
| 開設学科 | 環境建設工学専攻 | | 対象学年 | 専2 | | | |
| 開設期 | 後期 | | 週時間数 | 2 | | | |
| 教科書/教材 | 担当者作成の資料を使用する | | | | | | |
| 担当教員 | 青木 優介 | | | | | | |
| 到達目標 | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・コンクリート構造物の非破壊検査を理解する。 ・コンクリート構造物の維持管理を理解する。 ・コンクリート構造物の補修について理解する。 | | | | | | | |
| ルーブリック | | | | | | | |
| | 理想的な到達レベルの目安 | | 標準的な到達レベルの目安 | | 未到達レベルの目安 | | |
| 非破壊検査 | コンクリート構造物の非破壊検査について他者に説明できる。 | | コンクリート構造物の非破壊検査について理解できる。 | | コンクリート構造物の非破壊検査について理解できない。 | | |
| 維持管理 | コンクリート構造物の維持管理について他者に説明できる。 | | コンクリート構造物の維持管理について理解できる。 | | コンクリート構造物の維持管理について理解できない。 | | |
| 補修 | コンクリート構造物の補修について他者に説明できる。 | | コンクリート構造物の補修について理解できる。 | | コンクリート構造物の補修について理解できない。 | | |
| 学科の到達目標項目との関係 | | | | | | | |
| 専攻科課程 B-2 JABEE B-2 | | | | | | | |
| 教育方法等 | | | | | | | |
| 概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・コンクリート構造物の現状と課題について学ぶ。 ・コンクリート構造物の診断にあたって、非破壊検査ならびに微破壊検査を体験し、理解する。 ・コンクリート構造物の補修方法について学ぶ。 | | | | | | |
| 授業の進め方・方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じて、対面形式ないしは遠隔形式で授業を進める。 ・本科目は学修単位科目であり、自学自習が必要である。 ・質問がある場合には、随時受け付ける。 | | | | | | |
| 注意点 | ・本科目は学修単位科目であり、授業時間の2倍以上の自学自習時間を要する。 | | | | | | |
| 授業の属性・履修上の区分 | | | | | | | |
| <input type="checkbox"/> アクティブラーニング | | <input type="checkbox"/> ICT 利用 | | <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応 | | <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | |
| 授業計画 | | | | | | | |
| 後期 | 3rdQ | 週 | 授業内容 | 週ごとの到達目標 | | | |
| | | 1週 | ガイダンス | 本科目の方針や評価方法を学ぶ | | | |
| | | 2週 | コンクリート構造物の点検 (1) | コンクリート構造物の点検例 (中性化と水掛り) を理解する (MCC) | | | |
| | | 3週 | コンクリート構造物の点検 (2) | コンクリート構造物の点検例 (塩害) を理解する (MCC) | | | |
| | | 4週 | 点検結果シートの作成演習 | 上記点検例のシートを作成する | | | |
| | | 5週 | コンクリート構造物の詳細調査 (1) | コンクリート構造物の詳細調査例 (中性化) を理解する (MCC) | | | |
| | | 6週 | コンクリート構造物の詳細調査 (2) | コンクリート構造物の詳細調査例 (中性化) を理解する (MCC) | | | |
| | | 7週 | コンクリート構造物の詳細調査 (3) | コンクリート構造物の詳細調査例 (中性化) を理解する (MCC) | | | |
| | 8週 | 詳細調査演習 | 詳細調査の演習を行う | | | | |
| | 4thQ | 9週 | コンクリート構造物の補修 (1) | コンクリート構造物の補修について理解する (MCC) | | | |
| | | 10週 | コンクリート構造物の補修 (2) | コンクリート構造物の補修について理解する (MCC) | | | |
| | | 11週 | コンクリート構造物の補修 (3) | コンクリート構造物の補修について理解する (MCC) | | | |
| | | 12週 | コンクリート構造物の現状と課題 (1) | コンクリート構造物の現状と課題 (1) | | | |
| | | 13週 | コンクリート構造物の現状と課題 (2) | コンクリート構造物の現状と課題 (2) | | | |
| | | 14週 | コンクリート構造物の現状と課題 (3) | コンクリート構造物の現状と課題 (3) | | | |
| | | 15週 | 授業の総括 | 授業を振り返る | | | |
| 16週 | | | | | | | |
| 評価割合 | | | | | | | |
| | 試験 | レポート | 相互評価 | 態度 | ポートフォリオ | その他 | 合計 |
| 総合評価割合 | 0 | 100 | 0 | 0 | 0 | 0 | 100 |
| 非破壊検査 | 0 | 40 | 0 | 0 | 0 | 0 | 40 |
| 維持管理 | 0 | 40 | 0 | 0 | 0 | 0 | 40 |
| 補修 | 0 | 20 | 0 | 0 | 0 | 0 | 20 |

| | | | | |
|--|---|---------------------------|----------------------------|---|
| 木更津工業高等専門学校 | 開講年度 | 令和05年度 (2023年度) | 授業科目 | 応用地盤工学 |
| 科目基礎情報 | | | | |
| 科目番号 | C0601 | 科目区分 | 専門 / 選択 | |
| 授業形態 | 講義 | 単位の種別と単位数 | 学修単位: 2 | |
| 開設学科 | 環境建設工学専攻 | 対象学年 | 専2 | |
| 開設期 | 前期 | 週時間数 | 2 | |
| 教科書/教材 | 配布資料 | | | |
| 担当教員 | 鬼塚 信弘 | | | |
| 到達目標 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 発生土利用の考え方を理解できる。 ・ 発生土の土質区分、適用用途について理解できる。 ・ 発生土の用途別利用方法を理解できる。 ・ 発生土の力学特性を理解しながら、土の破壊基準と土の異方性について理解ができる。 | | | | |
| ループリック | | | | |
| | 理想的な到達レベルの目安(優) | 標準的な到達レベルの目安(良) | 未到達レベルの目安(不可) | |
| 評価項目1 | 建設発生土の有効利用の応用について理解できる。 | 建設発生土の有効利用の基礎を理解できる。 | 建設発生土の有効利用の基礎を理解できない。 | |
| 評価項目2 | 建設発生土を用いた建設工事の設計施工に幅広く応用できる。 | 建設発生土を用いた建設工事の設計施工に応用できる。 | 建設発生土を用いた建設工事の設計施工に応用できない。 | |
| 評価項目3 | 建設発生土の力学特性の応用について理解できる。 | 建設発生土の力学特性の基礎を習得できる。 | 建設発生土の力学特性の基礎を理解できない。 | |
| 学科の到達目標項目との関係 | | | | |
| 専攻科課程 B-2 JABEE B-2 | | | | |
| 教育方法等 | | | | |
| 概要 | 現在、土の構造物を建設するにあたって、新材はもとより建設発生土などの再生材の性質を知らなければならない。後者の建設発生土については、国土交通省が関係機関へ通知した「発生土利用基準」に基づき、有効利用されている。しかし、建設発生土は土と同様に特異な性質を持つと同時に、建設発生土を地盤とした時の特有な現象も見られることから、建設発生土の土構造物の安定性や建設発生土地盤内を透水する地下水の状態を把握することも重要である。本科目は、建設発生土の物理現象や化学現象、土質試験法を学ぶ。 | | | |
| 授業の進め方・方法 | 授業は配布資料に沿って行う講義を中心に、理解度を上げるために実験を取り入れた形式で行う。授業内容・方法は建設発生土の有効利用、建設発生土の内容を講義中心に理解を深める。 | | | |
| 注意点 | 近年、ものをリサイクルすることが推進され、地盤工学分野においても建設工事に伴う発生土を有効利用する動きが広がっている。発生土を有効利用する上で、発生土利用基準の適合や技術的な課題を明確にする必要がある。これを機会に土質力学、地盤工学について復習してほしい。また、「土木学会論文集」、「土木学会誌」、「土と基礎」などの論文や学会誌、雑誌、地盤に関する本にも親しむことを推奨する。授業90分に対して、配布資料や補助教科書、参考図書などを活用して180分以上の予習・復習を行うこと。 | | | |
| 授業の属性・履修上の区分 | | | | |
| <input type="checkbox"/> アクティブラーニング <input type="checkbox"/> ICT 利用 <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | |
| 授業計画 | | | | |
| | 週 | 授業内容 | 週ごとの到達目標 | |
| 前期 | 1stQ | 1週 | 建設発生土の有効利用 | 発生土利用の概要について理解できる。(MCC) |
| | | 2週 | 建設発生土の有効利用 | 発生土利用の概要について理解できる。(MCC) |
| | | 3週 | 建設発生土の有効利用 | 発生土利用の概要、発生土利用の考え方を理解できる。(MCC) |
| | | 4週 | 建設発生土の有効利用 | 発生土の土質区分について理解できる。(MCC) |
| | | 5週 | 建設発生土の有効利用 | 発生土の適用用途について理解できる。(MCC) |
| | | 6週 | 建設発生土の有効利用 | 発生土の用途別利用方法を理解できる。(MCC) |
| | | 7週 | 建設発生土の有効利用 | 発生土の用途別利用方法を理解できる。(MCC) |
| | | 8週 | 前期中間試験 | 前期中間試験までの学習内容を理解できる。 |
| | 2ndQ | 9週 | 前期中間試験の解説 | 前期中間試験答案を返却し、解説を受けて確認できる。 |
| | | 10週 | 建設発生土の力学特性 | 発生土の力学特性を理解しながら、土の破壊基準と土の異方性について理解ができる。 |
| | | 11週 | 建設発生土の力学特性 | 発生土の力学特性を理解しながら、土の破壊基準と土の異方性について理解ができる。 |
| | | 12週 | 建設発生土の力学特性 | 発生土の力学特性を理解しながら、土の破壊基準と土の異方性について理解ができる。 |
| | | 13週 | 建設発生土の力学特性 | 発生土の力学特性を理解しながら、土の破壊基準と土の異方性について理解ができる。 |
| | | 14週 | 建設発生土の力学特性 | 発生土の力学特性を理解しながら、土の破壊基準と土の異方性について理解ができる。 |
| | | 15週 | 建設発生土の力学特性 | 発生土の力学特性を理解しながら、土の破壊基準と土の異方性について理解ができる。 |
| | | 16週 | 前期定期試験 | 実施しない。 |
| 評価割合 | | | | |
| | 試験 | 課題 | 合計 | |
| 総合評価割合 | 50 | 50 | 100 | |
| 基礎的能力 | 0 | 0 | 0 | |

| | | | |
|---------|----|----|-----|
| 専門的能力 | 50 | 50 | 100 |
| 分野横断的能力 | 0 | 0 | 0 |

| | | | | |
|---|--|-----------------|--|---|
| 木更津工業高等専門学校 | 開講年度 | 令和05年度 (2023年度) | 授業科目 | 環境工学特論 |
| 科目基礎情報 | | | | |
| 科目番号 | C1201 | 科目区分 | 専門 / 選択 | |
| 授業形態 | 講義 | 単位の種別と単位数 | 学修単位: 2 | |
| 開設学科 | 環境建設工学専攻 | 対象学年 | 専2 | |
| 開設期 | 後期 | 週時間数 | 2 | |
| 教科書/教材 | 必要に応じて資料を配布 | | | |
| 担当教員 | 大久保 努 | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 日本や世界における治水や利水にまつわる歴史や文化、地理的特徴について理解する | | | | |
| ルーブリック | | | | |
| | 理想的な到達レベルの目安 | 標準的な到達レベルの目安 | 未到達レベルの目安 | |
| 治水・利水技術 | 治水・利水技術を理解できる | 治水・利水技術を概ね理解できる | 治水・利水技術を理解できない | |
| 学科の到達目標項目との関係 | | | | |
| 専攻科課程 B-2 JABEE B-2 | | | | |
| 教育方法等 | | | | |
| 概要 | かつて四大文明は河川のもとで誕生しました。我が国の戦国時代では「川を治めるものは国を治める」といわれていました。河川や海岸域と我々の暮らしは密接な関係があり、また、それぞれの時代で人と河川・海岸域との関わり方も変化してきました。過去の歴史を学び、今後の我々と河川・海岸域との関わりはどうかを土木的視点で考えます。 | | | |
| 授業の進め方・方法 | <ul style="list-style-type: none"> レポート課題 (50%) と発表 (50%) で評価する。 授業時間90分に対して参考図書等を活用して180分以上の自学自習を行うこと。 | | | |
| 注意点 | <ul style="list-style-type: none"> 発表会開催が難しい場合はレポート課題に切り替える場合があります。 | | | |
| 授業の属性・履修上の区分 | | | | |
| <input type="checkbox"/> アクティブラーニング <input type="checkbox"/> ICT 利用 <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | |
| 授業計画 | | | | |
| | | 週 | 授業内容 | 週ごとの到達目標 |
| 後期 | 3rdQ | 1週 | ガイダンス 千葉県の治水・利水技術と歴史① (上総掘り, 藤原式水車, 二五穴, 川廻し) | 講義の説明と図書の紹介 千葉県の治水・利水史を理解 (MCC) |
| | | 2週 | 千葉県の治水・利水技術と歴史② (樁海) | 千葉県の治水・利水史を理解 (MCC) |
| | | 3週 | 千葉県の治水・利水技術と歴史③ (利根川東遷事業) | 千葉県の治水・利水史を理解 (MCC) |
| | | 4週 | 日本の近代土木を築いた人びと (井上勝, 田辺朗郎, 古市公威, 沖野忠輝, 廣井勇) | 河川・海岸域における治水・利水技術を理解 (MCC) |
| | | 5週 | 民衆のために生きた土木技術者たち (青山士, 宮本武之輔, 八田與一) | 河川・海岸域における治水・利水技術を理解 (MCC) |
| | | 6週 | 高度成長期を支えた土木技術者たち① (黒四ダム他) | 河川・海岸域における治水・利水技術を理解 (MCC) |
| | | 7週 | 高度成長期を支えた土木技術者たち② (黒四ダム他) | 河川・海岸域における治水・利水技術を理解 (MCC) |
| | | 8週 | レポート作成 | レポート課題を提示 (身近な治水・利水事業として千葉県内または関東地方の治水・利水事業をまとめる) |
| | 4thQ | 9週 | レポート作成・提出 | レポート課題 (身近な治水・利水事業として千葉県内または関東地方の治水・利水事業をまとめる) |
| | | 10週 | 世界で活躍する日本人土木技術者たち① (中村哲 (アフガニスタン), 五洋建設 (スエズ運河)) | 河川・海岸域における治水・利水技術を理解 (MCC) |
| | | 11週 | 世界で活躍する日本人土木技術者たち② (中村哲 (アフガニスタン), 五洋建設 (スエズ運河)) | 河川・海岸域における治水・利水技術を理解 (MCC) |
| | | 12週 | 世界で活躍する日本人土木技術者たち③ (中村哲 (アフガニスタン), 五洋建設 (スエズ運河)) | 河川・海岸域における治水・利水技術を理解 (MCC) |
| | | 13週 | 発表会① | 日本人技術者が海外で携わった治水・利水事業に関して, 事業の概要, 技術者の活躍をまとめ発表 |
| | | 14週 | 発表会② | 日本人技術者が海外で携わった治水・利水事業に関して, 事業の概要, 技術者の活躍をまとめ発表 |
| | | 15週 | 発表会② | 日本人技術者が海外で携わった治水・利水事業に関して, 事業の概要, 技術者の活躍をまとめ発表 |
| | | 16週 | まとめ | |
| 評価割合 | | | | |
| | レポート | 発表 | 合計 | |
| 総合評価割合 | 50 | 50 | 100 | |
| 基礎的能力 | 20 | 20 | 40 | |
| 専門的能力 | 20 | 20 | 40 | |
| 分野横断的能力 | 10 | 10 | 20 | |

| | | | | | |
|--|---|---|--|---|-------|
| 木更津工業高等専門学校 | | 開講年度 | 令和05年度 (2023年度) | 授業科目 | 特別研究Ⅱ |
| 科目基礎情報 | | | | | |
| 科目番号 | C1401 | | 科目区分 | 専門 / 必修 | |
| 授業形態 | 実験・実習 (クラス形式) | | 単位の種別と単位数 | 学修単位: 8 | |
| 開設学科 | 環境建設工学専攻 | | 対象学年 | 専2 | |
| 開設期 | 通年 | | 週時間数 | 4 | |
| 教科書/教材 | 各研究テーマに関する参考書や学術論文 | | | | |
| 担当教員 | 青木 優介, 石井 建樹, 上村 繁樹, 大久保 努, 鬼塚 信弘, 島崎 彦人, 湯谷 賢太郎, 原田 健二, 虻川 和紀, 佐久間 東陽 | | | | |
| 到達目標 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 研究成果について、発表・討論する能力を身につける。 与えられたテーマについての専門知識を身につける。 これまで学んだ専門科目の知識を活用し、自発的に問題を解決する能力を身につける。 | | | | | |
| ルーブリック | | | | | |
| | 理想的な到達レベルの目安 | 標準的な到達レベルの目安 | 未到達レベルの目安 | | |
| 評価項目1 | 研究成果について、発表・討論する応用能力を身につける。 | 研究成果について、発表・討論する能力を身につける。 | 研究成果について、発表・討論する能力を身につけられない。 | | |
| 評価項目2 | 与えられたテーマについての専門知識の応用を身につける。 | 与えられたテーマについての専門知識を身につける。 | 与えられたテーマについての専門知識を身につけられない。 | | |
| 評価項目3 | これまで学んだ専門科目の知識を活用し、自発的に問題を解決する応用能力を身につける。 | これまで学んだ専門科目の知識を活用し、自発的に問題を解決する能力を身につける。 | これまで学んだ専門科目の知識を活用し、自発的に問題を解決する能力を身につけられない。 | | |
| 学科の到達目標項目との関係 | | | | | |
| 専攻科課程 C-2 専攻科課程 D-2 JABEE C-2 JABEE D-2 | | | | | |
| 教育方法等 | | | | | |
| 概要 | <p>特別研究発表会：1月ごろに実施する。 特別研究論文：年度末までに提出する。 予定される研究テーマを以下に示す。</p> <p>テーマ名：自然生態環境・人の健康保護・水環境保全に関する研究 指導教員：上村繁樹, 島崎彦人, 湯谷賢太郎, 大久保努, 虻川和紀, 佐久間東陽</p> <p>テーマ名：構造物の性能および健全度評価に関する研究 指導教員：鬼塚信弘, 青木優介, 石井建樹, 原田健二</p> | | | | |
| 授業の進め方・方法 | 研究は主査教員、副査教員の指導のもと、年間を通して自ら自主的に進める。研究の成果を特別研究発表会にて発表し、デザイン能力やコミュニケーション能力を高めるとともに、特別研究論文を作成して論理的記述力を高める。本科目は学修単位科目であり、自学自習の成果の確認をとまなう。 | | | | |
| 注意点 | 研究は自ら思考して自主的に進めるものであり、講義や実験とは全く異質のものであることを認識することが大切である。研究成果を学会等で発表することは、研究の客観的評価が得られるため、積極的な外部への発表を心がける。 | | | | |
| 授業の属性・履修上の区分 | | | | | |
| <input type="checkbox"/> アクティブラーニング | | <input type="checkbox"/> ICT 利用 | | <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 | |
| <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | |
| 授業計画 | | | | | |
| | 週 | 授業内容 | 週ごとの到達目標 | | |
| 前期 | 1stQ | 1週 | 特別研究Ⅰの課題抽出と研究計画 | 特別研究Ⅰの成果から今後の課題とその研究計画を検討することができる。(MCC) | |
| | | 2週 | 研究 (進捗報告と担当教員との議論を含む) | 自ら思考して自主的に研究を進めることができる。(MCC) | |
| | | 3週 | 研究 (進捗報告と担当教員との議論を含む) | 自ら思考して自主的に研究を進めることができる。(MCC) | |
| | | 4週 | 研究 (進捗報告と担当教員との議論を含む) | 自ら思考して自主的に研究を進めることができる。(MCC) | |
| | | 5週 | 研究 (進捗報告と担当教員との議論を含む) | 自ら思考して自主的に研究を進めることができる。(MCC) | |
| | | 6週 | 研究 (進捗報告と担当教員との議論を含む) | 自ら思考して自主的に研究を進めることができる。(MCC) | |
| | | 7週 | 研究 (進捗報告と担当教員との議論を含む) | 自ら思考して自主的に研究を進めることができる。(MCC) | |
| | | 8週 | 研究 (進捗報告と担当教員との議論を含む) | 自ら思考して自主的に研究を進めることができる。(MCC) | |
| | 2ndQ | 9週 | 研究 (進捗報告と担当教員との議論を含む) | 自ら思考して自主的に研究を進めることができる。(MCC) | |
| | | 10週 | 研究 (進捗報告と担当教員との議論を含む) | 自ら思考して自主的に研究を進めることができる。(MCC) | |
| | | 11週 | 研究 (進捗報告と担当教員との議論を含む) | 自ら思考して自主的に研究を進めることができる。(MCC) | |
| | | 12週 | 研究 (進捗報告と担当教員との議論を含む) | 自ら思考して自主的に研究を進めることができる。(MCC) | |
| | | 13週 | 研究 (進捗報告と担当教員との議論を含む) | 自ら思考して自主的に研究を進めることができる。(MCC) | |
| | | 14週 | 研究 (進捗報告と担当教員との議論を含む) | 自ら思考して自主的に研究を進めることができる。(MCC) | |

| | | | | |
|----|------|-----|----------------------|---|
| | | 15週 | 研究（進捗報告と担当教員との議論を含む） | 自ら思考して自主的に研究を進めることができる。（MCC） |
| | | 16週 | 研究（進捗報告と担当教員との議論を含む） | 自ら思考して自主的に研究を進めることができる。（MCC） |
| 後期 | 3rdQ | 1週 | 研究（進捗報告と担当教員との議論を含む） | 自ら思考して自主的に研究を進めることができる。（MCC） |
| | | 2週 | 研究（進捗報告と担当教員との議論を含む） | 自ら思考して自主的に研究を進めることができる。（MCC） |
| | | 3週 | 研究（進捗報告と担当教員との議論を含む） | 自ら思考して自主的に研究を進めることができる。（MCC） |
| | | 4週 | 研究（進捗報告と担当教員との議論を含む） | 自ら思考して自主的に研究を進めることができる。（MCC） |
| | | 5週 | 研究（進捗報告と担当教員との議論を含む） | 自ら思考して自主的に研究を進めることができる。（MCC） |
| | | 6週 | 研究（進捗報告と担当教員との議論を含む） | 自ら思考して自主的に研究を進めることができる。（MCC） |
| | | 7週 | 研究（進捗報告と担当教員との議論を含む） | 自ら思考して自主的に研究を進めることができる。（MCC） |
| | | 8週 | 特別研究論文の作成 | 専門知識を身につけ、その知識を活用しながら論理的な論文を作成することができる。（MCC） |
| | 4thQ | 9週 | 特別研究論文の作成 | 専門知識を身につけ、その知識を活用しながら論理的な論文を作成することができる。（MCC） |
| | | 10週 | 抄録作成 | 専門知識を身につけ、その知識を活用しながら論理的な抄録を作成することができる。（MCC） |
| | | 11週 | 発表資料作成 | 研究成果について、発表・討論するための発表資料を作成することができる。（MCC） |
| | | 12週 | 発表練習 | 研究成果について、発表・討論するための練習を行うことができる。（MCC） |
| | | 13週 | 特別研究発表会 | 研究成果について、発表・討論することができる。（MCC） |
| | | 14週 | 特別研究論文の推敲 | 自ら思考して自主的に研究を進めることができる。（MCC） |
| | | 15週 | 特別研究論文の完成 | 特別研究論文を完成させ提出することができる。（MCC） |
| | | 16週 | 研究の統括 | 年間を通して、専門科目の知識を活用し、自発的に問題を解決する能力を身につけたかどうかを確認することができる。（MCC） |

| 評価割合 | | | |
|---------|-----|----|-----|
| | 発表会 | 論文 | 合計 |
| 総合評価割合 | 40 | 60 | 100 |
| 基礎的能力 | 0 | 0 | 0 |
| 専門的能力 | 40 | 60 | 100 |
| 分野横断的能力 | 0 | 0 | 0 |

| | | | | | |
|---|--|---------------------------------|--|--------------------------------------|--|
| 木更津工業高等専門学校 | | 開講年度 | 令和05年度 (2023年度) | 授業科目 | 特別演習Ⅱ |
| 科目基礎情報 | | | | | |
| 科目番号 | C1701 | | 科目区分 | 専門 / 必修 | |
| 授業形態 | 演習 (オムニバス形式) | | 単位の種別と単位数 | 学修単位: 2 | |
| 開設学科 | 環境建設工学専攻 | | 対象学年 | 専2 | |
| 開設期 | 通年 | | 週時間数 | 1 | |
| 教科書/教材 | 資料を配布する | | | | |
| 担当教員 | 青木 優介,原田 健二 | | | | |
| 到達目標 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・環境建設工学分野についての幅広い基礎知識と専門知識を有し、技術士一次試験問題レベル (基礎, 適性, 専門問題) に概ね正答することができる。 ・学習した内容を他者に分かりやすくプレゼンテーションできる。 ・実社会で生じている環境建設分野に関する問題について, 自らの考えを小論文形式で述べるることができる。 | | | | | |
| ループリック | | | | | |
| | 理想的な到達レベルの目安 | | 標準的な到達レベルの目安 | | 未到達レベルの目安 |
| 環境建設工学分野についての幅広い基礎知識と専門知識 | 土木学会の土木技術検定試験レベルの問題 (共通問題&専門問題) に正答することができる。 | | 土木学会の土木技術検定試験レベルの問題 (共通問題&専門問題) に概ね正答することができる。 | | 土木学会の土木技術検定試験レベルの問題 (共通問題&専門問題) を正答できない。 |
| 実社会での環境建設分野に関する自らの考えの発表 | 非常にわかりやすく小論文で主張できる。 | | 標準的なレベルで小論文で発表できる。 | | わかりやすく小論文で発表できない。 |
| 学科の到達目標項目との関係 | | | | | |
| 専攻科課程 B-2 JABEE B-2 | | | | | |
| 教育方法等 | | | | | |
| 概要 | 環境建設工学は、技術者倫理や数学、物理、情報、確率・統計、工業英語が基礎となっており、土木材料、施工、建設マネジメント、構造工学、地震工学、維持管理工学、地盤工学、水工学、土木計画学、交通工学、土木環境システムの分野がある。これらの幅広い基礎と専門知識を修得することは不可欠であり、自ら理解することはもちろんのこと、お互いが教え合うことでより理解が深まる。また、自らの研究内容を簡潔に的確に伝えるためには、論理的記述力やプレゼンテーション力が必要となり、既往の研究の洞察もこれらの力を応用して養われたものである。本科目は日本技術士会が提示する技術士一次試験問題などを参考にしながら演習を進め、論理的記述力やプレゼンテーション力の向上を図る授業を学ぶ。【オムニバス方式】 | | | | |
| 授業の進め方・方法 | 状況におうじて、遠隔授業ないしは対面授業で進める。 本科目は学修単位科目であり、自学自習が必要となる。 | | | | |
| 注意点 | ・本講義は、演習を通して環境建設工学に関する幅広い基礎と専門知識の修得と論理的記述力・プレゼンテーション力の向上を目指すものである。 | | | | |
| 授業の属性・履修上の区分 | | | | | |
| <input type="checkbox"/> アクティブラーニング | | <input type="checkbox"/> ICT 利用 | | <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 | |
| <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | |
| 授業計画 | | | | | |
| | | 週 | 授業内容 | 週ごとの到達目標 | |
| 前期 | 1stQ | 1週 | ガイダンス (原田健二1) | 前期のガイダンス (概要・達成目標・評価方法等) について理解できる。 | |
| | | 2週 | 技術士一次試験レベルの演習問題① (原田健二2) | 技術士一次試験レベルの問題 (基礎) の演習に取り組み、自己採点を行う。 | |
| | | 3週 | 技術士一次試験レベルの演習問題① (原田健二3) | 技術士一次試験レベルの問題 (適性) の演習に取り組み、自己採点を行う。 | |
| | | 4週 | 技術士一次試験レベルの演習問題① (原田健二4) | 技術士一次試験レベルの問題 (専門) の演習に取り組み、自己採点を行う。 | |
| | | 5週 | 技術士一次試験レベルの演習問題① (原田健二5) | 技術士一次試験レベルの問題 (基礎) の演習に取り組み、自己採点を行う。 | |
| | | 6週 | 技術士一次試験レベルの演習問題① (原田健二6) | 技術士一次試験レベルの問題 (適性) の演習に取り組み、自己採点を行う。 | |
| | | 7週 | 技術士一次試験レベルの演習問題① (原田健二7) | 技術士一次試験レベルの問題 (専門) の演習に取り組み、自己採点を行う。 | |
| | | 8週 | 技術士一次試験レベルの演習問題① (原田健二8) | 技術士一次試験レベルの問題 (基礎) の演習に取り組み、自己採点を行う。 | |
| | 2ndQ | 9週 | 技術士一次試験レベルの演習問題② (原田健二9) | 技術士一次試験レベルの問題 (適性) の演習に取り組み、自己採点を行う。 | |
| | | 10週 | 技術士一次試験レベルの演習問題② (原田健二10) | 技術士一次試験レベルの問題 (専門) の演習に取り組み、自己採点を行う。 | |
| | | 11週 | 技術士一次試験レベルの演習問題② (原田健二11) | 技術士一次試験レベルの問題 (基礎) の演習に取り組み、自己採点を行う。 | |
| | | 12週 | 技術士一次試験レベルの演習問題② (原田健二12) | 技術士一次試験レベルの問題 (適性) の演習に取り組み、自己採点を行う。 | |
| | | 13週 | 技術士一次試験レベルの演習問題② (原田健二13) | 技術士一次試験レベルの問題 (専門) の演習に取り組み、自己採点を行う。 | |
| | | 14週 | 技術士一次試験レベルの演習問題② (原田健二14) | 技術士一次試験レベルの問題 (基礎) の演習に取り組み、自己採点を行う。 | |
| | | 15週 | 技術士一次試験レベルの演習問題② (原田健二15) | 技術士一次試験レベルの問題 (適性) の演習に取り組み、自己採点を行う。 | |
| | | 16週 | 予備 | 予備 | |
| 後期 | 3rdQ | 1週 | ガイダンス (青木優介1) | 後期のガイダンス (概要・達成目標・評価方法等) | |

| | | | |
|------|-----|---------------------|--|
| 4thQ | 2週 | 研究論文作成演習（青木優介2） | 自らの研究をまとめたレポートを作成する。レポートは受講生間のピアレビューおよび特別研究の主査・副査によって査読する。 |
| | 3週 | 研究論文作成演習（青木優介3） | 自らの研究をまとめたレポートを作成する。レポートは受講生間のピアレビューおよび特別研究の主査・副査によって査読する。 |
| | 4週 | 研究論文作成演習（青木優介4） | 自らの研究をまとめたレポートを作成する。レポートは受講生間のピアレビューおよび特別研究の主査・副査によって査読する。 |
| | 5週 | 研究論文作成演習（青木優介5） | 自らの研究をまとめたレポートを作成する。レポートは受講生間のピアレビューおよび特別研究の主査・副査によって査読する。 |
| | 6週 | 研究論文作成演習（青木優介6） | 自らの研究をまとめたレポートを作成する。レポートは受講生間のピアレビューおよび特別研究の主査・副査によって査読する。 |
| | 7週 | 研究論文作成演習（青木優介7） | 自らの研究をまとめたレポートを作成する。レポートは受講生間のピアレビューおよび特別研究の主査・副査によって査読する。 |
| | 8週 | 研究論文作成演習（青木優介8） | 自らの研究をまとめたレポートを作成する。レポートは受講生間のピアレビューおよび特別研究の主査・副査によって査読する。 |
| | 9週 | プレゼンテーション演習（青木優介9） | 自らの研究内容についてプレゼンテーションを行い、受講生間のピアレビューによって研鑽する。 |
| | 10週 | プレゼンテーション演習（青木優介10） | 自らの研究内容についてプレゼンテーションを行い、受講生間のピアレビューによって研鑽する。 |
| | 11週 | プレゼンテーション演習（青木優介11） | 自らの研究内容についてプレゼンテーションを行い、受講生間のピアレビューによって研鑽する。 |
| | 12週 | プレゼンテーション演習（青木優介12） | 自らの研究内容についてプレゼンテーションを行い、受講生間のピアレビューによって研鑽する。 |
| | 13週 | プレゼンテーション演習（青木優介13） | 自らの研究内容についてプレゼンテーションを行い、受講生間のピアレビューによって研鑽する。 |
| | 14週 | プレゼンテーション演習（青木優介14） | 自らの研究内容についてプレゼンテーションを行い、受講生間のピアレビューによって研鑽する。 |
| | 15週 | プレゼンテーション演習（青木優介15） | 自らの研究内容についてプレゼンテーションを行い、受講生間のピアレビューによって研鑽する。 |
| | 16週 | 後期定期試験 | 実施しない。 |

評価割合

| | 試験 | 課題 | 合計 |
|---------|----|-----|-----|
| 総合評価割合 | 0 | 100 | 100 |
| 基礎的能力 | 0 | 0 | 0 |
| 専門的能力 | 0 | 100 | 100 |
| 分野横断的能力 | 0 | 0 | 0 |

| | | | | | | | |
|--|--|-----------------------------|------------------------------|-------------------------------|---------|-----|-----|
| 木更津工業高等専門学校 | 開講年度 | 令和05年度 (2023年度) | 授業科目 | 環境化学特論 | | | |
| 科目基礎情報 | | | | | | | |
| 科目番号 | K0601 | 科目区分 | 専門 / 必修選択 | | | | |
| 授業形態 | 講義 | 単位の種別と単位数 | 学修単位: 2 | | | | |
| 開設学科 | 環境建設工学専攻 | 対象学年 | 専2 | | | | |
| 開設期 | 前期 | 週時間数 | 2 | | | | |
| 教科書/教材 | 必要に応じて資料を配布 | | | | | | |
| 担当教員 | 佐久間 美紀 | | | | | | |
| 到達目標 | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 大気環境や水環境に概要について理解し、化学的視点から説明できる。 ・ 汚染物質の処理や廃棄物のリサイクルについて説明できる。 ・ 微量物質の環境に対する影響や、化学物質の計量法について理解できる。 | | | | | | | |
| ルーブリック | | | | | | | |
| | 理想的な到達レベルの目安 | 標準的な到達レベルの目安 | 未到達レベルの目安 | | | | |
| 評価項目1 | 地球環境問題について化学的視点から説明できる。 | 地球環境問題の種類と概要を言える。 | 地球環境問題の種類と概要を言えない。 | | | | |
| 評価項目2 | 環境汚染の浄化や廃棄物のリサイクルの方法および概要について理解し説明できる。 | 環境汚染の浄化や廃棄物のリサイクル方法の種類を言える。 | 環境汚染の浄化や廃棄物のリサイクル方法の種類を言えない。 | | | | |
| 評価項目3 | 微量汚染物質の測定・分析方法の種類や概要について理解し説明できる。 | 微量汚染物質の測定・分析方法の種類を言える。 | 微量汚染物質の測定・分析方法の種類を言えない。 | | | | |
| 学科の到達目標項目との関係 | | | | | | | |
| 専攻科課程 A-2 JABEE A-2 | | | | | | | |
| 教育方法等 | | | | | | | |
| 概要 | 環境に関連する分野は非常に広いが、大気環境や水環境を中心に化学的な視点から説明を行う。また、様々な微量物質の環境への影響とその分析・測定方法、リスク評価および管理についての説明を行う。 | | | | | | |
| 授業の進め方・方法 | 授業はパワーポイントを用いて講義形式が中心となり、試験は定期試験の1回のみ実施する。また、この科目は学修単位科目のため、事前・事後学習としてレポートと課題発表を各1～2回課すことがある。 | | | | | | |
| 注意点 | 講義内容や自分自身の研究と環境との係わりに関する調査やレポート課題等を課すので、積極的に取り組むこと。また、授業90分に対して参考図書や配布プリントを活用して90分以上の予習・復習を行うこと。 | | | | | | |
| 授業の属性・履修上の区分 | | | | | | | |
| <input type="checkbox"/> アクティブラーニング <input type="checkbox"/> ICT 利用 <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | | | |
| 授業計画 | | | | | | | |
| | | 週 | 授業内容 | 週ごとの到達目標 | | | |
| 前期 | 1stQ | 1週 | ガイダンス | | | | |
| | | 2週 | 地球環境と化学 | 地球環境問題の概要について説明できる | | | |
| | | 3週 | 大気環境① | 大気汚染の概要と大気汚染物質の化学的特性について理解できる | | | |
| | | 4週 | 水環境① | 水質汚濁の概要について理解できる | | | |
| | | 5週 | 水環境② | 酸性雨の概要について理解できる | | | |
| | | 6週 | 大気環境② | 悪臭物質と化学的特性について理解できる | | | |
| | | 7週 | まとめ | | | | |
| | | 8週 | 微量汚染物質の化学 | 環境汚染物質の概要について理解できる | | | |
| | 2ndQ | 9週 | 化学物質のリスク評価 | 環境物質のリスクやその評価について理解できる | | | |
| | | 10週 | 環境化学物質の計測法 | 主な環境汚染物質の測定法について説明できる | | | |
| | | 11週 | 廃棄物とリサイクル | 廃棄物の概要および現状とそのリサイクルについて理解できる | | | |
| | | 12週 | 環境とエネルギー | エネルギーの歴史と日本のエネルギーの将来について理解できる | | | |
| | | 13週 | 環境浄化技術 | 環境浄化技術について説明できる | | | |
| | | 14週 | まとめ | | | | |
| | | 15週 | 前期 定期試験 | | | | |
| | | 16週 | 定期試験の返却 | | | | |
| 評価割合 | | | | | | | |
| | 試験 | 課題・レポート等 | 相互評価 | 態度 | ポートフォリオ | その他 | 合計 |
| 総合評価割合 | 60 | 35 | 0 | 0 | 0 | 5 | 100 |
| 基礎的能力 | 60 | 35 | 0 | 0 | 0 | 5 | 100 |
| 専門的能力 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 分野横断的能力 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

| | | | | | | | |
|--|---|---------------------------------|---|------------------------------------|-----------|--|-----|
| 木更津工業高等専門学校 | | 開講年度 | 令和05年度 (2023年度) | 授業科目 | 技術英語 II | | |
| 科目基礎情報 | | | | | | | |
| 科目番号 | K0701 | | 科目区分 | 専門 / 必修 | | | |
| 授業形態 | 講義 | | 単位の種別と単位数 | 学修単位: 2 | | | |
| 開設学科 | 環境建設工学専攻 | | 対象学年 | 専2 | | | |
| 開設期 | 前期 | | 週時間数 | 2 | | | |
| 教科書/教材 | Basic English for Science (南雲堂) | | | | | | |
| 担当教員 | 石出 忠輝 | | | | | | |
| 到達目標 | | | | | | | |
| 1. 英語で書かれた科学・技術論文における特徴的な英語表現を理解し、専門分野に関する情報を英語で表現できる。 | | | | | | | |
| ルーブリック | | | | | | | |
| | 理想的な到達レベルの目安 | | 標準的な到達レベルの目安 | | 未到達レベルの目安 | | |
| 評価項目1 | 英語で書かれた科学・技術論文における特徴的な英語表現を理解し、専門分野に関する情報を英語で表現できる。 | | 語で書かれた科学・技術論文における特徴的な英語表現を理解できる。 | | 左記ができない。 | | |
| 学科の到達目標項目との関係 | | | | | | | |
| 専攻科課程 C-3 JABEE C-3 | | | | | | | |
| 教育方法等 | | | | | | | |
| 概要 | 本授業は、企業で航空機開発の業務を担当していた教員が、その経験を活かし、国際会議等における学術論文の作成及びプレゼンテーションに必要な実用的英語表現について講義形式で授業を行うものである。 | | | | | | |
| 授業の進め方・方法 | 教科書に沿って、英語による対話方式の講義を進めていく。 毎週、復習し、応用力を高めるための宿題を課す。 | | | | | | |
| 注意点 | インターネットやテレビ番組等を用いて英文コンテンツに毎日接し、英語に慣れることが肝要である。 授業で取り上げた英語表現を繰り返し音読し、日々の研究活動の中で積極的に取り入れていく姿勢が望まれる。 不明な点がないよう各自しっかり復習し、わからなければ随時質問に訪れること。 | | | | | | |
| 授業の属性・履修上の区分 | | | | | | | |
| <input type="checkbox"/> アクティブラーニング | | <input type="checkbox"/> ICT 利用 | | <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 | | <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | |
| 授業計画 | | | | | | | |
| | | 週 | 授業内容 | 週ごとの到達目標 | | | |
| 前期 | 1stQ | 1週 | Dimensions, Angles and Lines | 物体の形状や大きさ、様々な角度と線についての英語表現ができる。 | | | |
| | | 2週 | Basic Formulae | 基本的な数式の読み方を説明できる。 | | | |
| | | 3週 | More Complex Formulae | ギリシャ文字を含む複雑な式の読み方を説明できる。 | | | |
| | | 4週 | Position, Movements and Actions | 物の位置を表す前置詞、動作を表す動詞、方向を表す副詞句を説明できる。 | | | |
| | | 5週 | Qualities of Materials | 物質の性質を表す英語表現ができる。 | | | |
| | | 6週 | Classification, Definition and Description | 物質の分類、定義を表す英語表現ができる。 | | | |
| | | 7週 | More Description | 物の描写の英語表現ができる。 | | | |
| | | 8週 | Consolidation(1) | 第1～7週までの復習を行い、理解度を高める。 | | | |
| | 2ndQ | 9週 | Instructions and Explanations | 指示を与える動詞やプロセスの説明の仕方に関する英語表現ができる。 | | | |
| | | 10週 | Cause and Reason, and Similarity, Comparison and Contrast | 原因と結果、ものを比較・対照する英語表現ができる。 | | | |
| | | 11週 | Probable and Hypothetical Result, Possible Cause and Result | 結果を予想・仮定する英語表現ができる。 | | | |
| | | 12週 | Reporting Actions | 英文によるレポートの書き方を説明できる。 | | | |
| | | 13週 | Stating Conclusions, Describing an Experiment | 英文による結論の述べ方、実験内容の記述の仕方を説明できる。 | | | |
| | | 14週 | Stating Results | 英文による実験結果の述べ方を説明できる。 | | | |
| | | 15週 | Consolidation(2) | 第9～14週までの復習を行い、理解度を高める。 | | | |
| | | 16週 | | | | | |
| 評価割合 | | | | | | | |
| | 試験 | 発表 | 相互評価 | 態度 | ポートフォリオ | レポート | 合計 |
| 総合評価割合 | 30 | 0 | 0 | 0 | 0 | 70 | 100 |
| 基礎的能力 | 30 | 0 | 0 | 0 | 0 | 70 | 100 |
| 専門的能力 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 分野横断的能力 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

| | | | | |
|---|--|--|--|--|
| 木更津工業高等専門学校 | 開講年度 | 令和05年度 (2023年度) | 授業科目 | 磁性材料工学 |
| 科目基礎情報 | | | | |
| 科目番号 | K0901 | 科目区分 | 専門 / 必修選択 | |
| 授業形態 | 講義 | 単位の種別と単位数 | 学修単位: 2 | |
| 開設学科 | 環境建設工学専攻 | 対象学年 | 専2 | |
| 開設期 | 前期 | 週時間数 | 2 | |
| 教科書/教材 | 参考図書: 強磁性体の物理 (上・下)近角 聡信 (著) | | | |
| 担当教員 | 飯田 聡子 | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 磁気の根源を理解し、磁気に関する基本量および磁性体中での磁化について説明できる。 磁性体とその性質によって分類し、原子のスピンの状態により物質の磁気特性に違いが生じることを理解し説明できる。 応用面として、種々の磁性材料の特徴を理解し、それらが自分の研究分野においてどのような物に利用されているかを説明できる。 | | | | |
| ルーブリック | | | | |
| | 理想的な到達レベルの目安 | 標準的な到達レベルの目安 | 未到達レベルの目安 | |
| 評価項目1 | 磁気の根源を理解し、磁気に関する基本量および磁性体中での磁化について説明できる。 | 磁気の根源を知り、磁気に関する基本量および磁性体中での磁化について説明できる。 | 磁気の根源を知っているが、磁気に関する基本量および磁性体中での磁化について説明できない。 | |
| 評価項目2 | 磁性体とその性質によって分類し、原子のスピンの状態により物質の磁気特性に違いが生じることを理解し説明できる。 | 磁性体とその性質によって分類し、原子のスピンの状態により物質の磁気特性に違いが生じることを知っており説明できる。 | 磁性体とその性質によって分類し、原子のスピンの状態により物質の磁気特性に違いが生じることを知っているが説明できない。 | |
| 評価項目3 | 応用面として、種々の磁性材料の特徴を理解し、それらが自分の研究分野においてどのような物に利用されているかを説明できる。 | 応用面として、種々の磁性材料の特徴を知り、それらが自分の研究分野においてどのような物に利用されているかを説明できる。 | 応用面として、種々の磁性材料の特徴を知るが、それらが自分の研究分野においてどのような物に利用されているかを説明できない。 | |
| 学科の到達目標項目との関係 | | | | |
| 専攻科課程 B-3 JABEE B-3 | | | | |
| 教育方法等 | | | | |
| 概要 | 磁気の根源を理解し、磁気に関する基本量および磁性体中での磁化について学ぶ。 磁性体とその性質によって分類し、原子のスピンの状態により物質の磁気特性に違いが生じることを学ぶ。 応用面として、種々の磁性材料の特徴を理解し、それらが自分の研究分野においてどのような物に利用されているかを学ぶ。 | | | |
| 授業の進め方・方法 | 配布資料と板書を基に授業を進める。 | | | |
| 注意点 | 基礎から理解することが重要である。いろいろな磁性材料に興味を持ち、自分の専門分野でどのように応用されているのか、自分から調べてみるとよい。 各自の専門分野とは異なる場合も多いので、積極的に質問をし理解すること。 授業90分に対して参考図書などを活用して180分以上の予習・復習を行うこと。 | | | |
| 授業の属性・履修上の区分 | | | | |
| <input type="checkbox"/> アクティブラーニング <input type="checkbox"/> ICT 利用 <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | |
| 授業計画 | | | | |
| | 週 | 授業内容 | 週ごとの到達目標 | |
| 前期 | 1stQ | 1週 | ガイダンス | |
| | | 2週 | 磁性の基礎 | 電気と磁気の違いを学び、磁力線と磁束、磁極、磁気モーメントについて理解し説明できる。 |
| | | 3週 | 原子の磁性(1) | スピン角運動量と磁気モーメントの関係を理解できる。 |
| | | 4週 | 原子の磁性(2) | スピン磁気モーメントとボーア磁子を理解し、説明できる。 |
| | | 5週 | 原子の磁性(3) | 軌道磁気モーメントについて理解し説明できる。また、遷移元素が磁性を発現する理由を説明できる。 |
| | | 6週 | 原子の磁性(4) | ゼーマン効果、磁気共鳴、フントの法則、交換作用、超交換作用について理解できる。 |
| | | 7週 | 磁性の分類(1) | 磁性の違いによる物質 (常磁性・反磁性) の分類を理解し説明できる。 |
| | | 8週 | 磁性の分類(2) | 磁性の違いによる物質 (反強磁性・強磁性) の分類を理解し説明できる。 |
| | 2ndQ | 9週 | 強磁性特性(1) | 強磁性体の磁化曲線と磁化過程、磁壁、消磁について理解し説明できる。 |
| | | 10週 | 強磁性特性(2) | 磁性体中では磁化が生じること、および磁性体中の実効磁界、反磁界、実効透磁率について理解し説明できる。 |
| | | 11週 | 強磁性特性(3) | 硬磁性材料と軟磁性材料について磁気的特性を理解し、その応用原理を説明できる。 |
| | | 12週 | 磁性材料の応用(1) | 磁気センサなどについて知り、簡単な動作原理を説明できる。 |
| | | 13週 | 磁性材料の応用(2) | 磁性材料の応用例として、変圧器、モータ、磁気記録などについて知り、簡単な原理を説明できる。 |
| | | 14週 | 磁性材料の応用(3) | 自分の研究分野における磁性材料の応用例をレポートに纏め、説明できる。 |
| | | 15週 | 定期試験 | |
| | | 16週 | 試験返却・解説 | |

| 評価割合 | | | |
|---------|----|------|-----|
| | 試験 | レポート | 合計 |
| 総合評価割合 | 80 | 20 | 100 |
| 基礎的能力 | 0 | 0 | 0 |
| 専門的能力 | 80 | 20 | 100 |
| 分野横断的能力 | 0 | 0 | 0 |

| | | | | | |
|---|---|----------------------------|-----------------------------------|--|----------|
| 木更津工業高等専門学校 | | 開講年度 | 令和05年度 (2023年度) | 授業科目 | 地震防災工学通論 |
| 科目基礎情報 | | | | | |
| 科目番号 | K2001 | | 科目区分 | 専門 / 必修 | |
| 授業形態 | 講義 | | 単位の種別と単位数 | 学修単位: 2 | |
| 開設学科 | 環境建設工学専攻 | | 対象学年 | 専2 | |
| 開設期 | 後期 | | 週時間数 | 2 | |
| 教科書/教材 | 配布資料 | | | | |
| 担当教員 | 鬼塚 信弘 | | | | |
| 到達目標 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 地震の基礎知識を理解することができる。 地震防災の基礎知識を理解し、設定したテーマのレポートを作成することができる。 | | | | | |
| ルーブリック | | | | | |
| | 理想的な到達レベルの目安(優) | 標準的な到達レベルの目安(良) | 未到達レベルの目安(不可) | | |
| 評価項目1 | 地震防災工学に関する基礎知識を幅広く理解できる。 | 地震防災工学に関する基礎知識を理解できる。 | 地震防災工学に関する基礎知識を理解できない。 | | |
| 評価項目2 | 地震時の自主防災マップの作成方法の応用を習得できる。 | 地震時の自主防災マップの作成方法の応用を習得できる。 | 地震時の自主防災マップの作成方法を習得できない。 | | |
| 評価項目3 | 地震防災リーダーとしての資質を幅広く身に付けている。 | 地震防災リーダーとしての資質を身に付けている。 | 地震防災リーダーとしての資質を身に付けていない。 | | |
| 学科の到達目標項目との関係 | | | | | |
| 専攻科課程 B-3 JABEE B-3 | | | | | |
| 教育方法等 | | | | | |
| 概要 | 近年、世界各地で地震が多発し、特に環太平洋にある日本では4つのプレートがあり、大きな地震を引き起こす可能性が高くなっている。本講義では断層、地震動とがけ崩れ・地すべり、断層の変位、津波、液状化等について、被災状況の調査資料、ビデオなどを用いながら理解を深め、地震時の防災のあり方を学習する。本講義を通して、地域や家庭、職場での地震防災リーダーとしての資質を身に付けてもらうことを目標とする。 | | | | |
| 授業の進め方・方法 | 授業は配布資料に沿って行う講義形式で、毎授業時間内で課題、授業時間外でも課題を課す。授業内容・方法は地震と断層、地震動とがけ崩れ・地すべり、断層の変位、津波と地殻変動、液状化、地震発生に伴う火災、被災に遭った人々の心理、地震時の適切な避難方法と心構え、地震時の自主防災マップの作成の内容を講義を通して理解を深める。 | | | | |
| 注意点 | 地震、地震防災に関する話題はテレビやインターネット、新聞などにしばしば取り上げられているのでこれらの話題に関心を持つ同時に、図書館に揃えてある地震関連図書にも関心を持つ。授業90分に対して、配布資料やインターネット、新聞などを活用して180分以上の予習・復習を行うこと。 | | | | |
| 授業の属性・履修上の区分 | | | | | |
| <input type="checkbox"/> アクティブラーニング <input type="checkbox"/> ICT 利用 <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | |
| 授業計画 | | | | | |
| | | 週 | 授業内容 | 週ごとの到達目標 | |
| 後期 | 3rdQ | 1週 | ガイダンス | 地震防災工学通論の学際的な科目の位置付けと概要について理解できる。 | |
| | | 2週 | 地震と断層 | 地震と断層について理解できる。 | |
| | | 3週 | 地震動とがけ崩れ・地すべり | 地震動とがけ崩れ・地すべりについて理解できる。(MCC) | |
| | | 4週 | 断層の変位 | 断層の変位について理解できる。 | |
| | | 5週 | 津波と地殻変動 | 津波と地殻変動について理解できる。 | |
| | | 6週 | 液状化 | 液状化について理解できる。(MCC) | |
| | | 7週 | 地震発生に伴う火災 | 地震発生に伴う火災について理解できる。 | |
| | | 8週 | 被災に遭った人々の心理 | 被災に遭った人々の心理を理解できる。 | |
| | 4thQ | 9週 | 後期中間試験 | 後期中間試験までの学習内容を理解できる。 | |
| | | 10週 | 地震時の適切な避難方法と心構え 地震時の自主防災マップの作成 | 地震時の適切な避難方法と心構えを理解できる。地震を想定した自主防災マップの課題を提示する。(MCC) | |
| | | 11週 | 地震時の自主防災マップの作成 | 地震を想定した自主防災マップを作成できる。 | |
| | | 12週 | 地震時の自主防災マップの作成 | 地震を想定した自主防災マップを作成できる。 | |
| | | 13週 | 地震時の自主防災マップの作成 | 地震を想定した自主防災マップを作成できる。 | |
| | | 14週 | 地震時の自主防災マップの作成 | 地震を想定した自主防災マップを作成できる。 | |
| | | 15週 | 地震時の自主防災マップの作成 | 地震を想定した自主防災マップを作成できる。 | |
| | | 16週 | 後期定期試験 | 実施しない。 | |
| 評価割合 | | | | | |
| | | 試験 | 課題 | 合計 | |
| 総合評価割合 | | 40 | 60 | 100 | |
| 基礎的能力 | | 0 | 0 | 0 | |
| 専門的能力 | | 40 | 60 | 100 | |
| 分野横断的能力 | | 0 | 0 | 0 | |

| | | | | |
|---|---|--|--|--|
| 木更津工業高等専門学校 | 開講年度 | 令和05年度 (2023年度) | 授業科目 | 創造設計工学 |
| 科目基礎情報 | | | | |
| 科目番号 | K2101 | 科目区分 | 専門 / 必修選択 | |
| 授業形態 | 講義 | 単位の種別と単位数 | 学修単位: 2 | |
| 開設学科 | 環境建設工学専攻 | 対象学年 | 専2 | |
| 開設期 | 前期 | 週時間数 | 2 | |
| 教科書/教材 | 補助教科書: 上田正仁、「考える力」の鍛え方、PHP文庫、2017年、640円 (+税)、ISBN: 978-4-569-76688-1 | | | |
| 担当教員 | 関口 明生 | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 目的は、「自ら考え、創造する力」を本科目終了後も持続して培う人となることである。以下3点が必須の到達目標である。 1. 「問題を見つける力」を向上し、問題を自分なりに設定する手法を理解することができる。 2. 「解く力」を向上し、問題を解決するための手法を主体的に調べ解決へ導くことができる。 3. 「諦めない力」を向上し、問題解決に際し諦めず考え続けることについて必要性を理解し行動に移すことができる。 | | | | |
| ルーブリック | | | | |
| | 理想的な到達レベルの目安 | 標準的な到達レベルの目安 | 未到達レベルの目安 | |
| 問題を見つける力 | 問題の本質を自分なりに見つけ明確に設定することができ、その過程を主体的に研鑽できる。 | 問題を自分なりに設定する手法を理解することができる。 | 問題を自分なりに設定する手法を理解することができない。 | |
| 解く力 | 問題を解決するためにさまざまな手法を調べて応用することができ、その過程を主体的に研鑽できる。 | 問題を解決するための手法を、主体的に調べ解決へ導くことができる。 | 問題を解決するための手法を、主体的に調べ解決へ導くことができない。 | |
| 諦めない力 | 問題解決に際し諦めず考え続けることについて、強く意識せずとも行動に表すことができる。 | 問題解決に際し諦めず考え続けることについて、必要性を理解し、行動に移すことができる。 | 問題解決に際し諦めず考え続けることについて、必要性を理解しないか、行動に移すことができない。 | |
| 学科の到達目標項目との関係 | | | | |
| 専攻科課程 B-3 JABEE B-3 | | | | |
| 教育方法等 | | | | |
| 概要 | 戦前の哲学者である三木清は、著書「人生論ノート」において「生命とは虚無を掻き集める力である。それは虚無からの形成力である。」と「人間形成」の心得を記し、考えず学ばず主体性がない人の危うさを当時の日本に投げかけた。民主主義があり思想・良心の自由が保障され生活もはるかに豊かになった現代においてはそのような問題は払拭されたと、あなたは思うだろうか。本科目は「自ら考え、創造する力」を、各自の主体的学習を補助する形で、自ら培う訓練を行う。授業内容は基本的に答えのない問題を選定した。能動的な取り組みを真に期待する。 | | | |
| 授業の進め方・方法 | 本科目の目的は、「自ら考え、創造する力」を本科目終了後も持続して培う人となることである。その点ではすでに目的や到達目標を達成している人もいるかもしれないが、授業を通して何かしら新しい事柄や気づきがあるように授業内容を編成する。 ただし、この「自ら考え、創造する力」については、共通認識として確立された学問があるわけではなく、またそれを培うための方法論が確立されているわけでもない。これは、図書館やインターネットで少し調べれば即座にわかるであろう。 したがって本科目は、「考える力」や「創造する力」に対するマニュアルの事項については一部講義を行うが、基本的には対話を中心とした演習形式で進行する。全部で5つのケーススタディを予定しているが、授業時間外でも考えることができるように取り組む前の回で説明を行う。授業時間外でも継続して根気よく考える力を培うことを特に期待する。本科目の目的に対する達成度はマニュアル力を問う方法では評価できないため、試験は実施しない。総合評価はポートフォリオ（提出物・発表資料など）と態度（諦めない事や持続的に取り組むことを重視するために出席・遅刻等の状況を含む）と相互評価により行う。 | | | |
| 注意点 | 他の科目と同様に、授業内容を身につけて単位という第三者評価をもらうかどうかは一人一人の判断に委ねられており、教員はこれを支援することも強制することができない。たとえば、受動的な姿勢で取り組み、提出物や出席が芳しく無いと、標準的な到達レベルを満たしているとは評価できない。ケーススタディや課題に際して行き詰まった際には、悩み込んでいただけでは中八九進展しない。文献を調査する、クラスメイトや教員と情報交換する、常に考えながら別のことを行い発想を得る、などの対処を行うこと。 また、あまり探索をしないまま問題解決の答えが一つ見つかった際に、それを安直に最終的な答えとすること（局所解に陥ること）は避けるべきことである。最終結果に至るまでの取り組みも評価する。このため、レポートには最終的な解決法に至るまでに調べたことについても記載するよう注意すること。 | | | |
| 授業の属性・履修上の区分 | | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング | | <input type="checkbox"/> ICT 利用 | <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 | <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 |
| 授業計画 | | | | |
| | 週 | 授業内容 | 週ごとの到達目標 | |
| 前期 | 1stQ | 1週 | 履修ガイダンス Case study #1の説明 | <input type="checkbox"/> 技術を持つ者として、考える力の重要性を認識すると共に、考えて行動する意志がある。 |
| | | 2週 | 【Case study #1】 創造する私の設計「『創造する力』とは何か。強化する方法は何か。」をメタ思考する。 | <input type="checkbox"/> 個人で考え、チームで考え、問題に対する答えをまとめるように努力することができる。 |
| | | 3週 | Toolbox #1: 「考えの多様化・混沌化」、「類型・類語」、「巨人の肩の上」、「キュリオシティ・ドリブン」、「混沌を整理する」、など | <input type="checkbox"/> 一つの物事に対して図書館でとことん執拗に調べることができる。発表に向けて情報をまとめる際にチームに貢献できる。 |
| | | 4週 | チーム発表 #1 発表とチームワーキングの相互評価 Case study #2の説明 | <input type="checkbox"/> 他者の考えや取り組みを知り客観的に評価することにより、自身を振り返って評価することができる。 |
| | | 5週 | 【Case study #2】 「平面上の複数点列を短時間かつなめらかに通り部品をオンザフライ方式で運ぶための閉軌道の最適設計」を考える。 | <input type="checkbox"/> あるニーズに対して何が問題の本質でありどのような解決が必要か、考え・見抜き・調べる事ができる。 |

| | | | |
|------|-----|--|---|
| 2ndQ | 6週 | Toolbox #2: 「問題を見つける力」、「諦めず根気よく調べぬく力」、「局所解で満足しない意識」、「類型・類語」、など | <input type="checkbox"/> あるニーズに対して何が問題の本質でありどのような解決が必要か、考え・見抜き・調べ、解決方法を提案することができる。 |
| | 7週 | #2 提出レポートの相互評価 Case study #3の説明 | <input type="checkbox"/> 他者の考えや取り組みを知り客観的に評価することにより、自身を振り返って評価することができる。 |
| | 8週 | 【Case study #3】 「テープを一定速度および最短時間で送るシステムの概念設計と効果定量化」を考える。 | <input type="checkbox"/> 答えが論理的に導出可能と考えられる場合に、現在持っている分野横断的知識を使って問題を解くプロセスにおいて何が重要であるか、自分なりに考えることができる。 |
| | 9週 | Toolbox #3: 「問題を論理的に整理する力」、「単純化する力」、「みずから考え抜く力」、など #3 チームワーキングの相互評価 Case study #4の説明 | <input type="checkbox"/> 答えが論理的に導出可能と考えられる場合に、自らの考えで、チームによる問題解決に貢献することができる。 |
| | 10週 | 【Case study #4】 アイデアを発想する私の設計「アイデア発想とその方法」をメタ思考する。 | <input type="checkbox"/> 授業内容を活用する意志を持って、特許文献の読み方・書き方・調べ方を理解し、特許文献を調べる事ができる。TRIZ (トゥリーズ) の考え方を理解できる。 |
| | 11週 | Toolbox #4: 「特許の読み方・書き方・調べ方」、「類型」、「プリコラーシユ (物や技術の水平思考)」、など | <input type="checkbox"/> 自分の自由な発想・問題提起に基づいてたアイデアを、特許文献の書き方に沿って表現することができる。 |
| | 12週 | Case study #5の説明 | <input type="checkbox"/> 自分の自由な発想・問題提起に基づいてたアイデアを、特許文献の書き方に沿って表現することができる。 |
| | 13週 | 【Case study #5】 「部屋の入室・退室速度のリアルタイム測定法の設計」を考える。 | <input type="checkbox"/> あるニーズに対して何が問題の本質でありどのような解決が必要か、考え・見抜き・調べる事ができる。 |
| | 14週 | Toolbox #5: 「問題を論理的に整理する力」、「単純化する力」、「考え抜く力」、「諦めず根気よく調べぬく力」、「局所解で満足しない意識」、「類型・類語」、など | <input type="checkbox"/> あるニーズに対して何が問題の本質でありどのような解決が必要か、考え・見抜き・調べ、解決方法を提案することができる。 |
| | 15週 | #4 提出レポートの相互評価 #5 提出レポートの相互評価 | <input type="checkbox"/> 他者の考えや取り組みを知り客観的に評価することにより、自身を振り返って評価することができる。 |
| 16週 | | | |

評価割合

| | 試験 | 発表 | 相互評価 | 態度 | ポートフォリオ | その他 | 合計 |
|---------|----|----|------|----|---------|-----|-----|
| 総合評価割合 | 0 | 0 | 20 | 30 | 50 | 0 | 100 |
| 基礎的能力 | 0 | 0 | 0 | 30 | 0 | 0 | 30 |
| 専門的能力 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 分野横断的能力 | 0 | 0 | 20 | 0 | 50 | 0 | 70 |

| | | | | | | | |
|--|--|---|--------------------------------------|------------------------------------|---------|-----|-----|
| 木更津工業高等専門学校 | | 開講年度 | 令和05年度 (2023年度) | 授業科目 | 技術論 | | |
| 科目基礎情報 | | | | | | | |
| 科目番号 | K2401 | | 科目区分 | 専門 / 選択 | | | |
| 授業形態 | 演習 (オムニバス形式) | | 単位の種別と単位数 | 学修単位: 1 | | | |
| 開設学科 | 環境建設工学専攻 | | 対象学年 | 専2 | | | |
| 開設期 | 前期 | | 週時間数 | 1 | | | |
| 教科書/教材 | | | | | | | |
| 担当教員 | 鈴木 聡, 上村 繁樹, 能城 沙織 | | | | | | |
| 到達目標 | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 科学史についてその概要を理解し説明することができる。 ・ 技術開発や研究成果の権利化、知的財産権について修得する。 ・ 身近な環境問題についての認識を深め、科学的に環境を見る眼を修得する。 | | | | | | | |
| ルーブリック | | | | | | | |
| | 理想的な到達レベルの目安 | 標準的な到達レベルの目安 | 未到達レベルの目安 | | | | |
| 評価項目1 | 科学史についてその概要を理解し人に説明することができる。 | 科学史についてその概要を理解しある程度説明することができる。 | 科学史についてその概要を理解し説明することができない。 | | | | |
| 評価項目2 | 技術開発や研究成果の権利化、知的財産権について修得できる。 | 技術開発や研究成果の権利化、知的財産権についてある程度修得できる。 | 技術開発や研究成果の権利化、知的財産権について修得できない。 | | | | |
| 評価項目3 | 身近な環境問題についての認識を深め、科学的に環境を見る眼を修得できる。 | 身近な環境問題についての認識を深め、科学的に環境を見る眼をある程度修得できる。 | 身近な環境問題についての認識を深め、科学的に環境を見る眼を修得できない。 | | | | |
| 学科の到達目標項目との関係 | | | | | | | |
| 専攻科課程 A-2 専攻科課程 D-1 JABEE A-2 JABEE D-1 | | | | | | | |
| 教育方法等 | | | | | | | |
| 概要 | 世界における科学の発生過程を振り返り、技術と人のかかわり、発明と技術、知的所有権、失敗から学ぶ事例などを考察する。この科目は企業でシステムの設計開発を担当していた教員が、その経験を活かし、システム開発の設計と実装と評価について、演習形式で授業を行うものである。 | | | | | | |
| 授業の進め方・方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 技術論のガイダンス、各テーマの説明 ・ 科学とは何か、どのように歴史的に形成されたか ・ 発明と技術・知識の資産化について ・ 科学技術の安全性について考える ・ 座談会とアンケートの講義と演習を実施する。【オムニバス】 | | | | | | |
| 注意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 技術とは何か、モノ作りとは何か、技術と人間社会との係わり合いの視点から考察することを勧める。 ・ 科学技術が人間の生活を快適にすると共に、その負の側面にも目を向けて科学技術を洞察すること勧める。 | | | | | | |
| 授業の属性・履修上の区分 | | | | | | | |
| <input type="checkbox"/> アクティブラーニング | | <input type="checkbox"/> ICT 利用 | | <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | | | |
| 授業計画 | | | | | | | |
| | 週 | 授業内容 | 週ごとの到達目標 | | | | |
| 前期 | 1stQ | 1週 | ガイダンス | ガイダンスを理解できる。 | | | |
| | | 2週 | 科学の発展とその歴史 1 (能城沙織 1) | 科学の発展とその歴史 1が理解できる。 | | | |
| | | 3週 | 科学の発展とその歴史 2 (能城沙織 2) | 科学の発展とその歴史 2が理解できる | | | |
| | | 4週 | 科学の発展とその歴史 3 (能城沙織 3) | 科学の発展とその歴史 3が理解できる | | | |
| | | 5週 | 科学の発展とその歴史 4 (能城沙織 4) | 科学の発展とその歴史 4を理解し、全体の要旨をまとめることができる。 | | | |
| | | 6週 | 技術の発明と知的所有権1 (鈴木聡 1) | 技術の発明と知的所有権1が理解できる。 | | | |
| | | 7週 | 技術の発明と知的所有権2 (鈴木聡 2) | 技術の発明と知的所有権2が理解できる。 | | | |
| | | 8週 | 技術の発明と知的所有権3 (鈴木聡 3) | 技術の発明と知的所有権3が理解できる。 | | | |
| | 2ndQ | 9週 | 技術の発明と知的所有権4 (鈴木聡 4) | 技術の発明と知的所有権4が理解できる。 | | | |
| | | 10週 | 技術の発明と知的所有権5 (鈴木聡 5) | 技術の発明と知的所有権5が理解できる。 | | | |
| | | 11週 | 現在の社会問題を考察する1 (上村繁樹 1) | 現代の社会問題を技術的に考察するできる。 | | | |
| | | 12週 | 現在の社会問題を考察する2 (上村繁樹 2) | 現代の社会問題を技術的に考察するできる。 | | | |
| | | 13週 | 現在の社会問題を考察する3 (上村繁樹 3) | 現代の社会問題を技術的に考察するできる。 | | | |
| | | 14週 | 現在の社会問題を考察する4 (上村繁樹 4) | 現代の社会問題を技術的に考察するできる。 | | | |
| | | 15週 | 現在の社会問題を考察する5 (上村繁樹 5) | 現代社会の問題を技術的に考察でき、レポートにまとめることができる。 | | | |
| | | 16週 | | | | | |
| 評価割合 | | | | | | | |
| | 試験 | 発表 | 相互評価 | 態度 | ポートフォリオ | その他 | 合計 |
| 総合評価割合 | 90 | 0 | 0 | 0 | 10 | 0 | 100 |
| 基礎的能力 | 10 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 10 |
| 専門的能力 | 10 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 10 |
| 分野横断的能力 | 70 | 0 | 0 | 0 | 10 | 0 | 80 |